

伏見城跡・指月城跡 発掘調査報告書

2 0 2 6

株式会社 文化財サービス



1. 調査地上空から伏見城模擬天守方面を望む（南西から）



1. 堀 301・302 接合部の状況（北東から）



1. 堀302断面（北から）



2. 堀301断面（東から）



3. 堀埋土内金箔瓦出土状況



1. 出土金箔瓦

例 言

- 1 本書は、京都市伏見区桃山町立売 28 番、29 番で実施した、伏見城跡・指月城跡発掘調査報告書である。(京都市番号 24F457)
- 2 調査は、敷島住宅株式会社(代表取締役 川島永好)による宅地開発に伴い実施した。
- 3 現地調査は、開発原因者より株式会社文化財サービス(以下、「文化財サービス」という)に委託され、大西晃靖、菅田 薫(文化財サービス)が担当した。
- 4 調査期間は令和 7 年 6 月 5 日～7 月 28 日である。
- 5 調査面積は 118.8 m²である。
- 6 本文・図中で使用した地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺 1 : 2,500)「丹波橋」「中書島」を参考にし、作成した。
- 7 本文・図中の方位・座標は世界測地第 VI 系による。標高は T.P.(東京湾平均海面高度)である。なお、標高値は測地成果 2024 に基づく。
- 8 土層名および出土遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
- 9 遺構番号は通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、建物は別に番号を付した。
- 10 本書の執筆は大西が行い、編集は大西、興梠千春(文化財サービス)が行った。
- 11 現地での記録写真撮影は大西が行い、出土遺物の撮影は写房楠華堂(内田真紀子氏)に依頼した。
- 12 現地での重機掘削は株式会社一誠建設に委託した。
- 13 調査に係る資機材のリースおよび仮設工事は株式会社 Soid に委託した。
- 14 調査に係る資料は京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課(以下、「文化財保護課」という)が保管している。
- 15 発掘調査および整理作業の参加者は、下記の通りである。

〔発掘調査〕 田中慎一、小林一浩、上田智也、吉岡創平、清須慶太、松林茉侑
(以上、文化財サービス)、作業員(株式会社京カンリ)

〔整理作業〕 興梠千春、多賀摩耶、中 優作、野地ますみ、神野いくみ、後藤佳菜、
上野恵己、田頭 香、下市沙耶香、内牧明彦、溝川珠樹(以上、文化財サービス)
- 16 金箔瓦の蛍光 X 線分析は、北野信彦氏(龍谷大学)に依頼し、玉稿をいただいた。
- 17 出土遺物の年代観は、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第 12 号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019 年
日本中世土器研究会『新版 概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 2022 年
『平安京左京北辺四坊－第 2 分冊(公家町)－』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004 年
に依った。

18 現地調査、整理作業において、下記の方から御教示をいただいた。記して感謝いたします。

(敬称略)

中西祐樹 (京都先端科学大学)、中井 均・佐藤亜聖 (滋賀県立大学)、森島康雄・伊賀高弘 (公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)、南 孝雄・柏田有香・松吉祐希・西田倫子・渡邊都季哉 (公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所)、山口誠司 (公益財団法人滋賀県文化財保護協会)、浜中邦弘 (同志社大学)、馬瀬智光・鈴木久史 (京都市文化財保護課)、北野信彦 (龍谷大学)、鈴木久男 (京都産業大学)、宮崎雅充・西 悠太郎 (高島市教育委員会)、大島大直 (豊国神社)

目 次

第Ⅰ章 調査の経緯

1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	1
3 測量基準点の設置と地区割り	3
4 整理作業・報告書作成	3

第Ⅱ章 位置と環境

1 位置と環境	5
(1) 伏見城以前	5
(2) 伏見城期	5
(3) 伏見城廃城後	7
2 既往の調査	8
(1) 伏見城以前	8
(2) 伏見城期	8

第Ⅲ章 調査成果

1 基本層序	13
2 検出遺構	13
(1) 第1面の遺構	14
(2) 第2面の遺構	16
(3) 第3面の遺構	21
(4) 第4層掘削後	22
3 出土遺物	23
(1) 土器・陶磁器類	23
(2) 瓦類	27
(3) 木製品	33
(4) 金属製品	34

第Ⅳ章 まとめ

1 遺構の変遷	40
2 出土瓦	43

附章 指月伏見城跡出土金箔瓦の分析調査	47
---------------------	----

図版目次

- 巻頭図版 1 1. 調査地上空から伏見城模擬天守方面を望む（南西から）
- 巻頭図版 2 1. 堀 301・302 接合部の状況（北東から）
- 巻頭図版 3 1. 堀 302 断面（北から）
2. 堀 301 断面（東から）
3. 堀埋土内金箔瓦出土状況
- 巻頭図版 4 1. 出土金箔瓦
- 図版 1 調査区西壁断面図（1：100）
- 図版 2 調査区東壁断面図（1：100）
- 図版 3 調査区北・南壁断面図（1：100）
- 図版 4 第 1 面平面図（1：100）
- 図版 5 第 2 面平面図（1：100）
- 図版 6 第 3 面平面図（1：100）
- 図版 7 堀 301・302 平面図（1：100）
- 図版 8 堀 301・302 断面図 1（1：50）
- 図版 9 堀 301・302 断面図 2（1：50）
- 図版 10 遺構 1. 第 1 面全景（南から）
2. 第 1 面俯瞰（上が西）
- 図版 11 遺構 1. 調査区北部第 1 面柱穴群完掘状況（南西から）
2. 柱穴 35（東から）
3. 礎石 54（南西から）
4. 土坑 13・31（南東から）
5. 土坑 28・30・34・62・63（東から）
- 図版 12 遺構 1. 第 2 面全景（南から）
2. 第 2 面俯瞰（上が西）
- 図版 13 遺構 1. 調査区北部第 2 面柱穴群完掘状況（東から）
2. 調査区中央第 2 面柱穴群完掘状況（東から）
3. 土坑 107（南西から）
- 図版 14 遺構 1. 第 3 面全景（南から）
2. 第 3 面俯瞰（上が西）
- 図版 15 遺構 1. ピット 201・202・203（東から）
2. 土坑 204・205（東から）
- 図版 16 遺構 1. 堀埋土断割り後全景 1（南から）
2. 堀埋土断割り後全景 2（南東から）
- 図版 17 遺構 1. 調査区南壁断面（北から）
2. 調査区南半東壁断面（西から）
- 図版 18 遺構 1. 調査区南半西壁断面（東から）
2. 調査区西壁断面（堀 301・302 接合地点 東から）

- 図版 19 遺物 1. 出土遺物 1 (土師器、緑釉陶器)
2. 出土遺物 2 (染付)
3. 出土遺物 3 (土師器)
4. 出土遺物 4 (唐津、志野)
- 図版 20 遺物 1. 出土遺物 5 (瓦質土器)
2. 出土遺物 6 (焼締陶器)
3. 出土遺物 7 (土師器、施釉陶器、焼締陶器、土製品)
- 図版 21 遺物 1. 出土遺物 8 (金箔瓦 1)
- 図版 22 遺物 1. 出土遺物 9 (金箔瓦 2)
- 図版 23 遺物 1. 出土遺物 10 (金箔瓦 3)
- 図版 24 遺物 1. 出土遺物 11 (金箔瓦 4)
- 図版 25 遺物 1. 出土遺物 12 (軒丸瓦、道具瓦)
2. 出土遺物 13 (軒丸瓦)
3. 出土遺物 14 (面戸瓦)
4. 出土遺物 15 (軒平瓦)
- 図版 26 遺物 1. 出土遺物 16 (軒棧瓦、軒平瓦)
2. 出土遺物 17 (金属製品)
3. 出土遺物 18 (漆器)
4. 出土遺物 19 (木製品)

挿図目次

図 1	調査地位置図 (1 : 2,500).....	1
図 2	調査経過写真	2
図 3	調査区割・基準点配置図 (1 : 150)	4
図 4	調査地周辺図 (1 : 20,000)	6
図 5	天明八年「伏見御城郭并屋敷取之絵図」.....	7
図 6	既往調査位置図 (1 : 5,000).....	9
図 7	柱穴 35、土坑 13・28・30・31・34・62・63 平面断面図 (1 : 50)	15
図 8	建物 1 平面断面図 (1 : 50)	17
図 9	建物 2 平面断面図 (1 : 50)	18
図 10	土坑 107・135・137・157・162・163 平面断面図 (1 : 50)	20
図 11	土坑 204・205 平面断面図 (1 : 50)	21
図 12	出土遺物 1 (1 : 4)	24
図 13	出土遺物 2 (1 : 4)	28
図 14	出土遺物 3 (1 : 4)	29
図 15	出土遺物 4 (1 : 4)	30
図 16	出土遺物 5 (1 : 4)	32

図17	出土遺物6 (1:2、1:4)	34
図18	指月城堀推定復元図 (1:2,000)	41
図19	豊国神社所蔵文字瓦	45

表目次

表1	既往調査一覧表	10
表2	遺構概要表	13
表3	遺物概要表	23
表4	丸・平瓦構成表	33
表5	土器・陶磁器類観察表	35
表6	瓦観察表	36
表7	木製品観察表	39
表8	金属製品観察表	39
表9	堀埋土、第4層、整地208出土軒瓦・道具瓦構成表	44

第 I 章 調査の経緯

1 調査に至る経緯（図1）

京都市伏見区桃山町立売28番、29番で敷島住宅株式会社（以下、「敷島住宅」という）による宅地開発が計画された。開発予定地は伏見城跡・指月城跡にあたることから、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）による試掘調査が実施された。その結果、安土桃山～江戸時代の遺構面が複数確認され、その下位には堀の埋土とみられる堆積土も確認されたことから、開発原因者である敷島住宅に対し発掘調査が指導された。発掘調査は敷島住宅から文化財サービスに委託された。調査面積は118.8㎡である。

2 調査の経過（図2）

調査は、令和7年6月5日から開始し、資機材の搬入から行った。文化財保護課による調査区設定状況の確認後、6月9日より重機による第1層の掘削を開始した。現地盤から0.2～0.7m掘り下げた段階で褐色泥砂による整地層（第2層）を検出し、その上面を第1面とした。以深は、第3層上面を第2面、第4層上面を第3面として調査を行い、各面で図面作成・写真撮影による記録作業を実施した。

第3面記録作業の終了後、北・西壁沿いに断割りを入れ下層確認を行った結果、調査区全域に堀埋土とみられる水分を含んだシルト質の土が堆積する状況を確認した。堀の底面や埋土の堆積状況を確認するため調査区南半を中心に堀埋土検出面から約2m掘り下げたが、今回の調査では堀底を検出す

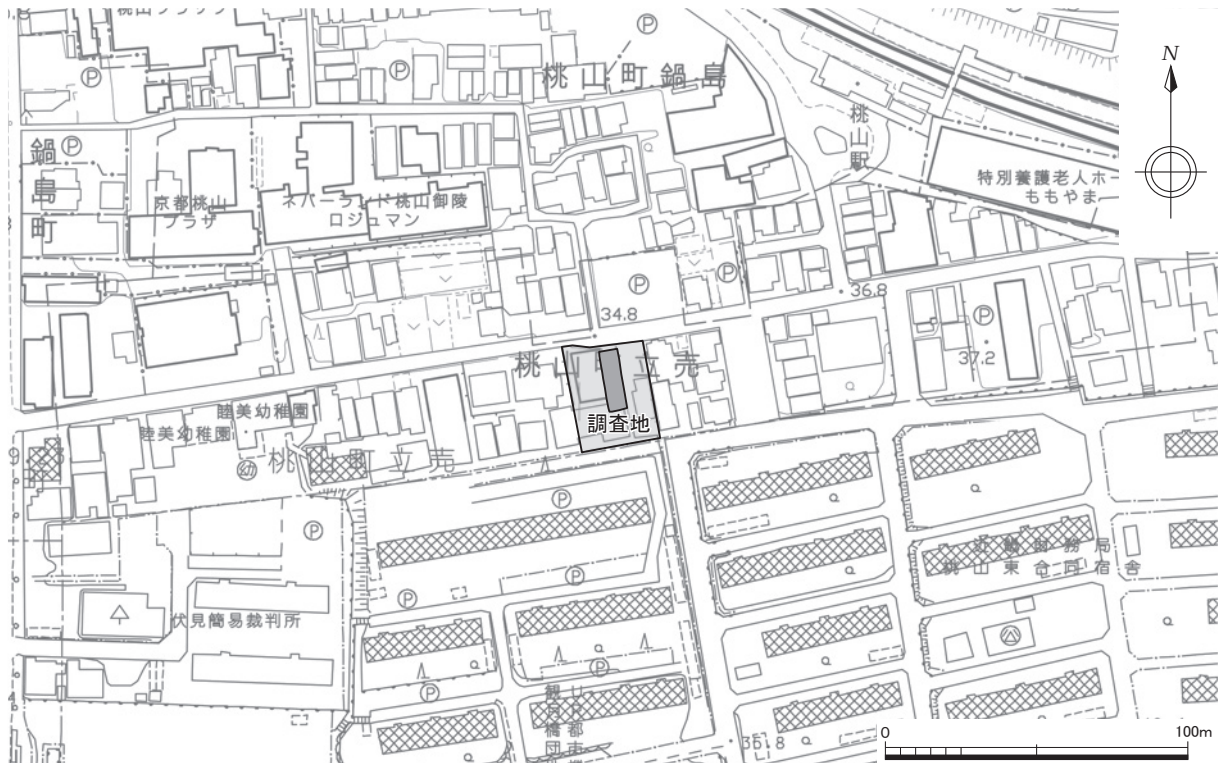


図1 調査地位置図（1：2,500）



1. 調査前状況（南から）



2. 重機掘削作業（北東から）



3. 第1面遺構検出作業（南から）



4. 堀埋土断割り後壁面清掃作業（南東から）



5. 堀接合部調査状況（北東から）



6. 検証審査員による視察



7. 調査区埋戻し（北東から）



8. 調査終了後の状況（南から）

図2 調査経過写真

ることはできなかった。堀埋土掘り下げ時には安全面を考慮し調査区壁面に沿って小段を設けた。

周辺調査で検出された指月城北堀南肩と内堀西肩が本調査区まで延長するかを確認するため、調査区西壁沿いに設けた小段を掘り下げたところ、西壁断面で地山を掘り込んだ状況を確認した。石垣や裏込めは残されていないが、地山掘り込みの検出位置は既往調査で確認された堀肩ラインの延長線上とほぼ一致しており、検出した地山の掘り込みは北堀・内堀肩ラインの延長で、それらの接合部を検出したものと考えた。

すべての記録作業が終了した段階で埋戻しを行い、資機材を撤収して7月28日に現地調査を終了した。

なお、写真撮影機材は、35mmフルサイズの一眼レフデジタルカメラ、35mm白黒フィルムおよびカラーリバーサルフィルムを使用し、図面作成には手測りによる実測、トータルステーションによる図化、写真測量を併用した。

現地調査においては、適宜、文化財保護課の検査および指導を受けた。また、7月17日に本調査の検証審査員である中西祐樹氏の現地視察・検証を受け、調査に対する助言を頂いた。

3 測量基準点の設置と地区割り（図3）

測量基準点は、VRS測量により調査地敷地内にO. 1、O. 2を設置し、その2点からトータルステーションによりO. 3を計測した。基準点測量の成果は以下の通りである。

O. 1 X = -118,497.120 m Y = -20,982.557 m H = 35.645 m

O. 2 X = -118,479.166 m Y = -20,994.567 m H = 35.296 m

O. 3 X = -118,476.420 m Y = -20,992.156 m H = 34.843 m

検出遺構および出土遺物の管理のため、調査区に対して3mグリッドを設定した。Y軸にアラビア数字を西から東に、X軸にアルファベットを北から南に順に付し、両者の組み合わせで地区名とした。

4 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真、図面の整理と出土遺物の整理を並行して実施した。遺物の整理は洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った。報告書の執筆は調査を担当した大西、編集作業は大西・興梠千春が担当し、その他整理作業は当社社員が分担して行った。

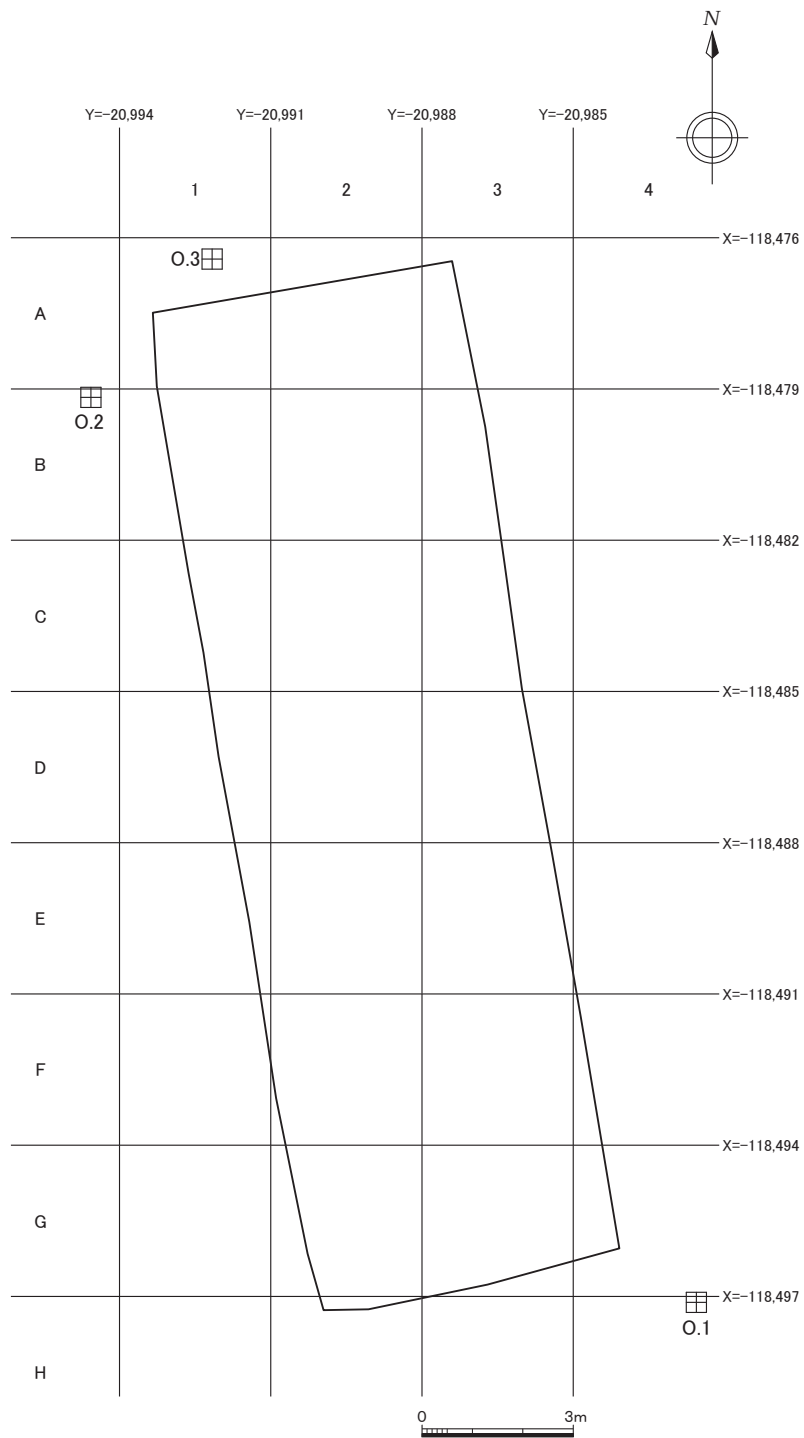


図3 調査区割・基準点配置図 (1 : 150)

第Ⅱ章 位置と環境

1 位置と環境（図4・5）

調査地は立売通の南側に面し、伏見城跡・指月城跡に比定される。当地は桃山丘陵の南端に位置し、古くから指月の丘と呼ばれる観月の名所であった。南には宇治川が西流し、その南にはかつて巨椋池が存在したが、昭和8～16年にかけて実施された干拓事業により水田地帯へと姿を変えた。西には国道24号線が南北に延び、さらに西側には伏見城造営に伴って整備された城下町の長方形の街区が形成されている。

（1）伏見城以前

調査地から約450m北西に位置する御香宮神社付近には、縄文土器の散布地として知られる金森出雲遺跡が存在する。調査地から約200m南に位置する泰長老遺跡では貝層が確認されているが、その詳細については不明となっている。調査地の約350m南西に位置する桃陵遺跡では、弥生時代中期の方形周溝墓や集落に伴う溝が検出されており、埴輪片の出土もみられる。

古代においては、創建時期は不明であるが、現在の御香宮神社の場所に御香宮廢寺が建てられていたとされる。御香宮廢寺についての詳細は不明であるが、山背（山城）国紀伊郡の豪族であった紀氏の氏寺である「隆城寺（紀寺）」がこれにあたと推定されている。

平安時代中期には藤原頼通の息子で『作庭記』を著した橘俊綱が、指月の丘に伏見山莊を造営した。指月の丘は「宵の天空に光る月」「宇治川の川面に映る月」「巨椋池に揺れる月」「盃に浮かぶ月」の4つの月を眺めることができる景勝地とされ、伏見山莊の庭園は造作の見事さを謳われていた。俊綱没後、伏見山莊は白河上皇に寄進され、その後、後白河上皇による整備が行われ船津御所、伏見離宮と称された。後に北朝の崇光天皇の子である栄仁親王の伏見殿となり、以後栄仁親王の子孫は伏見宮家と称されることになる。

室町時代後期から戦国時代には、伏見の地も騒乱に巻き込まれていき、各地に城郭や居館が築かれていく。調査地周辺では、御香宮神社の東の桃山町松平筑前において幅2m程度の濠やそれに伴う土塁状の高まり、柱穴列が検出された。これらは、足利義昭の家臣であった三淵藤英が構えた伏見城の遺構である可能性が指摘されている。

（2）伏見城期

伏見城は、豊臣秀吉が隠居所として指月の丘に屋敷を建造したことに始まり、本格的な城郭へと改築される。伏見城造営に伴い周辺は大規模な造成や河川の付け替えなどが行われ、伏見の地は大きな変貌を遂げた。伏見城は、隠居所としての造営から廢城に至るまで、大きく4時期に区分される。

第1期：指月屋敷期

文禄元年（1592）、秀吉は甥の豊臣秀次に関白職を譲り、指月の丘に隠居屋敷を建造した。

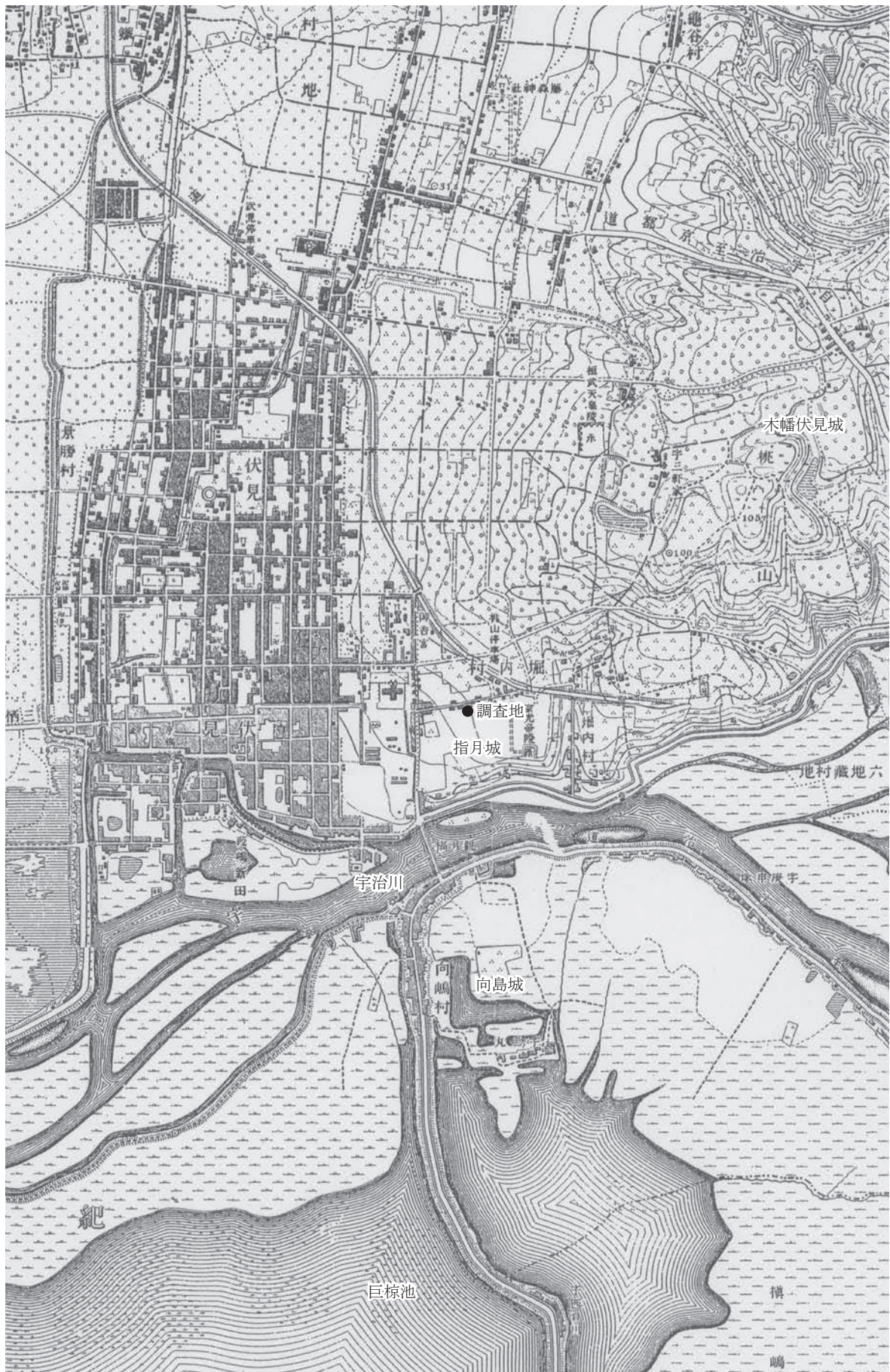


図4 調査地周辺図（「仮製二万分一地形図」11伏見、12淀
（陸軍参謀本部陸地測量部 明治22年）を合成し加筆 1：20,000）

第2期：指月伏見城期

文禄3年(1594)正月に、秀吉は指月屋敷を本格的な城に改めることを決定した。同年3月に淀城(淀古城)を廃城とし、その天守や櫓などを伏見に移築した。城の周囲には惣構堀が開削され、大名屋敷の造営も行われた。それに並行して宇治川の築堤工事や付け替え工事も行い、伏見を水運・陸上交通の拠点として整備していった。また、文禄4年(1595)に後継者とした秀次に切腹に追い込み、秀次に譲った聚楽第を破却した後、その部材を伏見に運び再利用している。

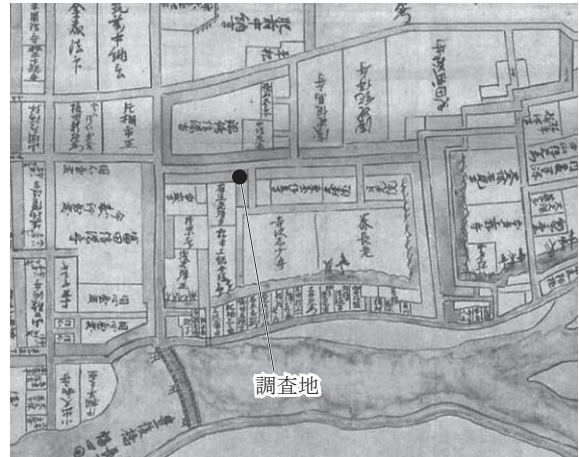


図5 天明八年「伏見御城郭并屋敷取之絵図」
(京都市歴史資料館蔵) 調査地周辺部分

本格的な城として整備がすすめられた指月城

であったが、文禄5年(1596)閏7月13日に発生した慶長伏見地震により倒壊してしまう。

第3期：木幡山伏見城期(豊臣期)

慶長伏見地震により指月城が倒壊した翌日には、秀吉は指月より北東にある木幡山に城を再建するよう命じ、築城に着手する。その際、指月城の部材は木幡山伏見城に再利用された。指月城の跡地は大名屋敷や町家として整備された。同年10月に本丸普請が終わり、翌慶長2年(1597)には天守が完成する。秀吉は完成した新城に移り、以後、慶長3年(1598)8月に没するまでここで過ごすことになる。

秀吉没後は、徳川家康が秀頼の大老という名目で伏見城に入り、実質的に家康の居城となる。慶長5年(1600)には関ヶ原の戦いの前哨戦の舞台となる。籠城していた家康家臣の鳥居元忠らが石田三成ら西軍の攻撃を受け、抗戦の末落城し、城は焼失した。

第4期：木幡山伏見城期(徳川期)

関ヶ原の戦いに勝利した家康は、伏見城の再建に着手した。天守の位置は変更され、大名屋敷の配置も一部変更されている。慶長8年(1603)に家康は伏見城で征夷大將軍の宣下を受け、將軍在任期間中は江戸城よりも伏見城に在住することが多かった。息子の秀忠に將軍職を譲り、その宣下が行われたのも伏見城でのことである。

元和5年(1619)、秀忠は京都における拠点を二条城に一元化することとし、元和9年(1623)に秀忠の息子家光が3代將軍の宣下を伏見城で受けた後、伏見城は廃城となった。伏見城の天守は二条城に移築され、石垣に用いられていた石材は淀城で再利用された。豊国神社(京都市東山区)唐門、福山城(広島県福山市)伏見櫓などは伏見城から移築された建築物といわれる。

(3) 伏見城廃城後

廃城後、伏見城や大名屋敷があった南・西面の斜面地には桃樹が植えられ、周囲一帯は桃山と呼ばれる。現在の西奉行町には伏見奉行所が置かれ、新たに伏見の中心として発展していくことに

なった。調査地である指月城跡では、桃山町立売付近において花卉の早生栽培が盛んであったことが『捨遣都名所図会』（天明7年）の「巻之四前朱雀」にある。また、近世後期に泰長老が伏見で打ち上げられる花火の見物場所となっていたらしく、嘉永5年（1852）の花火に際して堀内村の地主と露天商らが土地の賃借について遣り取りした文書が残る（吉村家文書7329-491）。慶応4年（1868）の鳥羽・伏見の戦いでは、伏見奉行所に幕府軍が、御香宮付近に薩摩・長州軍がそれぞれ布陣し、伏見の町で激戦が繰り広げられた。

近代には伏見奉行所跡に陸軍第十六師団工兵第十六大隊が置かれ、指月城跡はその東練兵所となり陣地構築の教練が行われている。

参考文献

『伏見城跡立入調査報告』大阪歴史学会 2022年

日本史研究会編『豊臣秀吉と京都 聚楽第・御土居と伏見城』文理閣 2001年

新田和央「1. 遺跡と立地環境」『指月城跡・伏見城跡 発掘調査総括報告書』京都市文化市民局 2021年

『天下人の城〔改版〕』京都市文化財ブックス第31集 京都市文化市民局 2023年

前田義明「伏見城の造営」『研究紀要』第6号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年

2 既往の調査（図6）

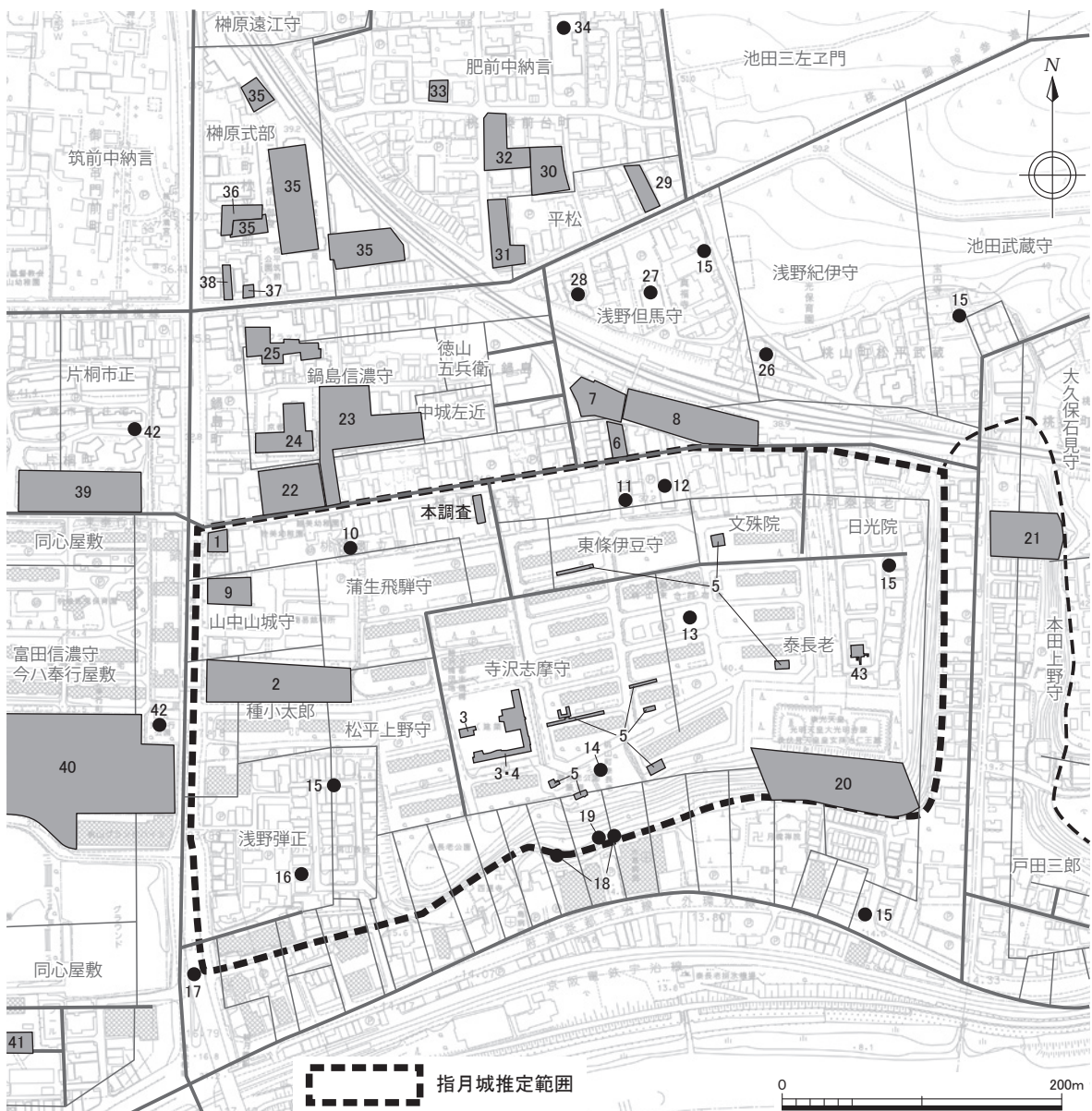
（1）伏見城以前

国道24号線西側の西奉行町・東奉行町で行われた調査40では、縄文時代後期の深鉢片が出土した。同調査では、弥生時代中期のピット・土坑・溝なども検出されている。桃山町泰長老内の調査14では、陸軍工兵隊の演習塹壕内にてタニシなどを含む貝層と古墳時代須恵器片が不時発見された。桃山町鍋島で実施された調査24では、出土遺物に円筒埴輪片が確認された。桃山町松平筑前で行われた調査36では、奈良時代～平安時代の掘立柱建物・溝・井戸などが検出され、これらは御香宮廃寺に関連する遺構とみられている。また、この調査では、室町時代の濠や土塁状の高まりが検出され、これらは三淵藤英が構えた伏見城の遺構である可能性が指摘されている。

（2）伏見城期

調査1では地表下約1.6mで北面及び西面する石垣が検出され、指月城北西角部を検出したものと推定された。北面石垣は調査区東部では確認されなかったが、これは櫓の構築などにより堀幅が異なる、最下段まで石垣が壊されたなどが要因として考えられている。また、調査区北側では堀埋土の堆積が確認されている。国道24号線新観月橋橋脚設置工事に伴い実施された調査17では、南北方向の石垣及び旧路面や金箔瓦を含む土坑も検出された。調査2では調査地東部で東面する石垣と堀が検出された。石垣は上部が欠落しているが非常に良好な状態であり、最大高は約2.8mを測る。調査3では、西面石垣・東面石垣と南北方向の堀が検出された。その追加調査である調査4により、東面石垣が指月城期に属し、西面石垣は木幡山伏見城期に東面石垣及び堀を埋めた後に構築されたものと想定された。立売通の北側で行われた調査6では、焼土層を挟んで安土桃山時代の

2面の遺構面が検出され、その下位には水分の多いシルトを含んだ落ち込みが確認された。この落ち込みは検出面から1.5m掘り下げても底面が確認できず、埋土には金箔瓦も含まれることから、指月城北堀の北肩が検出された可能性がある。桃山町臺長老で行われた調査5では、南西側の調査区で大規模な地山の落ち込みとそれを埋めた木幡山伏見城期の造成土が確認された。この地山の落ち込みは、調査3・4で検出された南北堀の東西面ではないかと想定されている。丘陵南斜面地の南端で行われた調査19では、南面する石垣や石垣の裏込めが検出された。指月城推定範囲南西に位置する大光明寺陵の南側斜面では地形測量が実施され（調査20）、平坦面・豎堀・犬走・通路などが確認された。遺構には2時期の変遷が認められ、当初は4箇所を平坦面が連なった一つの帯曲輪と上



・京都市文化財ブックス第31集『天下人の城【改版】』京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 2023年、渡邊都季哉『伏見城跡』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2022年を参考に作成

図6 既往調査位置図（1：5,000）

部に並行する犬走及びそれらを繋ぐ通路が造られ、次いで帯曲輪に直交して分断する堅堀を設け防御性を高めたことが確認された。当初の遺構は指月屋敷、後の遺構は指月城への改修に伴うものと想定されている。指月城本丸付近に想定されている地点で実施された調査43では、指月伏見城期とみられる建物跡・柱列が初めて検出された。建物跡は地下式礎石が用いられ、主要な建物や望楼などの一部の可能性がある。この調査では金箔瓦も出土している。J R 桃山駅前で行われた調査7では、指月伏見城期の石垣基礎・階段、木幡山伏見城期の石垣・路面・門などが検出された。それまでの指月城推定範囲から北側に外れた位置で指月城期の石垣基礎が検出されたことから、指月城北限の縄張りについて再考する必要性が指摘された。調査7の南東で行われた調査8では、立売通に面した町家、武家屋敷と町家の境界を示す段差、立売通路路面と北側溝などが検出され、慶長10年（1605）の火災面が確認された。伏見城の造営に伴い周辺では大規模な造成が行われており、調査23・24・28・32などでは造成土の堆積が確認されている。

表1 既往調査一覧表

	調査位置 (京都市伏見区)	調査 方法	調査成果概要	掲載文献
1	鍋島町	詳細	北・西に面を持つ指月城期とみられる石垣の北西角を検出。	山本雅和「伏見城跡(09F133)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
2	桃山町泰長老	発掘	指月城期とみられる東面石垣・堀を検出。	吉川義彦『伏見城跡発掘調査報告』関西文化財調査会 2020年
3	桃山町泰長老	発掘	西面する石垣（東側石垣）と東面する石垣（西側石垣）の2時期の石垣・堀を検出。	小森俊寛『伏見城跡・指月城跡－平成27年度発掘調査報告書－』有限会社京都平安文化財 2021年
4	桃山町泰長老	詳細	3の補足調査。西側石垣の裏込めを検出。西側石垣の上面が造成土に覆われること、東側石垣を構築するための造成土内に金箔瓦が含まれることなどを確認。	奥井智子「IV-5 伏見城跡・指月城跡(14F529)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
5	桃山町泰長老	発掘	伏見城期の石垣・盛土を検出。表面探査により堀状の落ち込みを確認。	馬瀬智光・熊谷舞子・新田和央・北野信彦・古川 匠『指月城跡・伏見城跡 発掘調査総括報告書』京都市文化市民局 2021年
6	桃山町立売	発掘	焼土層を挟んで2面の桃山時代の遺構面を検出。築地状遺構を境に南北で様相が異なる。2面目下層で大規模な落ち込みを確認。検出面より約1.5m掘り下げたが底面は検出せず。堆積土は水分の多いシルト質で、桃山時代に埋没する。この堆積土は堀埋土の可能性はある。	小森俊寛「伏見城下町」『昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1991年
7	桃山町鍋島他	発掘	指月城期に関わると考えられる石垣基礎・階段を検出。浅野但馬守の屋敷と考えられる石垣・門跡を検出。	渡邊都季哉『伏見城跡』埋文研 2022年
8	桃山町立売	発掘	安土桃山～江戸時代の立売通路路面と北側溝、立売通に面した町家、町家と武家屋敷（浅野但馬守）の境界を示す段差を確認。町家は火災により焼失。	桜井みどり・南 孝雄「伏見城跡」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2002年
9	桃山町泰長老	試掘	石垣の裏込めと考えられる石材と整地層を検出。	「発掘調査一覧表 No.22」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
		詳細 分布	上記の補足調査。2面の遺構面を確認。各面で成立する土坑を確認。	「調査一覧表 14F193」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
10	桃山町立売	立会	地表下1.2mで盛土、1.7mで地山を確認。	未報告
11	桃山町立売	立会	表土下0.5mにて江戸時代初期の包含層、0.6mにて土坑4基（桃山～江戸）を検出。	「発掘調査一覧表 No.28」『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年

	調査位置 (京都市伏見区)	調査 方法	調査成果概要	掲載文献
12	桃山町立売	試掘	表土下 1.0 mにて江戸時代後期の東西溝 1 条、桃山時代の土坑 4 基、江戸時代の土坑 6 基を検出。	「発掘調査一覧表 No.20」『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和 56 年度』京都市文化観光局 1982 年
13	桃山町泰長老	立会	表土下 0.71 mにて時期不明の包含層、1.05 mにて桃山時代の瓦を含む土坑状落ち込みを検出。	「発掘調査一覧表 No.17」『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和 56 年度』京都市文化観光局 1982 年
14	桃山町泰長老	不時 発見	陸軍工兵隊の演習塹壕内にて、貝層と須恵器片を確認。	星野猷二・三木善則『器瓦録想 其の二 伏見城』伏見城研究会 2006 年
15	桃山町泰長老他	立会	舟入に関する湿潤な堆積、包含層と地山を確認。	吉村正親『伏見城跡』『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994 年
16	桃山町泰長老	詳細 分布	表土下 0.8 mにて検出した土坑から平安時代末～鎌倉時代の土器が出土。	清水早織「V-4 伏見城跡・指月城跡(19F349)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局 2020 年
17	豊後橋町	発掘	南北方向の石垣及び旧路面、金箔瓦を含む土坑を検出。	鈴木重治編『伏見豊後橋北詰の調査』伏見城研究会 1975 年
18	桃山町泰長老	詳細 分布	金箔瓦を含む土坑を検出。	熊谷舞子「IV-6 伏見城跡・指月城跡(14F018)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成 27 年度』京都市文化市民局 2016 年
19	桃山町泰長老	詳細 分布	西側調査区で石垣を検出。	熊谷舞子・清水早織「IV-6 伏見城跡(16F158)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成 29 年度』京都市文化市民局 2018 年
20	桃山町泰長老	測量	大光明寺陵南側の斜面を測量。豎堀状地形を確認。	清喜裕二・有馬 伸・横田真吾「光明天皇ほか 大光明寺陵の外形調査」『書陵部紀要第 69 号〔陵墓編〕』宮内庁書陵部 2018 年
21	桃山町本田上野	試掘	濠状遺構及び斜面の郭、造成過程を確認。	馬瀬智光「V-7 伏見城跡 No.106」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 24 年度』京都市文化市民局 2013 年
22	桃山町立売	試掘	調査区南端で伏見城期の町家と武家屋敷を区切る段差を確認。江戸時代後期に段差が削平され、造成し直される。	「試掘調査一覧表 No.100」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 27 年度』京都市文化市民局 2016 年
23	桃山町立売	試掘	伏見城期の造成土、東西方向の礫充填溝 3 条を検出。	馬瀬智光「V-2 伏見城跡 No.13」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 18 年度』京都市文化市民局 2007 年
24	桃山町鍋島	発掘	表土下 0.3 mで伏見城期の整地層。整地層の厚さは約 1.7 m。表土下約 2.0 mで室町時代前期の遺構面。出土遺物に円筒埴輪片あり。	「伏見城 1」『昭和 53 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2011 年
25	桃山町鍋島	発掘	安土桃山時代の 2 時期の遺構面と掘立柱建物 5 棟などを検出。武家屋敷(鍋島信濃守)の一部か。	田邊一元編『伏見城跡-集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 イビソク京都市内遺跡調査報告第 9 輯』株式会社イビソク 2014 年
26	桃山町松平武蔵	試掘	表土下 0.78 mで安土桃山時代の瓦堆積層を検出。	「伏見城跡」『京都市内遺跡試掘調査概報』京都市文化市民局 1996 年
27	桃山町鍋島	試掘	表土下 0.8 mで整地層、1.1 mで堀を確認。	「伏見城跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化観光局 1984 年
28	桃山町鍋島	試掘	表土下 0.25 mで伏見城期の造成土を確認。	「試掘調査一覧表 No.105」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成 24 年度』京都市文化市民局 2013 年
29	桃山筑前台町	発掘	地山上面で伏見城期の溝 3 条、土坑 2 基を検出。南側の溝には 2 段以上の石の護岸。	「伏見城 2」『昭和 54 年 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2012 年
30	桃山筑前台町	立会	瓦堆積層から多量の金箔瓦。上面には炭を多量に含む層。東面する石垣を検出。	吉本健吾「伏見城跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 11 年度』京都市文化市民局 2000 年
31	桃山筑前台町	試掘	表土下 1.0 mで江戸時代前期の包含層、1.2 mで安土桃山～江戸時代前期の柱穴を検出。	「伏見城跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 63 年度』京都市文化観光局 1989 年
32	桃山筑前台町	発掘	安土桃山時代の壺地業、布掘り地業を検出。武家屋敷(肥前中納言)のものか。地山未確認。	奥井智子「IX 伏見城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成 27 年度』京都市文化市民局 2016 年
33	桃山筑前台町	立会	地山面直下全て砂礫からシルトの無遺物層であることを確認。	「伏見城跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 9 年度』京都市文化市民局 1998 年
34	桃山筑前台町	試掘	安土桃山時代の柱穴 4 基、土坑 3 基、溝 1 条を検出。	「伏見城跡」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成 9 年度』京都市文化市民局 1998 年

	調査位置 (京都市伏見区)	調査 方法	調査成果概要	掲載文献
35	桃山町松平筑前	発掘	2時期の伏見城期の建物跡・溝を検出。室町時代の堀を検出。	内田好昭・丸川義広・高橋 潔「伏見城跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概報』埋文研 1994年
36	桃山町松平筑前	発掘	奈良時代前期の掘立柱建物・溝・井戸を検出。御香宮廃寺関係か。室町時代の堀、安土桃山時代の溝・柵列を検出。	前田義明「伏見城跡・御香宮廃寺」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1999年
37	桃山町松平筑前	詳細 分布	表土下0.7mで時期不明の包含層を検出。	「調査一覧表 14F173」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成26年度』京都市文化市民局 2015年
38	桃山町松平筑前	立会	炭化物を含む土坑と金箔瓦・梅鉢文瓦が出土。	「伏見城跡」『京都市内遺跡立会調査概報平成5年度』京都市文化観光局 1994年
39	片桐町	発掘	桃山～江戸時代初期の柱穴・溝・他、江戸時代の柱穴・土坑・溝などを検出。	星野猷二・三木善則・家崎孝治「伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ-桃陵団地建て替え工事に伴う埋蔵文化財調査-」伏見城研究会 1997年
40	西奉行町・東奉行町	発掘	縄文後期の深鉢片出土。弥生時代中期のピット・土坑・溝など、奈良時代の掘立柱建物・区画溝、平安時代の掘立柱建物・ピット・土坑、鎌倉時代の掘立柱建物・ピット・土坑・溝、桃山～江戸時代初期の礎石建物・堀・土坑・溝・石垣・井戸など、江戸時代の伏見奉行所に関する建物・石垣・火災跡などを検出。近代の工兵第16大隊に関連する遺構・建物を多数検出。	村尾政人ほか『伏見城跡・桃陵遺跡公務員宿舎伏見住宅(仮称)整備事業発掘調査報告書』西近畿文化財調査研究所 2010年
41	桃陵町	発掘	安土桃山時代の溝・井戸、江戸時代の池状遺構・井戸などを検出。	瀬川芳則ほか『伏見城武家屋敷跡』大阪経済法科大学 1976年
42	片桐町・東奉行町	試掘	表土下0.6mで伏見奉行所及び伏見城関連の遺構を確認。	「試掘調査一覧表 No.108」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
43	桃山町泰長老	発掘	指月城期とみられる建物跡・柱列を検出。建物跡は地下式礎石が用いられ、主要な建物や望楼などの一部の可能性はある。	「VI 指月城跡、伏見城跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和7年度』京都市文化市民局 2026年

埋文研→財団法人京都市埋蔵文化財研究所(2013年以降は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所)

第Ⅲ章 調査成果

1 基本層序（図版1～3）

調査地は立売通に面した住宅地で、民家の跡地である。調査地の標高は34.72～35.65mで、敷地北端部は隣接する立売通とほぼ同じ標高であるが、北端より約1.5m以南は盛土により0.3～0.5m程度嵩上げが行われる。

基本層序は現代層を含めて上位から5層に区分した。

第1層 灰白色砂礫、灰黄褐色泥砂、にぶい黄褐色泥砂などによる近現代整地層である。先述の通り、調査区北端から約1.5m以南は盛土により0.3～0.5m程地表面が高くなる。層厚0.2～0.7mで、調査区全域に分布する。

第2層 褐色泥砂、黄褐色泥砂、にぶい黄褐色泥砂などによる江戸時代の整地層である。層厚は0.15～0.2mを測る。層中に径2～10cmの礫や瓦片を多く含み、締まりがある。本層上面を第1面とした。本層上面の遺構は江戸時代後半（18世紀代）に属するものが多いが、江戸時代前半（17世紀前半）の土坑も存在することから、17世紀前半の整地と考えられる。

第3層 黄褐色細砂、黒褐色泥砂、暗褐色泥砂による安土桃山～江戸時代前半の整地層である。層中に径2～10cmの礫や瓦片を多く含み、締まりがある。本層上面を第2面とした。

第4層 褐色泥砂、黒褐色泥砂、灰黄褐色泥砂、にぶい黄褐色泥砂などによる安土桃山時代の整地層である。指月城の堀を埋めた後、その直上に敷設した木幡山伏見城期の整地層と考えられる。層中に径2～10cm大の礫や瓦片を含み、締まりがある。本層上面を第3面とした。

第5層 調査区西壁で確認した地山を第5層とした。上位に褐色粗砂が層厚0.1m前後で堆積し、下にオリーブ灰色シルトが厚く堆積する。上位に堆積する褐色粗砂層（図版1 層63）は、混りが無く無遺物であったため地山と考えたが、指月伏見城期の整地層の可能性も考えられる。

2 検出遺構

今回の調査では第2層上面（第1面）、第3層上面（第2面）、第4層上面（第3面）で平面調査を行い、各面で遺構を検出した。第3面の調査終了後に調査区北・西壁に沿って断割りを行った結果、第4層の下に堀埋土とみられる土が調査区全体に堆積することを確認した。堀埋土の断割り調査を行い、堀底は確認できなかったが、指月城北堀の南面と内堀西面とみられる地山の掘り込みと、両者が接合する状況を調査区西壁で確認した。検出した遺構の総数は127基である。

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
江戸時代	柱穴群、礎石 54、土坑 13・31・34・62	
安土桃山～江戸時代初頭 (木幡山伏見城期)	建物 1・2、柱穴群、 土坑 28・30・63・107・135・137・157・162・163、整地 208	
安土桃山時代 (指月伏見城期)	堀 301・302	

(1) 第1面の遺構 (図版4)

礎石、柱穴、土坑を検出した。遺構は土坑が中心で、柱穴とみられるピットや礎石を少数検出した。江戸時代後半に属するものが大半であるが、江戸時代前半の土坑も3基検出した。

[礎石・柱穴・ピット]

礎石54

調査区南東の東壁沿いで検出した礎石である。長さ0.38m、幅0.25m、厚さ0.12mの角礫を平らな面を上に向けて据え付ける。礎石の下位は径0.65m、深さ0.23mに掘り下げ、径3～8cmの小礫を含む黒褐色泥砂による地業を行っている。建物や塀などの一部と考えられるが、周辺に他の礎石などは検出されなかった。

柱穴35 (図7)

調査区中央の東壁沿いで検出した柱穴である。径0.4mの円形を呈し、礎石の可能性のある15cm程の石を中央に据える。深さは0.12mを測る。埋土は灰黄褐色泥砂で、炭・径2cm前後の礫を含む。関連する柱穴や礎石は周囲では確認できず、調査区外の東に展開するか、攪乱などにより消失した可能性が考えられる。遺物の出土は無く、詳細な時期は不明である。

ピット52

調査区南東隅で検出したピットである。ピットの南・東はそれぞれ調査区外に位置する。埋土は灰黄褐色泥砂で、炭・径2cm前後の礫を含む。礎石54から2.2m南に位置し、礎石の据付穴であった可能性も考えられる。

柱穴群

調査区北部を中心に柱穴とみられるピットを複数検出した。径0.3m前後、深さ0.1m未満のものが大半である。立売通に面する建物に関するものの可能性が高いと考えられるが、建物を復元することはできなかった。

[土坑]

土坑13 (図7)

調査区北西部で検出した土坑である。平面形は不整円形を呈し、長軸1.55m、短軸1.37m、深さ0.29mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は黒褐色・暗褐色泥砂で、炭・径3～10cm大の礫・瓦片などを多く含む。遺物は18世紀代の施釉陶器、焼締陶器、丸瓦、平瓦が出土し、瓦が大半を占める。

土坑31 (図7)

土坑13の南で検出した土坑である。平面形は円形を呈し、長軸0.91m、短軸0.89m、深さ0.11mを測る。肩口からやや傾斜をつけて掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は灰黄褐色泥砂で、炭・径3～5cmの礫を少量含む。遺物は18世紀代とみられる焼締陶器が出土した。

土坑34 (図7)

調査区中央で検出した土坑である。土坑62・63を切る。平面形は不整円形を呈し、長軸1.31m、短軸1.19m、深さ0.41mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面はやや丸みを帯びる。埋土は黒褐色泥砂

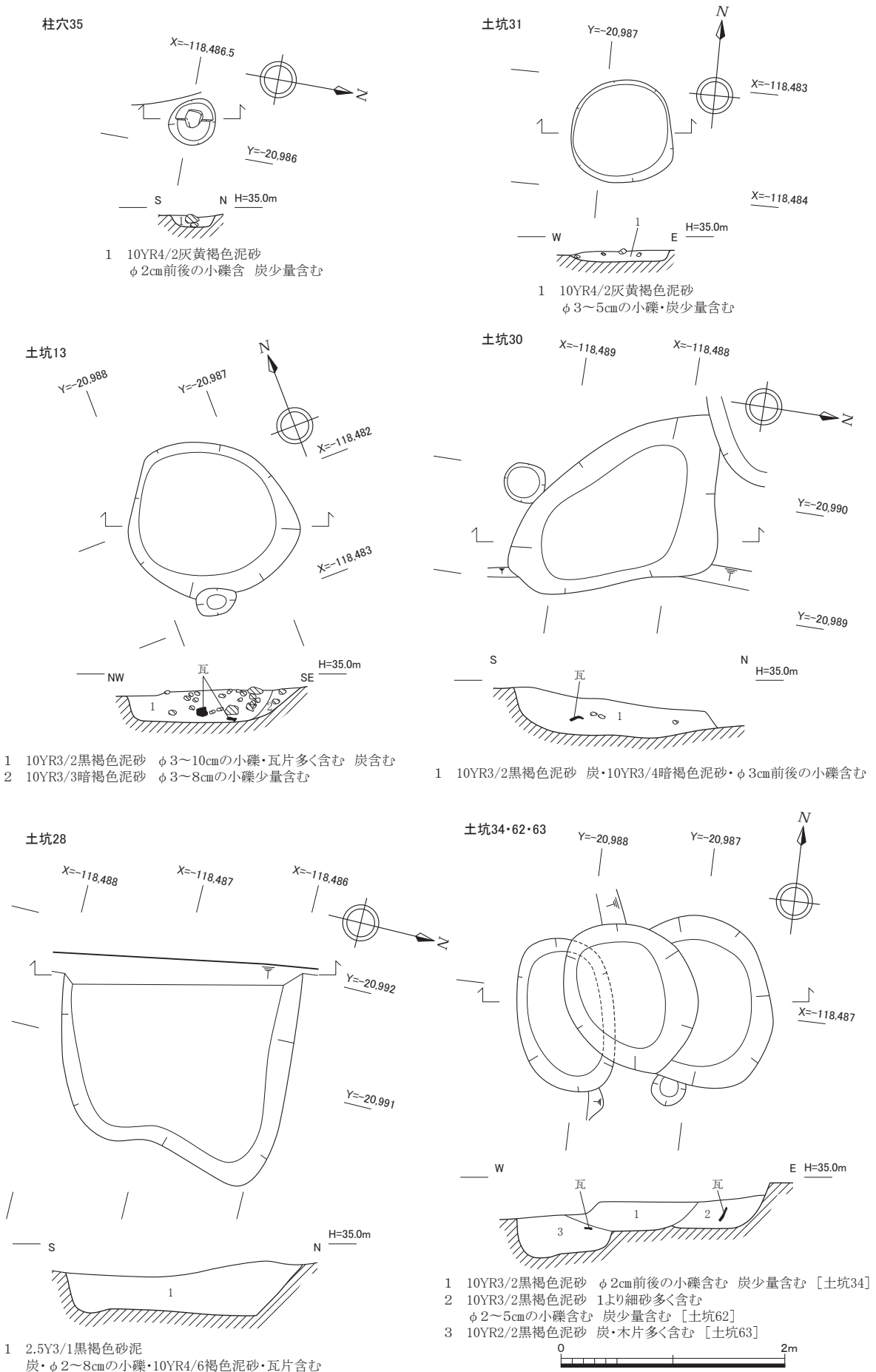


図7 柱穴35、土坑13・28・30・31・34・62・63平面断面図 (1:50)

で、炭・径2cm前後の礫を含む。遺物は18世紀代とみられる白磁、丸瓦、平瓦、道具瓦が出土した。

土坑62（図7）

土坑34の東で検出した土坑である。土坑34に西側を切られる。長軸1.54m、短軸0.87m、深さ0.40mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は細砂を多く含む黒褐色泥砂で、炭・径2～5cmの礫を含む。遺物は12B段階の土師器、施釉陶器、焼締陶器、土製品、平瓦、道具瓦が出土した。

土坑28（図7）

調査区中央の西壁沿いで検出した土坑である。平面形は不整形を呈し、西側は調査区外に延びる。長軸2.09m、短軸1.49m、深さ0.46mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色砂泥で、炭・径2～8cmの礫、褐色砂泥、瓦片などを含む。遺物は11A段階の土師器、施釉陶器、焼締陶器、瓦質土器、丸瓦、平瓦が出土した。

土坑30（図7）

調査区中央で検出した土坑である。平面形は不整形を呈し、長軸1.82m、短軸1.37m、深さ0.47mを測る。肩口からほぼ垂直に掘り込まれ、底面は丸みを帯びる。埋土は黒褐色泥砂で、径3cm前後の礫、暗褐色泥砂、炭を含む。遺物は11A段階の土師器、施釉陶器が出土した。

土坑63（図7）

土坑30の東で検出した土坑である。土坑34に東側を切られる。南北に長い隅丸方形を呈し、長軸1.37m、短軸0.87m、深さ0.38mを測る。肩口からほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は水分を含んだ黒褐色泥砂で、炭・木片を多く含む。遺物は11A段階の土師器、施釉陶器、焼締陶器、染付、丸瓦、平瓦、木製品が出土した。陶磁器類は火を受けたものもあり、火災に伴う廃棄坑の可能性が考えられる。

（2）第2面の遺構（図版5）

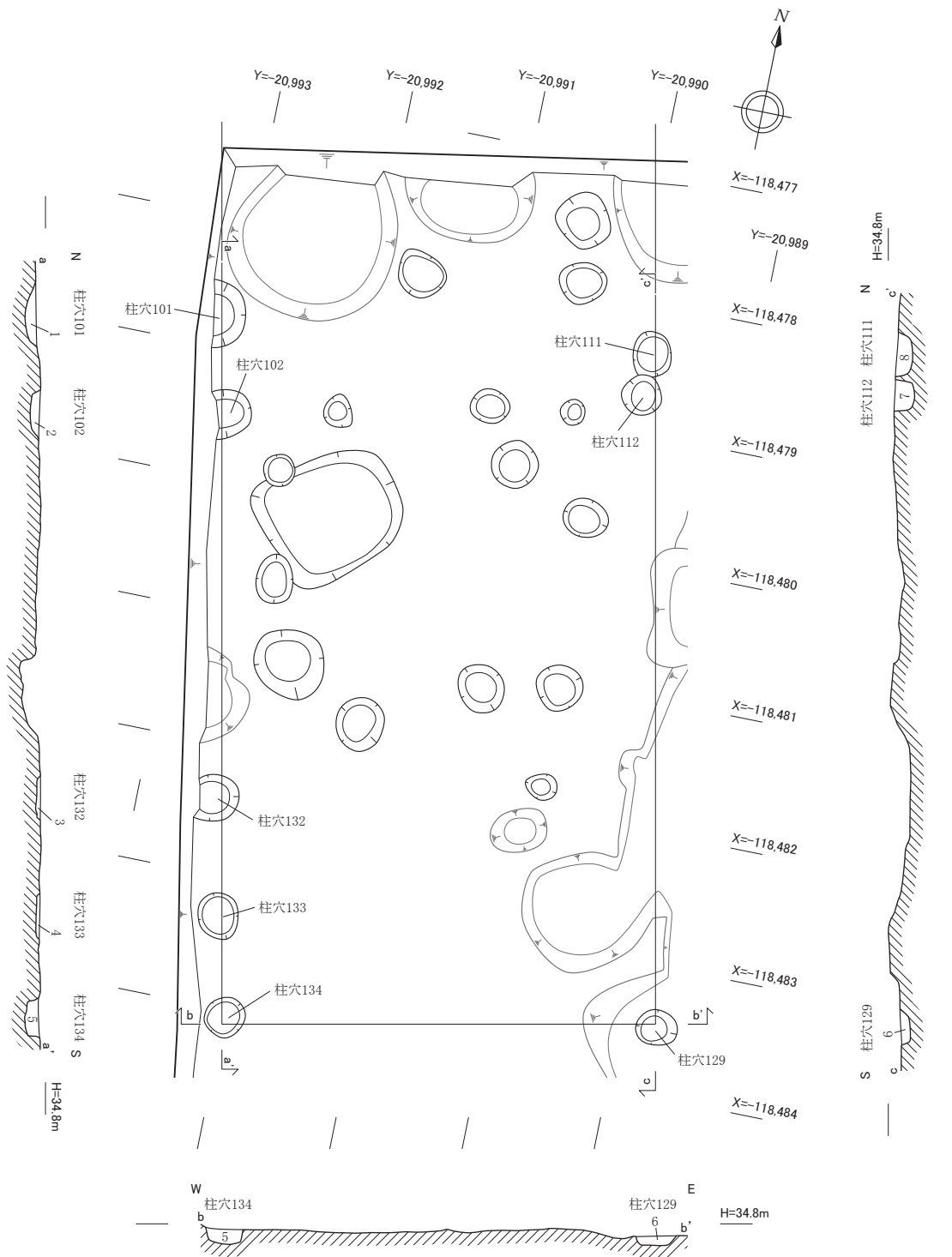
掘立柱建物、柱穴、土坑を検出した。掘立柱建物や建物などを構成するとみられる柱穴は調査区北半及び南寄りの中央部に多く、土坑は調査区中央部から南部にかけて多く分布する。各遺構から遺物の出土は少なく時期の判断は難しいが、第1面で11A段階（17世紀前半）の遺構を検出していることから、16世紀末～17世紀初頭に属し、木幡山伏見城期の遺構群と考えられる。

[建物]

調査区北部及び南部で53基の柱穴を検出し、北側で1棟（建物1）、南側で1棟（建物2）の2棟を復元した。建物1の東にも複数の柱穴が存在するが、建物を復元することはできなかった。

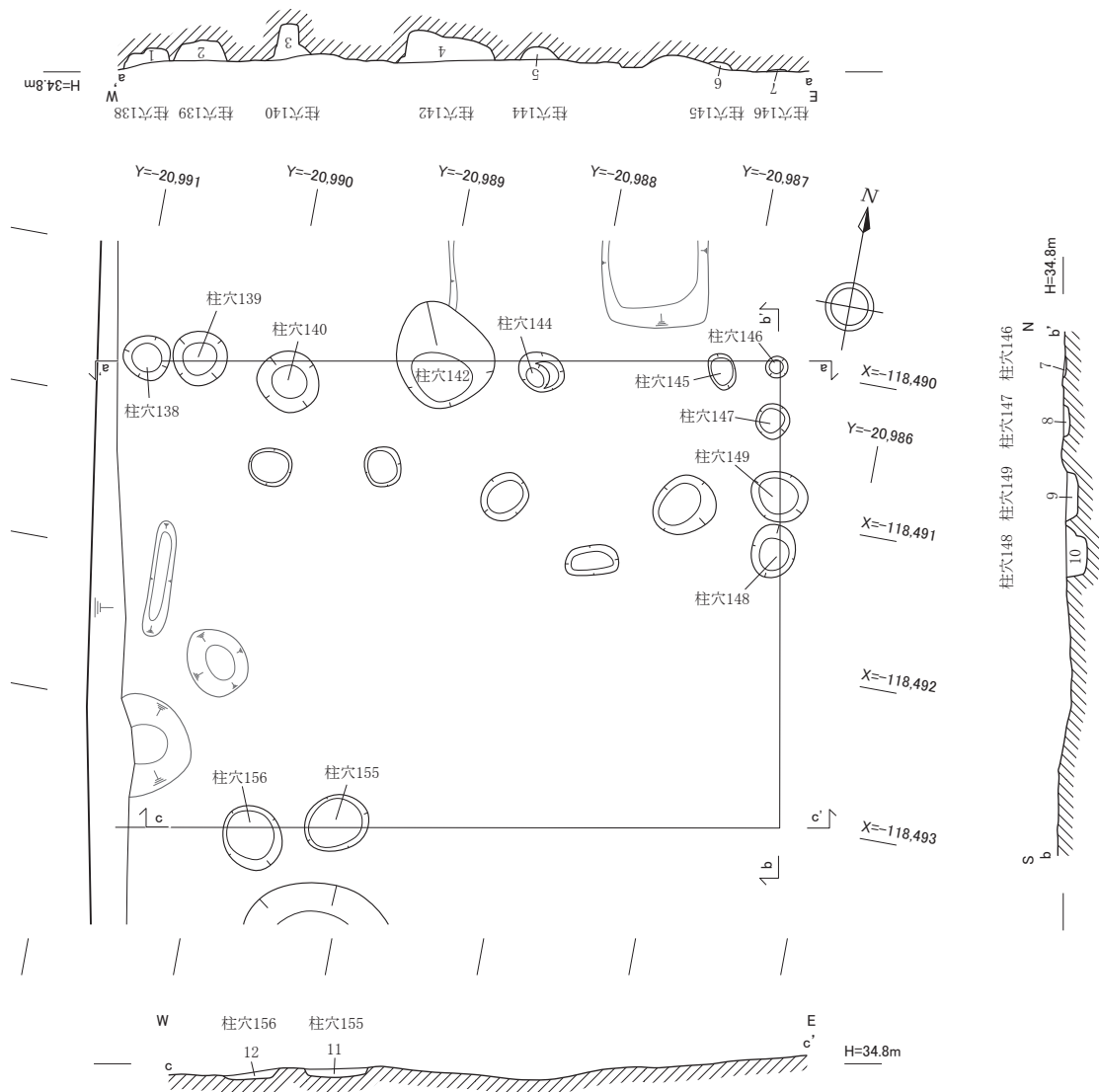
建物1（図8）

調査区北西で検出した建物である。立売通に面した南北棟と考えられ、検出長は桁行6.7m、梁間3.4mである。座標軸から約115°北西-南東に傾いており、立売通とほぼ直交する。建物を構成する柱穴は、いずれも径0.3m前後を測る。深さは0.1m前後の浅いものであり、礎石の据付痕である可能性も考えられる。



- 1 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2~5cmの小礫・10YR4/4褐色シルト含む [柱穴101]
- 2 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2~5cmの小礫・10YR4/4褐色泥砂含む [柱穴102]
- 3 10YR3/2黒褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト含む [柱穴132]
- 4 10YR3/3暗褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト含む [柱穴133]
- 5 10YR3/3暗褐色泥砂 φ2cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト含む [柱穴134]
- 6 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2cm前後の小礫・10YR2/2黒褐色砂泥粒含む [柱穴129]
- 7 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2cm前後の小礫・10YR5/6黄褐色シルト粒含む [柱穴112]
- 8 10YR3/3暗褐色泥砂 φ1cm前後の小礫・10YR4/4褐色泥砂粒含む [柱穴111]

図8 建物1平面断面図 (1 : 50)



- 1 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む 炭少量含む [柱穴138]
- 2 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2~5cmの小礫含む [柱穴139]
- 3 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む [柱穴140]
- 4 10YR3/1黒褐色泥砂 φ2~5cm前後の小礫・炭・10YR4/2灰黄褐色泥砂含む [柱穴142]
- 5 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2~5cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む [柱穴144]
- 6 10YR3/3暗褐色泥砂 φ1cm前後の小礫含む [柱穴145]
- 7 10YR3/2黒褐色泥砂 φ1cm前後の小礫含む [柱穴146]
- 8 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む [柱穴147]
- 9 10YR3/2黒褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含 炭・焼土少量含む [柱穴149]
- 10 10YR3/3暗褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含 炭・焼土少量含む [柱穴148]
- 11 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む [柱穴155]
- 12 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ3cm前後の小礫含む [柱穴156]



図9 建物2平面断面図 (1 : 50)

建物2 (図9)

調査区南部で検出した建物で、建物1から6.7m南に位置する。南面柱穴の残りが悪いが、北・東面北半部の柱穴の並びから東西棟に復元した。柱穴140・144・146・148・155が建物を構成する柱穴と考える。建物の西側は調査区外に延びると考えられる。検出長は桁行4.2m、梁間3.1mを測る。建物の向きは座標軸から11.1°南西-北東に傾き、建物1と似たような方位となる。

[土坑]

土坑107 (図10)

調査区北部で検出した土坑である。平面形は方形を呈し、長軸1.06m、短軸0.90m、深さ0.22mを測る。肩口からほぼ垂直に掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は暗褐色泥砂で、径2～5cmの小礫、褐色シルト、灰黄褐色砂泥、炭を含む。遺物は瓦が出土し、金箔瓦も2点含まれている。

土坑135 (図10)

調査区中央で検出した土坑である。南側を第1面の土坑に切られる。平面形は円形を呈し、長軸1.41m、短軸1.31m、深さ0.14mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は凹凸がある。埋土は灰黄褐色泥砂で、褐色シルト粒、径2cm前後の小礫を含む。また、埋土には植物の根が多く含まれていたことから、樹木の抜取り痕の可能性も考えられる。遺物は丸瓦片が出土したのみで、時期の特定は難しい。

土坑137 (図10)

調査区中央で検出した土坑である。平面形は不整形を呈し、長軸1.09m、短軸0.69m、深さ0.13mを測る。肩口から急角度で掘り込まれ、底面はわずかに丸みを帯びる。埋土は黒褐色泥砂で、径3cm前後の小礫や炭を含む。遺物は11A段階とみられる土師器、施釉陶器、丸瓦が出土した。

土坑157 (図10)

調査区南部で検出した土坑である。平面形は円形を呈するが、南側を攪乱に切られる。径1.0m前後であったと考えられ、深さは0.18mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は丸みを帯びる。埋土は上位から灰黄褐色泥砂、黒褐色砂泥、褐灰色砂泥、灰黄褐色泥砂である。遺物は11A段階とみられる土師器、瓦が出土した。

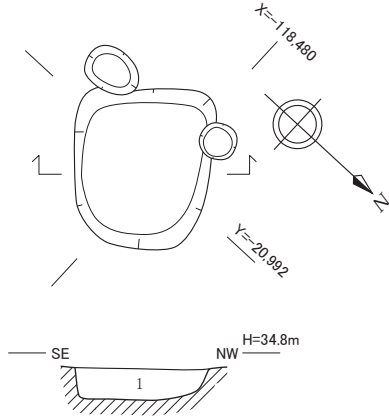
土坑162 (図10)

調査区南部で検出した土坑である。平面形は円形を呈し、長軸0.62m、短軸0.59m、深さ0.12mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は平坦である。埋土はにぶい黄褐色泥砂である。遺物は瓦片が出土した。

土坑163 (図10)

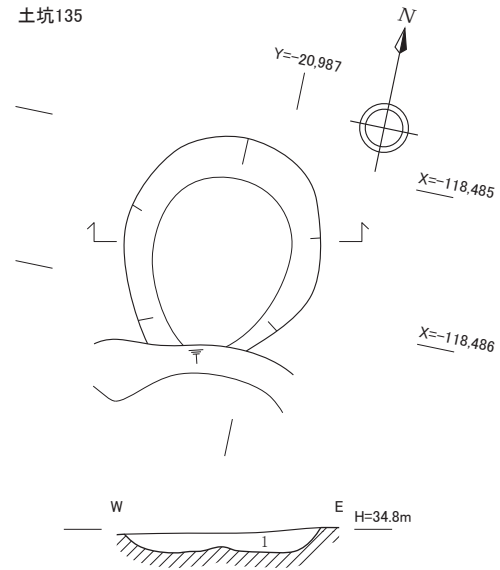
土坑162の西側で検出した。土坑162に東側、攪乱に西側を切られる。平面形は不整形円形を呈すると考えられ、長軸0.69m、短軸0.62m、深さ0.08mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は平坦である。埋土は暗褐色砂泥で、径2cm前後の小礫を含む。遺物は瓦片が出土した。

土坑107



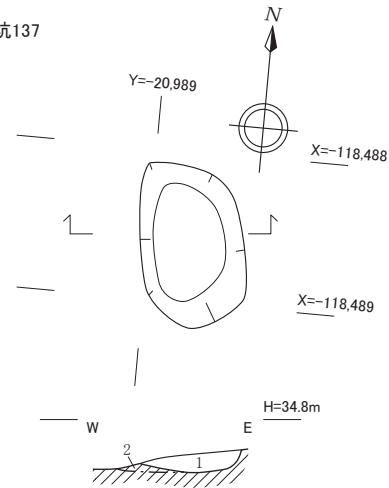
- 1 10YR3/3暗褐色泥砂
 φ2~5cmの小礫・10YR4/4褐色シルト・10YR4/2灰黄褐色砂泥含む
 炭少量含む

土坑135



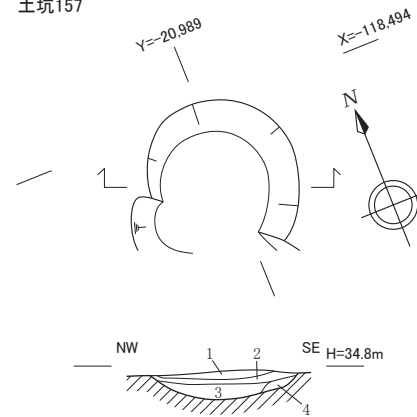
- 1 10YR5/2灰黄褐色泥砂
 10YR4/4褐色シルト粒・φ2cm前後の小礫含む 植物根が多い

土坑137



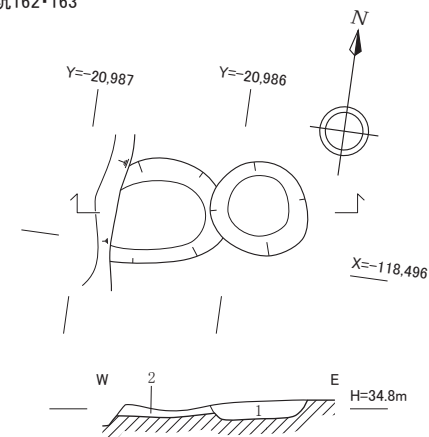
- 1 10YR3/1黒褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・炭含む
 2 10YR5/2灰黄褐色泥砂 [第3層]

土坑157



- 1 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2~5cmの小礫含 炭少量含む
 2 10YR3/2黒褐色砂泥 炭多く含む
 3 10YR4/1褐灰色砂泥 炭含む
 4 10YR4/2灰黄褐色泥砂 10YR4/4褐色粗砂含む

土坑162・163



- 1 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ3cm前後の小礫含む [土坑162]
 2 10YR3/4暗褐色泥砂 φ2cm前後の小礫少量含む [土坑163]



図10 土坑107・135・137・157・162・163平面断面図 (1:50)

(3) 第3面の遺構 (図版6)

柱穴、土坑、整地を検出したが、遺構数は少ない。木幡山伏見城期の遺構群と考えられる。

[ピット]

ピット201・202・203

調査区北東部で検出したピットである。ピット201と202は切り合っており、201が202を切る。ピット201は径0.48m、深さ0.11mを測る。ピット202は平面形が楕円形を呈し、長軸0.46m、短軸0.38m、深さ0.38mを測る。ピット203は平面形が歪な円形を呈し、長軸0.38m、短軸0.29m、深さ0.24mを測る。埋土はいずれも褐色泥砂で、径2～5cmの礫を含む。建物を構成する柱穴の可能性もあるが、対応する他の柱穴は調査区内では検出できなかった。

[土坑]

土坑204 (図11)

調査区中央で検出した土坑である。東部を第1面の土坑に切られる。平面形は長方形を呈し、長軸1.12m、短軸0.87m、深さ0.24mを測る。埋土は黒褐色泥砂、暗灰黄色泥砂で、径2～5cm程度の礫を含む。遺物は11A段階とみられる土師器、瓦、木片が出土した。

土坑205 (図11)

調査区中央で検出した土坑である。北部を第1面の土坑に切られる。平面形は不整形円形を呈し、長軸1.41m、短軸1.38m、深さ0.15mを測る。肩口から斜めに掘り込まれ、底面は北に向かって下がる。埋土は灰黄褐色泥砂、にぶい黄褐色泥砂で、褐色シルト粒・径2cm前後の礫を含む。遺物は瓦片が出土した。

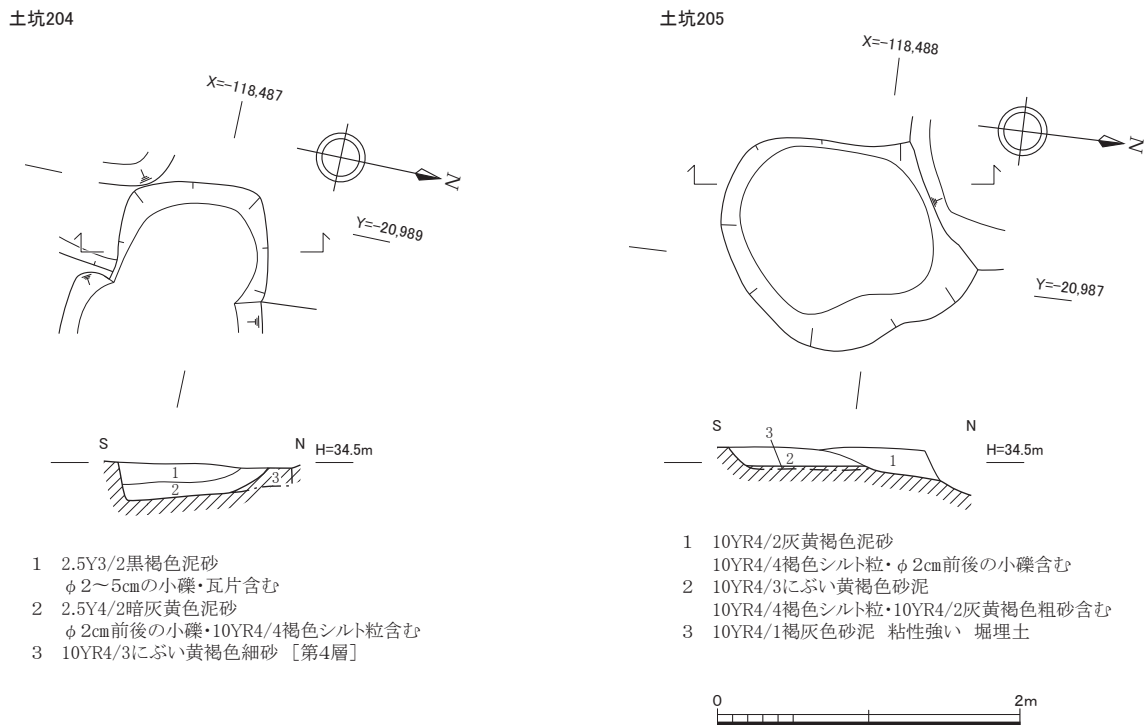


図11 土坑204・205平面断面図 (1:50)

[整地]

整地208

調査区北西で検出した径3～8cmの礫や瓦片を多く含む灰黄褐色・にぶい黄褐色砂泥による整地である。検出長は南北12.4m、東西3.8mで、層厚は約0.2mを測る。検出段階では他より1段低い方形区画に土を入れて整地したものではないかと考えた。整地上面及び掘削後にそれぞれ遺構検出を行ったが遺構は検出されず、第4層との違いも明確には確認し難いことから、第4層の一部である可能性も考えられる。

(4) 第4層掘削後(図版7)

第4層除去後に、調査区全域で堀埋土を検出した。当初は、安全面を考慮し調査区壁面から0.5m幅の犬走を設けて堀埋土の断割りをを行った。最大掘削深は検出面から約2.0mである。その後、周辺調査で検出された指月城北堀南肩及び内堀東肩のラインが本調査区まで延長しているかを確認するため調査区北部の西壁沿い犬走を掘り下げたところ、西壁断面で堀埋土と異なる褐色粗砂層(図版1 層63)が水平堆積する状況を確認した。その周囲の堀埋土を掘り下げたところ、調査区西壁に沿って地山が掘り込まれる状況を確認した。これは、南北方向の堀西側壁に相当すると考えられる。また、調査区中央付近で北に向かって地山を掘り込む状況を確認し、これは東西方向の堀の南肩を検出したと考えられる。東西方向の堀は指月城北堀、南北方向の堀は平成27年の調査(調査3)で検出された内堀の北側延長と考えられる。東西堀を堀301、南北堀を堀302と付した。いずれの堀からも金箔瓦を含む瓦類が多く出土したが、土器陶磁器類の出土は極僅かである。

堀301(図版7～9)

調査区北半を占める東西方向の堀である。指月城北堀とみられ、調査区西壁で確認した堀南肩の位置はX = -118,486.252m、Y = -20,991.657mである。堀肩部から約1.2m掘り下げたが、石垣や裏込めは検出できなかった。垂直に近い角度で掘り下げられている。堀埋土は黒褐色・黒色・灰黄褐色泥砂で、径3～10cm前後の礫や同程度の大きさに打ち欠いたとみられる瓦片を多く含むが、水分を含み締まりが悪い。調査区西壁の断面観察では埋土は北下がり堆積しており、堀の埋立ては南から行われたと考えられる。

堀302(図版7～9)

調査区南半を占める南北方向の堀である。調査区西壁に沿って地山を掘り込む状況が確認され、これは指月城の敷地を区分する南北方向に伸びる内堀の西側壁を検出したと考えられる。内堀の西肩ラインは調査区外に位置するが、法面の角度から調査区西端付近であると考えられる。調査3で検出された堀1の北延長と考えられ、堀302西肩推定ラインは堀1西肩ラインの延長とほぼ一致する。検出面から約2.0m掘り下げたが、底面は確認できなかった。石垣や裏込めも検出しておらず、地震で崩落したか堀埋立て時に石垣などが撤去された可能性が考えられる。埋土は堀301と同様で、径3～10cm前後の礫や同程度の大きさの瓦片が多く含まれるが、水分を含み締まりが悪い。調査区壁面での断面確認では北西から南東方向に堆積する状況がみられるが、堀埋土上面から約0.8m下位で堆積の方向が若干異なっており、堀の埋立ては一定の高さまで段階的に行われたと考えられる。

3 出土遺物

遺物はコンテナ30箱出土している。大半は堀及び整地層から出土した瓦類で、全体の約7割を占める。

瓦は丸瓦・平瓦が大半であるが、軒瓦も多く出土し、軒瓦の多くは金箔瓦である。

土器類は、安土桃山～江戸時代前半、江戸時代後半に属するものが大半で、中でも江戸時代後半に属するものが多い。安土桃山～江戸時代前半の土器類には志野・唐津など茶陶関連の遺物も存在する。その他、平安時代・鎌倉時代に属する土器類が少数存在する。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク点数	Cランク箱数
平安時代	緑釉陶器、白磁、銭貨		緑釉陶器1点、銭貨1点		
鎌倉時代	土師器、瓦器		土師器1点		
安土桃山 ～ 江戸時代初頭	土師器、施釉陶器、焼締陶器、染付、瓦質土器、軒丸瓦、軒平瓦、道具瓦、丸瓦、平瓦、塼、漆器、木製品、金属製品		土師器5点、施釉陶器8点、焼締陶器3点、染付1点、瓦質土器2点、金箔瓦75点、軒丸瓦3点、軒平瓦3点、道具瓦3点、漆器1点、木製品7点、金属製品1点		
江戸時代	土師器、施釉陶器、焼締陶器、染付、土製品、軒丸瓦、道具瓦、丸瓦、平瓦、木製品、金属製品		土師器3点、施釉陶器2点、焼締陶器1点、土製品2点、軒平瓦1点、軒棧瓦1点、道具瓦1点		
合計		34箱	126点(9箱)	0点	25箱

* コンテナ箱数は、整理段階で4箱増加した。

(1) 土器・陶磁器類

(a) 伏見城以前 (図12 1・2)

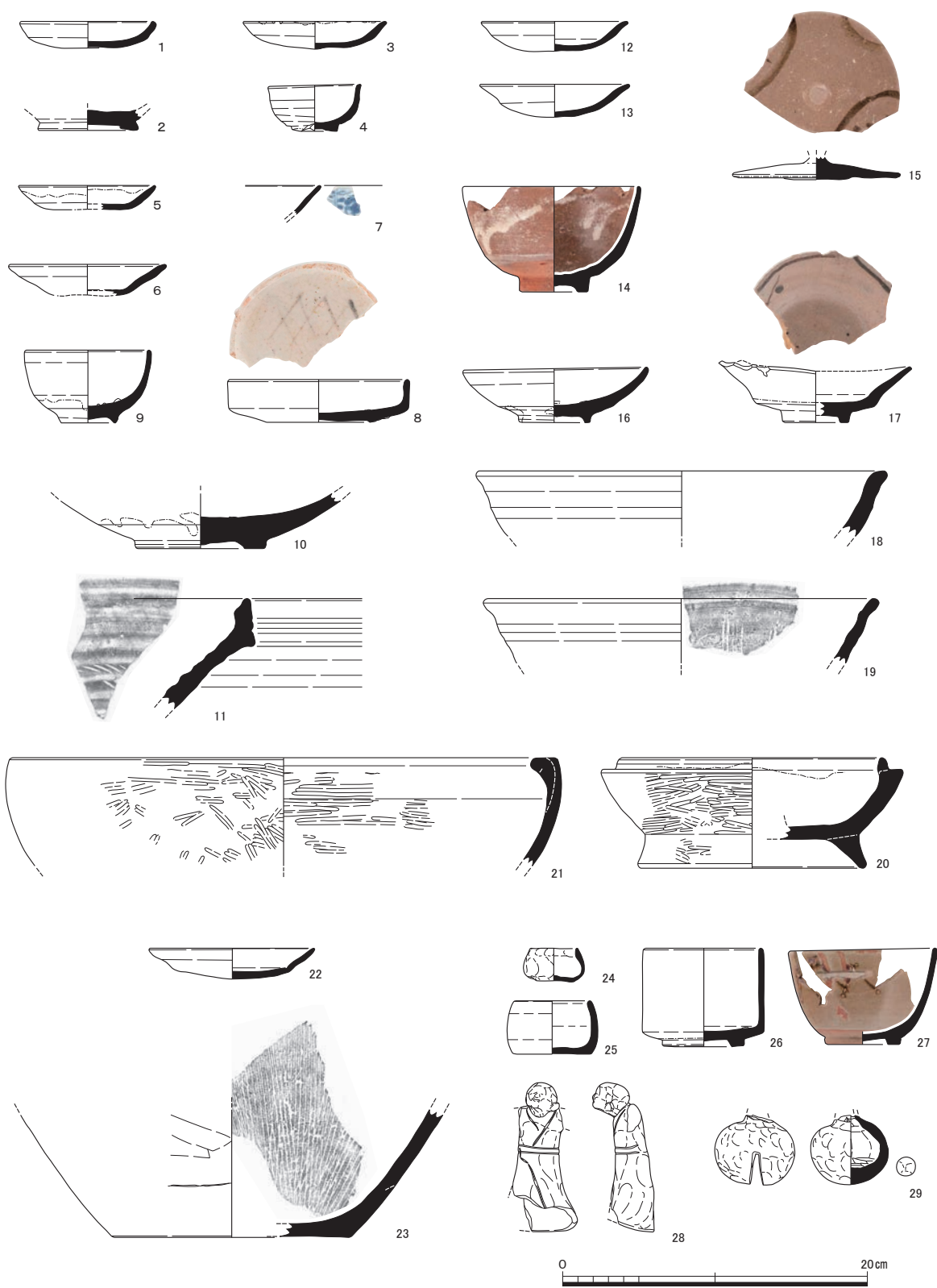
1は土師器皿N。小型の皿で、口径8.6cm、器高1.8cm。口縁部は外上方に立ち上がり、端部は上方に丸くおさめる。時期は6A段階にあてられる。整地208から出土。2は緑釉陶器底部。削り出し高台で、幅の狭い蛇の目状を呈する。高台径6.4cm。全面施釉とみられるが、釉薬の遺存状態は悪い。9世紀の所産か。整地208から出土。

その他に小片のため図化できなかったが、平安時代後半～鎌倉時代初頭の白磁椀や鎌倉時代の瓦器椀が少数出土している。

(b) 安土桃山～江戸時代初頭 (図12)

土坑30 (3・4)

土師器(3)、施釉陶器(4)がある。3は土師器皿S b。口径9.3cm、器高1.8cm。底部はほぼ平坦で、口縁部は緩く外反する。11A段階にあてられる。4は志野小椀。口径6.0cm、器高3.1cm、高台径3.0cm。高台は糸切後に幅の狭い蛇の目状に削り出す。体部の立ち上がりは丸みを帯び、上方に立ち



1·2: 整地208 3·4: 土坑30 5~11: 土坑63 12~21: 土坑28
22·23: 土坑26 24~29: 土坑62

图12 出土遺物1 (1 : 4)

上げた後、口縁部は緩く外反する。体部外面は回転ヘラケズリ、口縁部及び内面はナデで仕上げる。

土坑30出土遺物は、16世紀末～17世紀初頭に属する。

土坑63（6～11）

土師器（5・6）、染付（7）、施釉陶器（8～10）、焼締陶器（11）がある。

土師器はいずれも皿S。5は口径8.8cm、器高1.6cm。内面の口縁部と底部の境にナデによる圏線状の窪みが廻る。口縁部は外上方に立ち上がり、端部は尖り気味になる。6は口径10.3cm、器高2.0cm。底部内面に圏状凹線が廻る。口縁部は外上方に立ち上がり、端部は丸くおさめる。いずれも11A段階にあてられる。

染付（7）は小椀とみられる。景德鎮産か。小片のため口径は復元できない。直線的に外上方に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。外面に麒麟とみられる4足の動物が呉須により描かれる。

施釉陶器は志野（8）、唐津（9・10）がある。8は志野向付。口径11.6cm、器高2.8cm、底径6.8cm。底部は碁笥底で、体部は短く上方に立ち上がる。見込みに網状の絵付けがある。9は唐津小椀。口径8.0cm、器高4.8cm、高台径3.6cm。削り出し高台で、接地面の幅は一定ではない。体部の立ち上がりは丸みを持ち、上方に立ち上がる。内面及び体部外面の上位まで灰釉を漬け掛けする。10は唐津鉢か。高台径8.4cm。削り出し高台で、接地面の幅は広い。見込みに細長い重ね焼き痕が2箇所残る。内面及び体部外面に灰釉を施す。

焼締陶器（11）は備前播鉢。口縁部は上方に拡張し、内側に段を持つ。口縁部外面に沈線が2条廻る。摺目は斜め方向に浅く施される。体部内面は使用により平滑になる。

土坑63出土遺物は、17世紀前半に属する。

土坑28（12～21）

土師器（12・13）、施釉陶器（14～17）、焼締陶器（18・19）、瓦質土器（20・21）がある。

土師器は皿S b（12・13）。12は口径9.5cm、器高2.0cm。口縁部は丸みを持って外上方に立ち上がり、端部は外反する。13は口径9.8cm、器高2.2cm。口縁部は外上方に立ち上がり、端部は外反する。これらは11A段階に属すると考えられるが、口縁部が外反するなど10C段階的な要素がみられる。

施釉陶器はいずれも唐津である。14は椀。口径11.5cm、器高6.9cm、高台径4.3cm。削り出し高台で、接地面の幅は一定ではない。体部の立ち上がりは丸みを帯び、湾曲して上方に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面及び体部上位～口縁部外面に灰釉を施し、白色の釉薬を部分的に施す。15は蓋。口径10.4cm。円盤状を呈し、天井部のつまみが欠損する。外面に透明釉を施し、絵付けを行う。16は皿。口径12.0cm、器高3.6cm、高台径4.6cm。削り出し高台で、接地面の幅は一定でない。体部は丸みを持って外上方に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面及び体部上位～口縁部外面に釉薬を施す。見込みにメアトが3箇所と他の高台が接したとみられる圏状の浅い窪みがみられる。17は向付。口縁部をヘラで切り成形する。削り出し高台である。体部の立ち上がりは稜を持ち、上方に立ち上げた後、外上方に屈曲する。内面及び体部～口縁部外面に釉薬を施し、内面に梅とみられる絵付けを行う。

焼締陶器（18・19）はいずれも信楽播鉢である。18は口縁端部が外側に肥厚し、上位に面を持つ。19は口縁部が屈曲して外反し、端部はやや丸みを帯びる。5条単位の摺目を施す。内面に2次的に火を受けた痕跡が残る。

瓦質土器は瓦灯（20）、火鉢（21）がある。20は口径17.0cm、器高7.3cm、高台径14.6cm。底部と体部の境に外下方に張り出す断面三角形の高台を貼り付ける。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は上方に面を持つ。口縁部内側に低い立ち上りを貼り付ける。燈明皿受は欠損し、底部内面に痕跡のみ残る。21は口径35.6cm。体部は内湾して立ち上がり、口縁部は内側に肥厚して上方に面を持つ。

土坑28出土遺物は、土師器皿に古い段階の特徴がみられるが、他の遺物の特徴から17世紀前半に属すると考えられる。

（c）江戸時代（図12）

土坑26（22・23）

土師器（22）、焼締陶器（23）がある。22は土師器皿S。口径10.8cm、器高2.0cm。底部はやや丸みを持ち、口縁部は丸みを持って外上方に立ち上がる。底部内面に鋭角な圈状凹線が廻る。12 B段階にあてられる。23は信楽の播鉢。底径15.4cm。内面に摺目を密に施す。内面は使用により平滑である。胎土に長石を多く含む。

土坑26出土遺物は、土師器皿Sの年代観から18世紀前半に属する。

土坑62（24～29）

土師器（24・25）、施釉陶器（26・27）、土製品（28・29）がある。

土師器はつぼつぼ（24）、小椀（25）がある。皿Sも存在するが、小片のため図化できなかった。24は口径3.0cm、器高2.2cm、底径3.0cm。体部の下位に最大径がある。25は平底の小椀。口径4.8cm、器高3.5cm、底径5.2cm。底部は平坦で、体部は内傾して立ち上がる。

施釉陶器は椀（27）、筒形椀（26）がある。27は口径9.5cm、器高6.3cm、高台径4.7cm。底部は背の低い輪高台を削り出す。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は上方で丸くおさめる。内面及び体部～口縁部外面に釉薬を施し、高台の周囲は露胎である。外面の口縁部付近の一部にノコギリ刃状の絵付けがあり、そこには他の個体の一部が融着する。26は口径7.5cm、器高6.5cm、高台径5.2cm。底部は背の低い輪高台を削り出す。体部は内傾して直線的に立ち上がり。口縁部は上方で丸くおさめる。内面及び体部～口縁部外面に釉薬を施し、高台付近は露胎である。

土製品は人形（28）、土鈴（29）がある。28は道士とみられる人形。器高9.8cm。衣類は線刻で表現する。土鈴（29）は割れているがほぼ完形品で、内部の玉も残存する。最大径5.3cm、内部の玉は径1.2cm前後。袋状に成形した後、下方に幅3～5mmの切込みを入れる。

土坑62出土遺物は、18世紀に属する。

(2) 瓦類

(a) 金箔瓦 (図13～15 瓦1～75)

金箔瓦は、軒丸瓦30点、菊丸瓦16点、軒平瓦27点、道具瓦2点の計75点である。堀埋土⁽¹⁾やその直上の整地である第4層・整地208から多く出土しており、金箔や下塗漆の残りが良好なものが多い。金箔や下塗漆については、附章も合わせて参照されたい。

軒丸瓦 (瓦1～30 図13)

瓦1～16・18・24は巴文。いずれも左巻三巴文である⁽²⁾。瓦当径は14～16cm台に復元され、周縁の幅は1.6～2.8cmを測る。巴の外側に珠文が廻るものが大半であるが、瓦24は珠文が無く周縁付近まで巴文が配される。瓦1・5は珠文と巴文の境に圈線が巡る。巴頭はくびれが明瞭であり、尾は長く伸びる。尾の先端は隣に接するもの(瓦11・15)、接しないもの(瓦2・3)、圈線に接するもの(瓦1・5)がある。珠文は密に配され、間隔が1.0～1.5cmのものが大半であるが、2.0cm以上あるものも存在する。珠文の割り付けが均等でなく、並びが整っていないものもみられる。金箔は文様の凸面に貼られるが、珠文には無金のものが多い。瓦14・18には、珠文に漆の痕跡が残る。金箔の接着に用いられる漆は黒漆に後補とみられる朱潤漆が上塗りされたものが大半で、黒漆(瓦6・13・14)が少数みられる。瓦1・9・18は接合した丸瓦が残存し、丸瓦凹面にはコビキA痕が残る。瓦1～6・18・24が堀埋土、瓦7～10が整地208、瓦11～14が第4層、瓦15・16が第3層から出土した。

瓦17・19～23・25～29は周縁と珠文、もしくは周縁のみが残るもの。いずれも巴文の外縁部か。瓦19・20・22・23・25～29は写真のみ掲載。珠文に金箔や漆の痕跡がないものが大半で、瓦26・29の珠文に漆の痕跡が残る。塗布される漆は黒漆に後補とみられる朱潤漆が上塗りされたものが大半で、朱漆(瓦28)、黒漆(瓦26・27)が少数みられる。瓦17・25は接合した丸瓦が残存し、瓦17はコビキB、瓦25はコビキA痕が丸瓦凹面に残る。瓦17・19～23が堀埋土、瓦25～27が第4層、瓦28・29が土坑107から出土した。

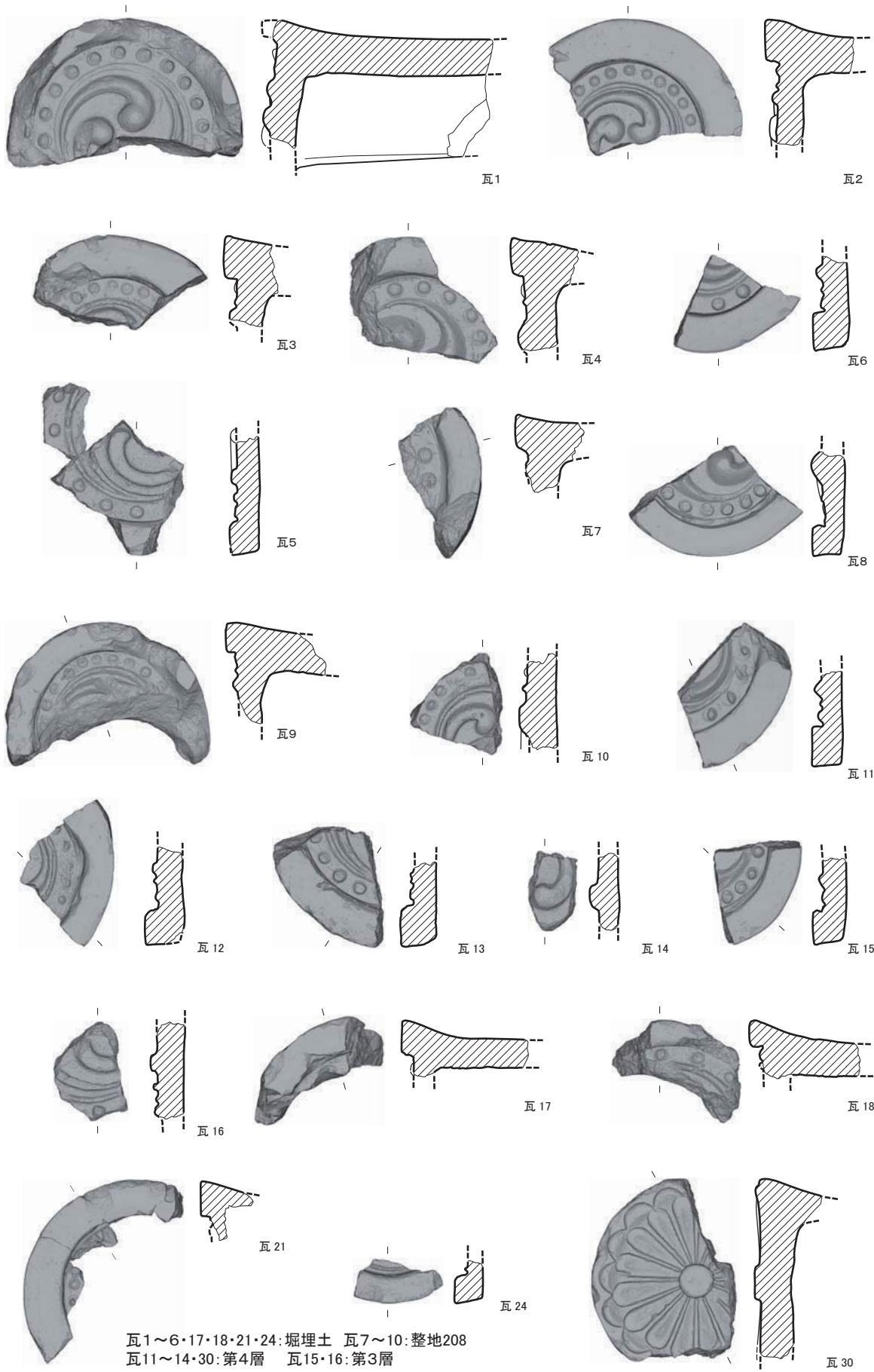
瓦30は16弁の重弁菊花文。瓦当径は14.4cmに復元される。文様凸面に黒漆を塗布し、金箔を貼る。外弁部は先端のみに金箔を貼る。第4層から出土した。

菊丸瓦 (瓦31～46 図14)

菊丸瓦は瓦当径が12cm前後に復元され、いずれも8弁の重弁菊花文とみられる。瓦37・39・40・42・44は写真のみ掲載。瓦38以外は周縁を持たない。金箔は文様凸面に貼られ、瓦38を除き外弁部には先端のみ金箔を貼る。瓦38は周縁を持ち、文様凸部全体に金箔を貼る。下塗漆は瓦32～40・42が黒漆、瓦31・43・45が黒漆に後補とみられる朱潤漆を上塗りしたもの、瓦41・44が黒漆に後補とみられる生漆を上塗りしたもの、瓦46が生漆である。瓦31～38が堀埋土、瓦39・40が整地208、瓦41・42が第4層、瓦43が第3面精査時、瓦44・45が第3層、瓦46がピット109から出土した。

軒平瓦 (瓦47～73 図15)

軒平瓦はいずれも唐草文で、文様凸部及び周縁に金箔を貼る。周縁の左右端部には金箔は貼られ



瓦1~6·17·18·21·24: 堀埋土 瓦7~10: 整地208
 瓦11~14·30: 第4層 瓦15·16: 第3層



图13 出土遺物2 (1 : 4)

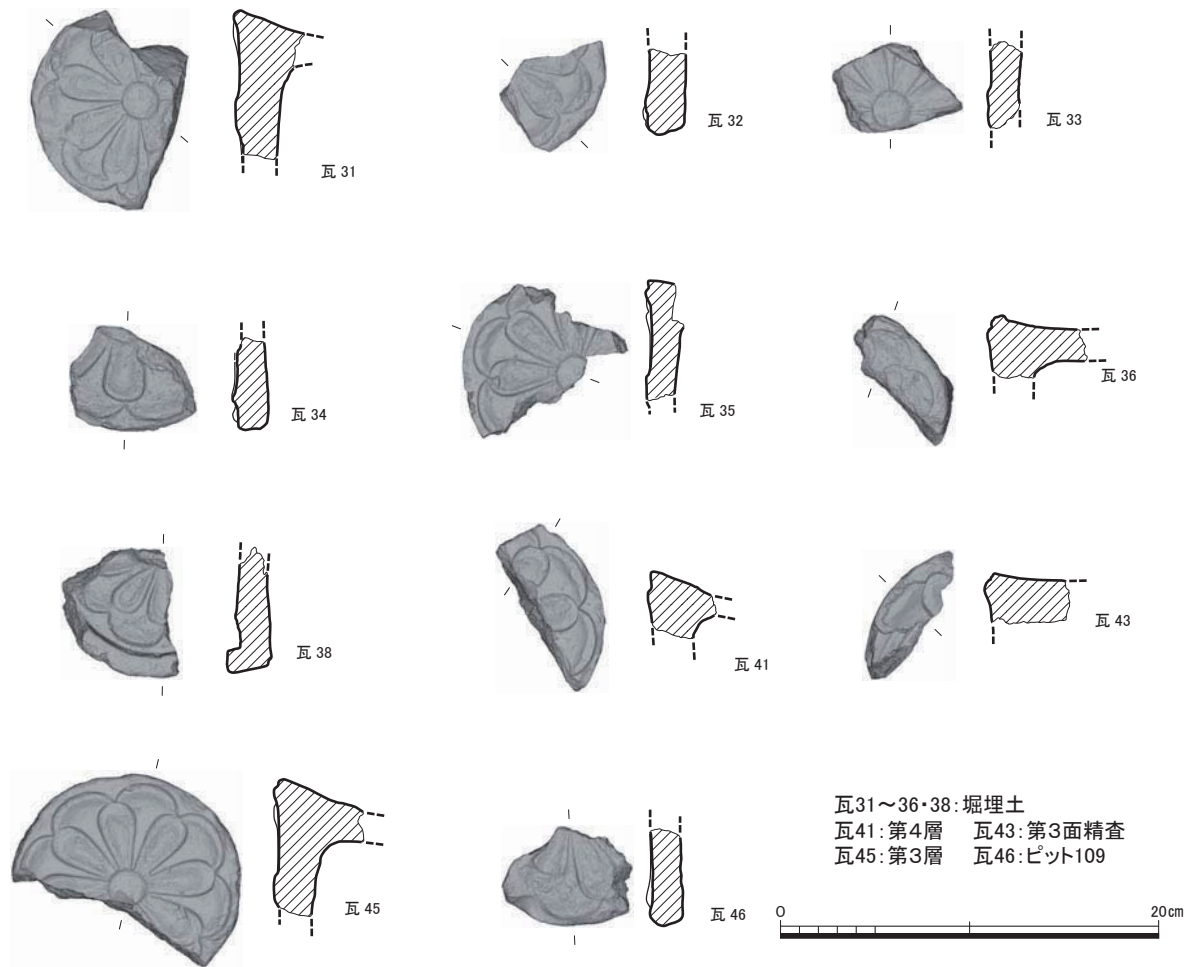


図14 出土遺物3 (1:4)

ていない。下塗漆は黒漆に後補とみられる朱潤漆が上塗りされたものが大半で、黒漆（瓦47・52・54・63～67）、生漆（瓦68）が少数みられる。瓦当面はいずれも顎貼付技法が用いられ、瓦当面上縁に幅広の面取りを施すものが大半である。

瓦47は中心飾りが欠損するが唐草が二反転するもの。唐草は浮彫状となる。

瓦48・49は中心飾りが様式化した宝珠。唐草は独立し、瓦48が三反転、瓦49が二反転残存する。中心飾りの左下に、低い凸状の範傷がある。聚楽第跡出土軒平瓦35類にも同位置に範傷があり、同範とみられる⁽³⁾。瓦48は周縁の欠け部にも金箔が貼られ、文様付近の凹部にもはみ出した金箔が附着する。

瓦50は連続する唐草が二反転半するもの。中心飾りは三葉か。瓦当裏面も含めて丁寧な面取りが施され、瓦当凹面の下端部に幅4mm程度のケズリを施す。周縁欠け部にも金箔が貼られる。胎土は硬質で砂粒をほとんど含まない。第三唐草が半回転すること、瓦当面下端のヘラケズリ、丁寧な面取りなど、安土城系瓦の特徴がみられる⁽⁴⁾。

瓦51は独立する唐草が三反転するもの。瓦当裏面に顎貼付後のナデにより凹みが付く。瓦52は連続する唐草が三反転するもの。瓦当面に大きな範傷がある。瓦53は独立する唐草が二反転残存するもの。瓦54は連続する細い唐草が三反転するもの。唐草は強く巻き込む。顎貼付後にナデを施さない。

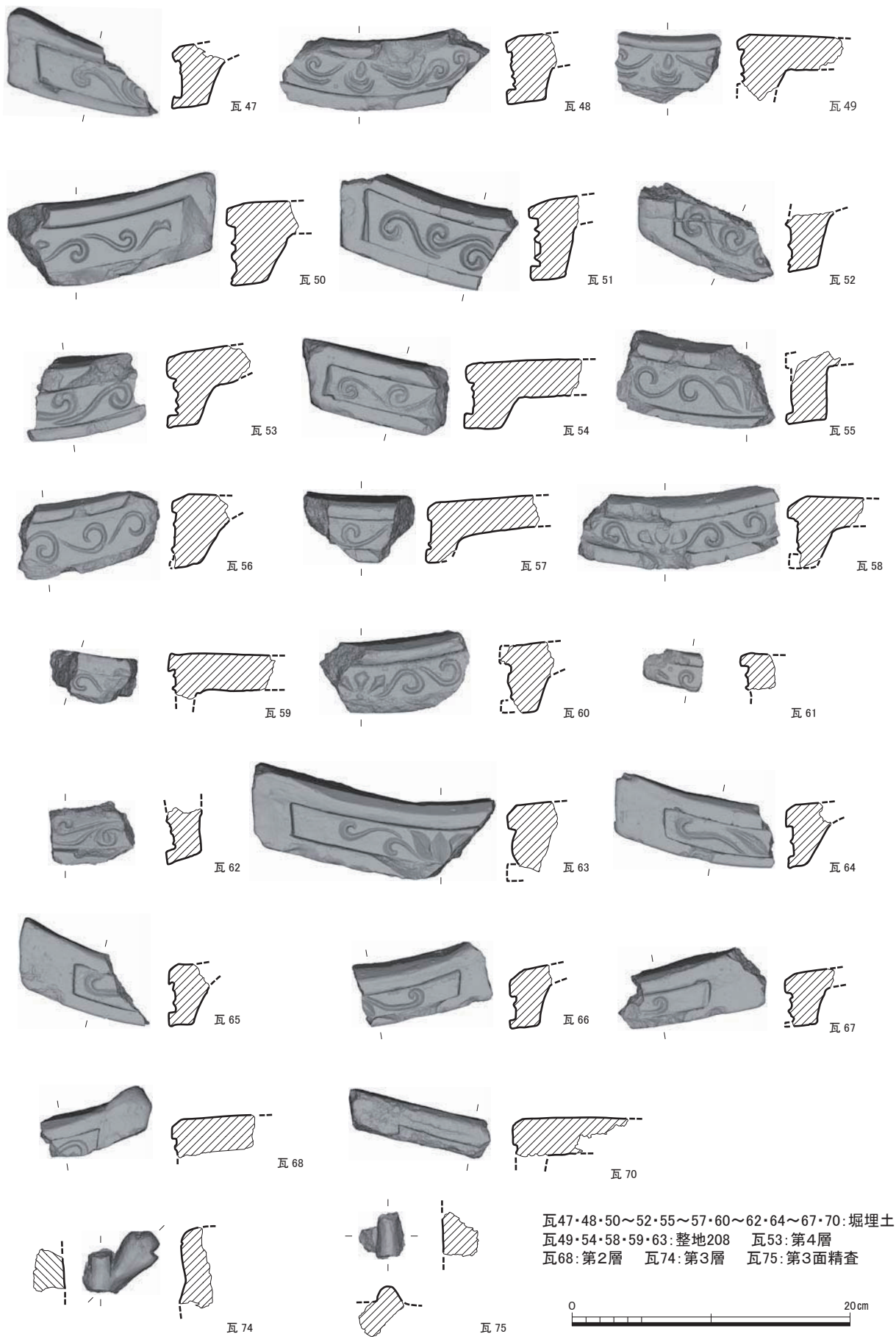


图15 出土遺物4 (1:4)

瓦55は中心飾りが三葉で連続する唐草が二反転残存するもの。瓦当面の凹みは浅い。聚楽第跡出土軒平瓦10類と同様の文様構成であるが、第一唐草の巻き込みが聚楽第跡出土瓦と比べて弱い⁽³⁾。顎貼付後にナデが施され、瓦当裏面はナデにより凹む。

瓦56は連続する唐草が三反転するもの。瓦当面の凹みは浅い。顎貼付後ナデが施され、接合部はナデにより丸みを帯びる。瓦57は連続する唐草が一反転のみ残るもの。瓦当面の凹みは浅い。顎貼付後ナデが施され、接合部はナデにより丸みを帯びる。

瓦58は中心飾りが先端が肥厚した三葉で、独立する唐草が三反転残存するもの。三葉の先端を指で押し凹ませる。顎貼付後ナデを施し、接合部はナデにより丸みを帯びる。周縁の欠け部にも金箔が貼られている。瓦59は三葉とみられる中心飾りで、唐草が一反転残存するもの。下位の周縁は欠損しているが、瓦当面の幅は1.5cm程度と他と比べて狭い。顎貼付後ナデが施され、接合部はナデにより丸みを帯びる。瓦60は中心飾りが三葉で、独立する唐草が二反転残存するもの。顎貼付後ナデを施す。

瓦61は独立する唐草が二反転残存するもの。瓦62は連続する唐草が三反転残存するもの。第三唐草は第一唐草から派生する。顎貼付の接合断面にカキメが残る。

瓦63は中心飾りが肉厚の三葉で、連続する唐草が二反転するもの。顎貼付後ナデを施す。金箔・漆共に遺存状態が悪い。聚楽第跡出土軒平瓦26類と同様の文様構成であるが、中心飾りの葉脈や唐草の巻き込みなどが異なる⁽³⁾。瓦64は中心飾りが肉厚の三葉で、唐草が長く伸びて一反転するもの。顎貼付後ナデを施す。瓦65は唐草の端部が残存するもの。瓦64と同文か。顎貼付後ナデを施し、瓦当裏面はナデにより凹む。瓦64・65と同范もしくは同文とみられる瓦が、平安京左京北辺三坊四町⁽⁵⁾、方広寺⁽⁶⁾から出土している。

瓦66は中心飾りが下向きで肉厚の三葉、唐草が長く伸びて一反転する。顎貼付後ナデを施し、接合部はナデにより丸みを帯びる。周縁の欠け部にも金箔が貼られる。瓦67は唐草端部が残るもの。顎貼付後ナデを施し、接合部はナデにより丸みを帯びる。

瓦68は唐草の端部のみ残るもの。瓦当下半が剥離して欠損する。顎貼付部にはカキメが残る。下塗漆・金箔共に遺存状態が非常に悪い。

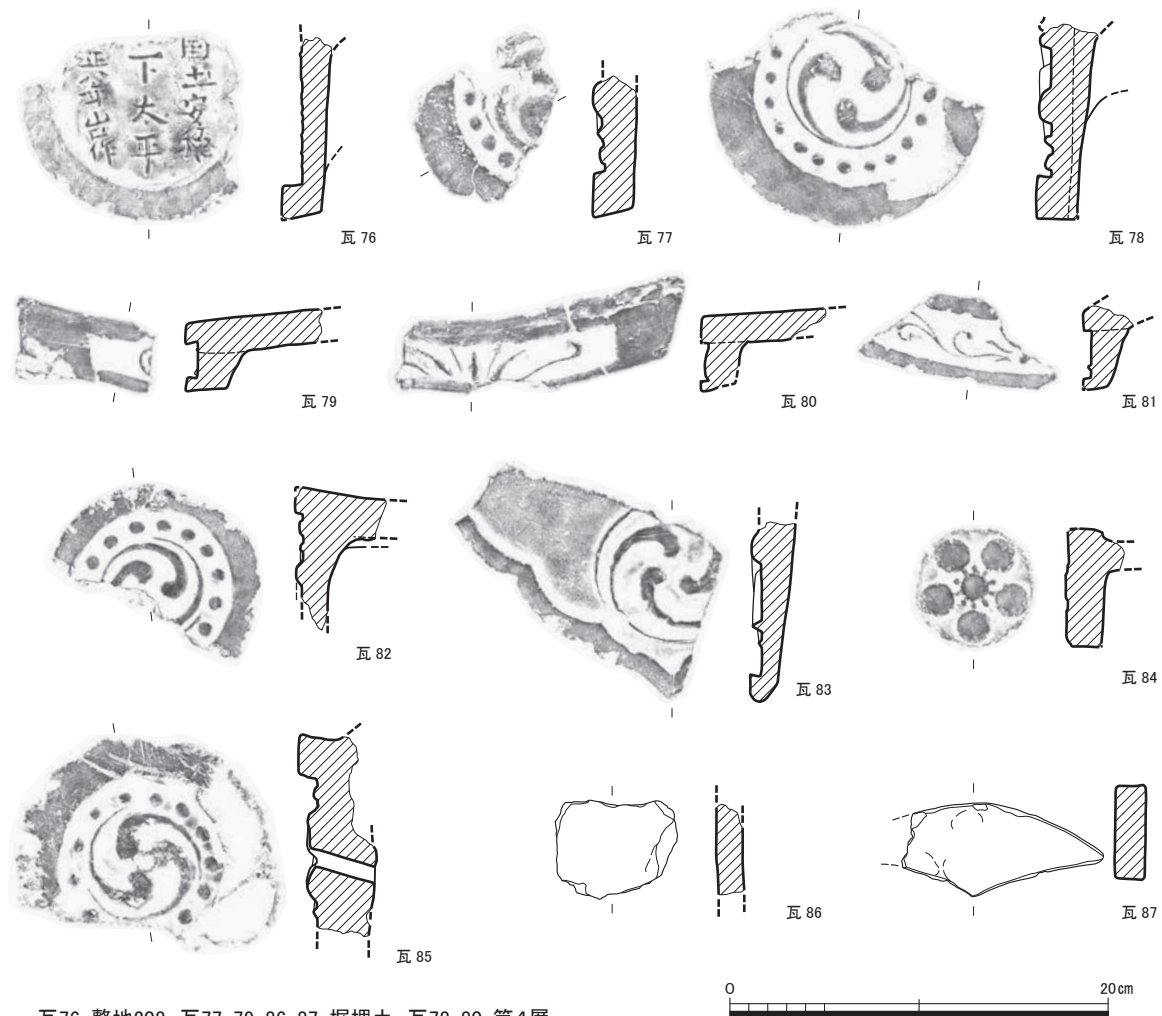
瓦69は瓦当部が削られ文様が消失しており、周縁の一部のみ残存するもの。写真のみ掲載。顎貼付後ナデを施し、接合部はナデにより丸みを帯びる。

瓦70～73は周縁のみ残存するもの。瓦71～73は写真のみ掲載。下塗漆は瓦70・73が黒漆に後補とみられる朱潤漆を上塗りしたもの、瓦71・72が黒漆に後補とみられる生漆を上塗りしたものである。

瓦47・48・50～52・55～57・60～62・64～67・69・70・73が堀埋土、瓦49・54・58・59・63が整地208、瓦53・71が第4層、瓦72が第3層、瓦68が第2層から出土した。

鬼瓦（瓦74・75 図15）

74は桐文の花部分。文様の上面に生漆を塗布し、金箔を貼る。第3層から出土。75は桐の茎か。文様の上面に下塗漆を塗布するが、黒漆の上に後補とみられる生漆を上塗りする。第3面精査時（第4層上面）から出土した。



瓦76: 整地208 瓦77・79・86・87: 堀埋土 瓦78・80: 第4層
瓦81・84: 第3層 瓦82・85: 第1層 瓦83: 土坑34

図16 出土遺物5 (1:4)

(b) 軒瓦 (図16 瓦76～83)

瓦76～78は軒丸瓦。瓦76は文字瓦。瓦当面に「国土安穩 下太平 正八年山口作」の文字が3行に亘って記される。瓦当の上部が欠損し、2・3行目の上1文字を欠いているが、2行目は「天下太平」、3行目は元号で「天正八年 山口作」の可能性が考えられる。豊国神社所蔵瓦に伏見城ゆかりとされる同様の文字瓦があるが⁽⁷⁾、それと比較すると瓦当径が一回り小さく、記載される元号の違い(本例「○正八年」、豊国神社「文禄元年」、豊国神社所蔵瓦は金箔瓦などの違いがある。整地208から出土した。瓦77・78は左巻三巴文。いずれも珠文が密に巡り、瓦78は珠文と巴文の境に圈線が巡る。いずれも巴頭のくびれは明瞭で、尾は長く伸びる。尾の先端は、瓦77は隣に接さず、瓦78は圈線に接する。瓦78の瓦当面はやや歪みがあり、周縁幅も一定でない。瓦77は堀埋土、瓦78は第4層から出土した。

瓦79～81は軒平瓦。瓦79は左側唐草の端部のみが残存するもの。顎貼付で、接合部はナデを施す。堀埋土から出土した。瓦80は中心飾りが三葉に間弁が付き、唐草が一反転するもの。瓦当は顎貼付で、貼付後にナデを施す。瓦当端部の調整は荒く、段差が生じている。第4層から出土した。瓦81は中心飾りが五葉とみられ、連続する唐草が二反転残存するもの。顎貼付で、瓦当面上縁は幅広の面取りを行う。第3層から出土した。

瓦82は軒棧瓦の小丸部分。瓦当径11.3cm。左巻三巴文で珠文が廻る。巴頭のくびれは明瞭で、尾は長く伸びるが隣とは接しない。珠文は密に配置され、9個残存する。表土から出土。瓦83は滴水瓦もしくは軒棧瓦の平瓦部か。左巻三巴文が配される。巴文は巴頭のくびれが明瞭で、尾は長く伸びるが隣とは接しない。土坑34から出土した。

(c) 道具瓦 (図16 瓦84～87)

瓦84は棟込瓦。瓦当径6.0cm。文様は梅鉢文である。第3層から出土した。瓦85は鬼瓦か。右巻三巴文で、巴の外側に珠文が廻る。三巴文の中心に径1.0cmの穿孔がある。巴頭のくびれは明瞭で、尾は長く伸びるが隣とは接しない。珠文は11個残存し、13個配されていたと考えられる。表土から出土した。瓦86は鬼板か。厚さ1.3cm。堀埋土から出土した。瓦87は面戸瓦。片面にナデを施す。堀埋土から出土した。

(d) 丸瓦・平瓦

出土瓦の大半は丸瓦・平瓦である。堀埋土及び整地層から出土した丸瓦・平瓦の破片数を表4にまとめたが、両者の比率は平瓦が圧倒的に高い。丸瓦凹面に残る制作痕はコビキA・Bどちらも確認できるが、堀埋土や各整地層によりそれらの比率が異なる。堀埋土・整地208・第4層ではコビキAの比率が高く、堀埋土と第4層はほぼ同様の比率を示す。第3層ではコビキBの比率が逆転しており、第2層では破片数自体が少ないため参考程度の数値になるが、技法が判別できるものはコビキBのみである⁽⁸⁾。

表4 丸・平瓦構成表

遺構・層名	丸瓦						平瓦				破片総数
	コビキA		コビキB		不明		破片数計	種類比率	破片数	種類比率	
	破片数	技法比率	破片数	技法比率	破片数	技法比率					
堀埋土	47	32.6%	35	24.3%	62	43.1%	144	15.5%	787	84.5%	931
整地208	18	46.2%	10	25.6%	11	28.2%	39	10.7%	324	89.3%	363
第4層	25	30.9%	19	23.5%	37	45.7%	81	14.5%	477	85.5%	558
第3層	11	25.0%	19	43.2%	14	31.8%	44	16.1%	229	83.9%	273
第2層	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	4	15.4%	22	84.6%	26

(3) 木製品 (図17 木1～8)

木1は漆器椀。高台は欠損する。口径12.8cm。全体に黒漆を塗布する。土坑14から出土した。木2・3は曲物の底板。木2は径7.0cmの小型のもの。柾目取りで、厚さ0.4cm。木3は径11.4cmの底板が半分残存するもの。柾目取りで、厚さ0.6cm。外縁付近の1箇所には弦とみられる幅0.5cmの紐が残存する。いずれも土坑63から出土した。木4は下駄の破片。歯の側に孔が1箇所穿たれることから、先端部の破片とみられる。土坑63から出土した。木5・6は箸。木5は残存長15.4cm。断面形は方形を呈し、幅0.5～0.8cmである。木6は長さ25.2cm。両端は細く削られ、幅は中央部で0.7cm、両端で0.5cmである。いずれも土坑63から出土した。木7・8は建物の部材と考えられる。木7は幅7.2cm前後、厚さ0.9cm前後の板状部材。柾目取りである。木8は先端がやや細くなる断面方形の棒状の部材。幅は先端で2.9cm、最も太い箇所で6.0cm。柾目取りである。いずれも堀埋土から出土した。

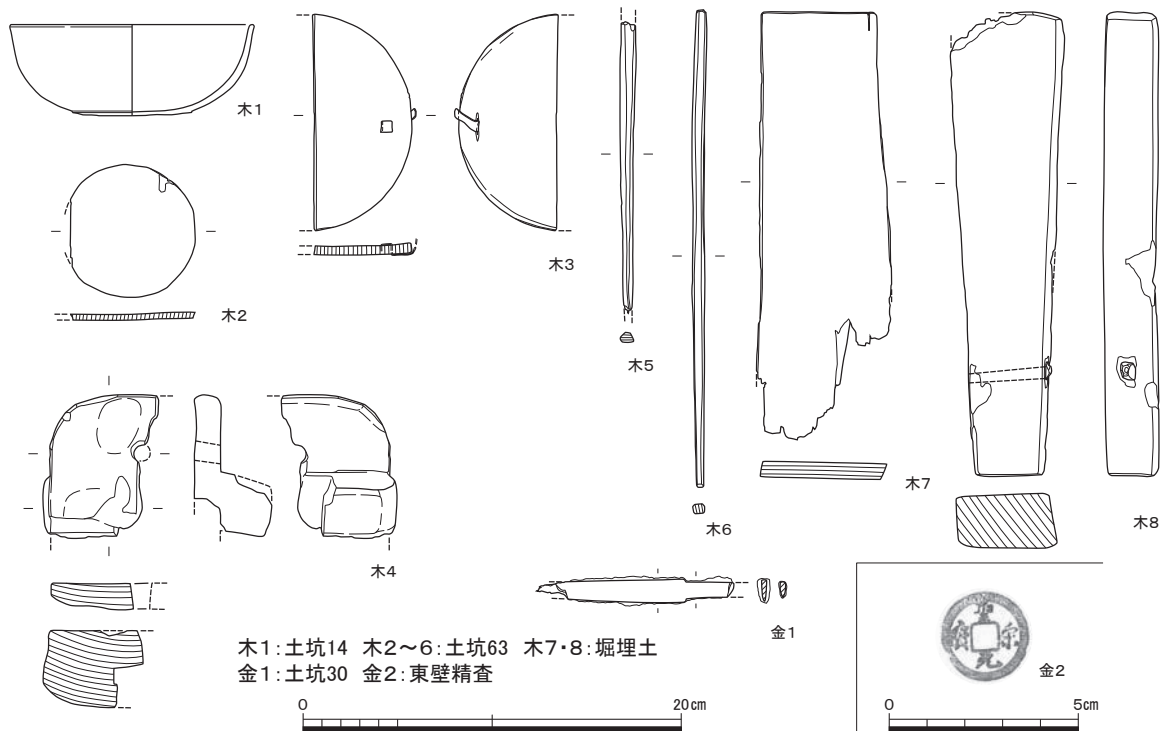


図17 出土遺物6 (1:2、1:4)

(4) 金属製品 (図17 金1・2)

金1は刀子。先端部は欠損する。刀身の根元は幅1.3cm、茎は幅0.9cm、厚さ0.4cm。土坑30から出土した。金2は銭貨で聖宋元寶。径2.4cm、厚さ0.1cm。調査区東壁精査時に出土した。

註

- (1) 本来は堀から出土した遺物は堀301・302と分けて取り上げるべきであるが、堀接合部付近で出土した遺物については堀301と302に分けることが困難である。堀の埋立ては同時に行われていることから、本報告ではまとめて堀埋土とし、出土地点のグリッドを観察表に記載する。
- (2) 本報告では、巴文の巻きの向きは、尾の伸びる方向で表す。
- (3) 森島康雄「資料紹介 聚楽第跡出土の軒平瓦」『京都府埋蔵文化財情報 第49号』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年
 森島康雄「平安京跡(聚楽第跡)発掘調査概報」『京都府遺跡調査概報 第54冊』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年
 また、聚楽第跡出土瓦については、京都府埋蔵文化財調査研究センターにて実見させていただいた。
- (4) 山口誠司氏(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)にご教示いただいた。
- (5) 上村和直『平安京左京北辺三坊四町跡』2002-09 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- (6) 網 伸也・田中利津子・山本雅和『京都国立博物館構内発掘調査報告書-法住寺・六波羅政庁跡・方広寺跡-』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告第23冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年
- (7) 豊国神社所蔵軒丸瓦については、大島大直氏(豊国神社)のご厚意により実見させていただいた。
- (8) 調査6の報告において石垣基礎10(指月伏見城期)、石垣30・溝28(木幡山伏見城期)出土丸瓦の製作痕の比率がまとめられている。石垣基礎10はコビキAの比率が高く、石垣30・溝28ではほぼコビキBになり、時期による技法の変化が見てとれる。今回の調査でもほぼ同様の成果を得られたと考えられる。

表5 土器・陶磁器類観察表

掲載No	器種	器形	地区	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	厚(cm)	色調	備考
1	土師器	皿 N	B2	整地 208	8.6	1.8	-	-	10YR8/4 浅黄橙色	
2	緑釉陶器	碗・皿	B2	整地 208	-	(1.3)	6.4	-	(釉)2.5Y7/4 浅黄色 (胎)10YR7/2 にぶい黄橙色	
3	土師器	皿 Sb	E2	土坑 30	9.3	1.8	-	-	10YR8/3 浅黄橙色	
4	施釉陶器	小碗	E2	土坑 30	6.0	3.1	3.0	-	(釉)2.5Y8/2 灰白色 (胎)2.5Y8/2 灰白色	志野
5	土師器	皿 S	D2・3	土坑 63	8.8	1.6	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙色	
6	土師器	皿 S	D2・3	土坑 63	10.3	2.0	-	-	10YR6/2 灰黄褐色	
7	染付	碗か	D2・3	土坑 63	-	(1.9)	-	-	(釉)うすい明青灰色・呉須 (胎)N9/0 白色	輸入 景徳鎮か
8	施釉陶器	向付	D2・3	土坑 63	11.6	2.8	6.8	-	(釉)2.5Y8/1 灰白色 (胎)2.5Y8/2 灰白色	志野
9	施釉陶器	小碗	D2・3	土坑 63	8.0	4.8	3.6	-	(釉)5Y4/2 灰オリーブ色 (胎)2.5Y6/1 黄灰色	唐津
10	施釉陶器	鉢か	D2・3	土坑 63	-	(3.6)	8.4	-	(釉)5Y6/3 オリーブ黄色 (胎)2.5Y8/2 灰白色	唐津
11	焼締陶器	播鉢	D2・3	土坑 63	-	(7.2)	-	-	10R5/6 赤色	備前
12	土師器	皿 Sb	D1・2	土坑 28	9.5	2.0	-	-	10YR8/3 浅黄橙色	
13	土師器	皿 Sb	D1・2	土坑 28	9.8	2.2	-	-	2.5Y8/2 灰白色	
14	施釉陶器	碗	D1・2	土坑 28	11.5	6.9	4.3	-	(釉)7.5YR5/3 にぶい褐色・ 2.5Y8/2 灰白色 (胎)5YR6/6 橙色	唐津
15	施釉陶器	蓋	D1・2	土坑 28	10.4	(1.5)	-	-	(釉)10YR5/2 灰黄褐色 (胎)10YR6/3 にぶい黄橙色	唐津
16	施釉陶器	皿	D1・2	土坑 28	12.0	3.6	4.6	-	(釉)2.5Y6/2 灰黄色 (胎)2.5Y7/2 灰黄色	唐津
17	施釉陶器	向付	D1・2	土坑 28	12.4	4.0	4.1	-	(釉)10YR6/2 灰黄褐色 (胎)10YR7/4 にぶい黄橙色	唐津
18	焼締陶器	播鉢	D1・2	土坑 28	26.6	(4.3)	-	-	5YR7/6 橙色	信楽
19	焼締陶器	播鉢	D1・2	土坑 28	25.0	(4.2)	-	-	2.5YR6/6 橙色	信楽
20	瓦質土器	瓦灯	D1・2	土坑 28	17.0	7.3	14.6	-	10YR5/1 褐灰色	
21	瓦質土器	火鉢	D1・2	土坑 28	35.6	(7.1)	-	-	N 4/0 灰色	
22	土師器	皿 S	C1・2	土坑 26	10.8	2.0	-	-	10YR8/3 浅黄橙色	
23	焼締陶器	播鉢	C1・2	土坑 26	-	(8.3)	15.4	-	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	信楽
24	土師器	つぼつぼ	D3	土坑 62	3.0	2.2	3.0	-	2.5Y8/3 淡黄色	
25	土師器	小碗	D3	土坑 62	4.8	3.5	5.2	-	2.5Y8/3 淡黄色	
26	施釉陶器	筒形碗	D3	土坑 62	7.5	6.5	5.2	-	(釉)5Y6/2 灰オリーブ色 (胎)5Y7/1 灰白色	
27	施釉陶器	碗	D3	土坑 62	9.5	6.3	4.7	-	(釉)5Y6/3 オリーブ黄色 (胎)2.5Y8/1 灰白色	
28	土製品	人形	D3	土坑 62	4.2	9.8	-	4.0	7.5YR8/3 浅黄橙色	
29	土製品	土鈴	D3	土坑 62	5.3	(4.6)	-	-	10YR8/2 灰白色	

表6 瓦観察表

番号	種類	地区	出土遺構層位	文様	成形・調整	備考
瓦1	軒丸瓦 (金箔瓦)	G3	堀埋土	左巻三巴文 巴頭のくびれ明瞭 珠文と巴文の境に圏線が巡る 尾は長く伸び圏線に接する 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残11	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面コビキ A 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦2	軒丸瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	左巻三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びるが隣に接しない 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残9	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦3	軒丸瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	左巻三巴文 尾は長く伸びるが隣と 接しない 珠文残5	丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦4	軒丸瓦 (金箔瓦)	C1	堀埋土	左巻三巴文 尾は長く伸びる 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残5	瓦当裏面荒いナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦5	軒丸瓦 (金箔瓦)	C1	堀埋土	左巻三巴文 珠文と巴文の境に圏線が 巡る 尾は長く伸び圏線に接する 巴の断面は上面が平坦 珠文残3 珠文の間隔が広い	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦6	軒丸瓦 (金箔瓦)	F3	堀埋土	左巻三巴文 珠文残2	瓦頭裏面ナデ	黒色漆 珠文は無金 周縁に箔押し単位が残る
瓦7	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	整地 208	巴文は残存せず 珠文残3	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦8	軒丸瓦 (金箔瓦)	A2	整地 208	左巻三巴文 巴頭のくびれ明瞭 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残11	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦9	軒丸瓦 (金箔瓦)	A2	整地 208	左巻三巴文 尾は長く伸びる 珠文残9	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面布目・コビキ A 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金 周縁の欠け部に箔押しあり
瓦10	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	整地 208	左巻三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びる 巴の断面は上面が平坦 珠文残4	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦11	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	第4層	左巻三巴文 尾は隣と接する 巴の断面は上位に稜を持つ 珠文残6	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦12	軒丸瓦 (金箔瓦)	E1	第4層	左巻三巴文 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残5	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金 周縁幅が一定でない
瓦13	軒丸瓦 (金箔瓦)	南半部	第4層	左巻三巴文 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残5	瓦当裏面ナデ	黒色漆 珠文は無金
瓦14	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	第4層	左巻三巴文 巴頭のくびれ明瞭 巴の断面は上面が平坦	瓦当裏面ナデ	黒色漆
瓦15	軒丸瓦 (金箔瓦)	A1	第3層	左巻三巴文 尾は隣と接する 珠文残4	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦16	軒丸瓦 (金箔瓦)	D2	第3層	左巻三巴文 巴の断面は上面が平坦 珠文残1	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦17	軒丸瓦 (金箔瓦)	B1	堀埋土	周縁と珠文のみ残存	丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面布目・コビキ B 凹面後端面に櫛状工具による横方向 の調整	黒色漆 珠文は無金 周縁の欠け部に箔押しあり
瓦18	軒丸瓦 (金箔瓦)	E・F 2	堀埋土	左巻三巴文 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残3 珠文の間隔広い	丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面布目・コビキ A	黒色漆→朱潤漆 文様付近の凹面に漆がはみ 出る
瓦19	軒丸瓦 (金箔瓦)	C1	堀埋土	周縁のみ	丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆→朱潤漆 周縁の欠け部に箔押しあり
瓦20	軒丸瓦 (金箔瓦)	C1	堀埋土	周縁のみ		黒色漆→朱潤漆
瓦21	軒丸瓦 (金箔瓦)	D1	堀埋土	珠文残2	丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆→朱潤漆 珠文は無金
瓦22	軒丸瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	周縁のみ		黒色漆→朱潤漆
瓦23	軒丸瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	周縁のみ		黒色漆→朱潤漆

番号	種類	地区	出土遺構 層位	文様	成形・調整	備考
瓦 24	軒丸瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	巴文の尾のみ残存 珠文無し	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆
瓦 25	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	第4層	周縁のみ	丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面コビキ A・カキメあり 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆
瓦 26	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	第4層	珠文残 2	瓦当裏面ナデ	黒色漆
瓦 27	軒丸瓦 (金箔瓦)	B2	第4層	周縁のみ	丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆
瓦 28	軒丸瓦 (金箔瓦)	B1	土坑 107	周縁のみ	瓦当裏面ナデ	朱漆
瓦 29	軒丸瓦 (金箔瓦)	B1	土坑 107	珠文残 2 珠文は押し潰したように扁平	瓦当裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆
瓦 30	軒丸瓦 (金箔瓦)	南半部	第4層	重弁菊花文 16 弁	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 31	菊丸瓦 (金箔瓦)	E2	堀埋土	重弁菊花文 8 弁	瓦当裏面ナデ へら描き状の線刻 丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆→朱潤漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 32	菊丸瓦 (金箔瓦)	E2	堀埋土	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 33	菊丸瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	重弁菊花文か 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 34	菊丸瓦 (金箔瓦)	F2	堀埋土	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 35	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 36	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	重弁菊花文 8 弁か	丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 37	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 38	菊丸瓦 (金箔瓦)	G3	堀埋土	重弁菊花文 8 弁 花弁は浮彫状 周縁あり	瓦当裏面ナデ	黒色漆 文様全体に箔押し
瓦 39	菊丸瓦 (金箔瓦)	C1	整地 208	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 中心及び花弁に箔押し
瓦 40	菊丸瓦 (金箔瓦)	D2	整地 208	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 41	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2	第4層	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ	黒色漆→生漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 42	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2	第4層	重弁菊花文 8 弁か		黒色漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 43	菊丸瓦 (金箔瓦)	G2	第3面 精査	重弁菊花文 8 弁か	丸瓦凸面縦方向のナデ 凹面コビキ B	黒色漆→朱潤漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 44	菊丸瓦 (金箔瓦)	B1	第3層	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	黒色漆→生漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 45	菊丸瓦 (金箔瓦)	D2	第3層	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ 丸瓦凸面縦方向のナデ 瓦当接合後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆 中心及び花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 46	菊丸瓦 (金箔瓦)	B2	ピット 109	重弁菊花文 8 弁か	瓦当裏面ナデ	生漆 花弁に箔押し 外弁は先端のみ箔押し
瓦 47	軒平瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	唐草二反転 唐草は浮彫状	額貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆
瓦 48	軒平瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	中心飾は様式化した宝珠 唐草は独立し三反転残存	額貼付 額貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆 周縁の欠け部に箔押しあり 文様周囲の凹面にも箔がは み出る 聚楽第軒平瓦 35 類と同範

番号	種類	地区	出土遺構 層位	文様	成形・調整	備考
瓦 49	軒平瓦 (金箔瓦)	C1	整地 208	中心飾は様式化した宝珠 唐草は独立し二反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆 文様周囲の凹面にも箔がは み出る 聚楽第軒平瓦 35 類と同範
瓦 50	軒平瓦 (金箔瓦)	E・F 2	堀埋土	中心飾は三葉か 唐草は連続し二反転半	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 各端縁は面取り 瓦当凹面下端に幅の狭いケズリ	黒色漆→朱潤漆 周縁の欠け部に箔押しあり 安土城軒平瓦 I 型式 胎土は非常に密で硬質
瓦 51	軒平瓦 (金箔瓦)	E・F 2	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は独立し三反転	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆 文様周囲の凹面にも箔がは み出る
瓦 52	軒平瓦 (金箔瓦)	F・G 2・3	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は連続し三反転	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ	黒漆 大きな範傷有
瓦 53	軒平瓦 (金箔瓦)	E1	第 4 層	中心飾は欠損 唐草は独立し二反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 54	軒平瓦 (金箔瓦)	B2	整地 208	中心飾は欠損 唐草は連続し三反転 端の唐草は長く伸びる	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ無し 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆
瓦 55	軒平瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	中心飾は三葉 唐草は連続し二反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁に面取り 浅い瓦当	黒色漆→朱潤漆 聚楽第 10 類と同文か
瓦 56	軒平瓦 (金箔瓦)	C1	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は連続し三反転 端部に半回転する唐草があった可能 性あり	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁に面取り 浅い瓦当	黒色漆→朱潤漆 聚楽第 10 類と同文か
瓦 57	軒平瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は連続し一反転残存 唐草は連続する	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 58	軒平瓦 (金箔瓦)	A2	整地 208	中心飾は端部が肥厚した三葉 唐草は独立し三反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 59	軒平瓦 (金箔瓦)	D2	整地 208	中心飾は欠損 唐草は一反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁の面取り無し 平瓦凹面ナデ	黒色漆→朱潤漆
瓦 60	軒平瓦 (金箔瓦)	E・F 2	堀埋土	中心飾は先端が肥厚した三葉 唐草は独立し二反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 61	軒平瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は独立し二反転残存	顎貼付 瓦当面上縁は面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 62	軒平瓦 (金箔瓦)	E2	堀埋土	中心飾は欠損 唐草は連続し三反転残存 第三唐草は第一唐草から派生する	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ	黒色漆→朱潤漆
瓦 63	軒平瓦 (金箔瓦)	B2	整地 208	中心飾は肉厚の三葉 唐草は連続し二反転	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆 金箔・漆の残存悪い
瓦 64	軒平瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	中心飾は肉厚の三葉か 唐草は長く一反転	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆 周縁の欠け部に箔押しあり
瓦 65	軒平瓦 (金箔瓦)	F2	堀埋土	唐草先端のみ残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆
瓦 66	軒平瓦 (金箔瓦)	G3	堀埋土	中心飾は下向き肉厚の三葉か 唐草は長く一反転	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆
瓦 67	軒平瓦 (金箔瓦)	B1	堀埋土	端部の唐草のみ残存 瓦当面端部の無文部分広い	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆
瓦 68	軒平瓦 (金箔瓦)	A3	第 2 層	唐草先端のみ残存	顎貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	生漆 金箔・漆の残存悪い
瓦 69	軒平瓦 (金箔瓦)	E1	堀埋土	瓦当面剥離し周縁のみ残存	顎貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 70	軒平瓦 (金箔瓦)	G2・3	堀埋土	ほぼ周縁のみ残存	顎貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 71	軒平瓦 (金箔瓦)	B2	第 4 層	周縁のみ	顎貼付	黒色漆→生漆
瓦 72	軒平瓦 (金箔瓦)	A1	第 3 層	周縁のみ	顎貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→生漆
瓦 73	軒平瓦 (金箔瓦)	B1	堀埋土	周縁のみ	顎貼付 瓦当面上縁は幅広の面取り	黒色漆→朱潤漆
瓦 74	道具瓦 (金箔瓦)	A1	第 3 層	桐の花部		生漆
瓦 75	道具瓦 (金箔瓦)	A1	第 3 面 精査	断面丸みを帯び、茎状に延びる		黒色漆→生漆
瓦 76	軒丸瓦	A2	整地 208	「国土安穩 ○下太平 ○正八年山 口作」	瓦当裏面ナデ	文字瓦

番号	種類	地区	出土遺構 層位	文様	成形・調整	備考
瓦 77	軒丸瓦	G3	堀埋土	左卷三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びるが隣に接しない 巴の断面は上面が平坦 珠文残 4	瓦当裏面ナデ	
瓦 78	軒丸瓦	南半部	第 4 層	左卷三巴文 珠文と巴文の境に圏線 が巡る 尾は長く伸び圏線に接する 巴の断面は上面が平坦 珠文残 12	瓦当裏面ナデ 丸瓦接合後ナデ	
瓦 79	軒平瓦	G2・3	堀埋土	唐草先端のみ残存	顎貼付 顎貼付後ナデ 瓦当面上縁面取り 平瓦凹面ナデ	
瓦 80	軒平瓦	G3	第 4 層	中心飾りは三葉に間弁 唐草は一反転	顎貼付 瓦当面上縁・下縁に幅の狭い面取り	顎貼付後に瓦当面の調整が 荒く段差が生じる
瓦 81	軒平瓦	B1	第 3 層	中心飾りは五葉か 唐草は連続し二反転残存	顎貼付 顎貼付後裏面ナデ 瓦当面上縁は幅広の面取り	
瓦 82	軒棧瓦	-	第 1 層	左卷三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びるが隣とは接しない 巴の断面は丸みを帯びる 珠文残 9	平瓦凹面縦方向のナデ	小丸のみ残存
瓦 83	滴水瓦か 軒棧瓦	D3	土坑 34	左卷三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びるが隣とは接しない 巴の断面は丸みを帯びる	瓦当裏面ナデ	滴水瓦もしくは軒棧瓦の 平瓦部か
瓦 84	棟込瓦	C1	第 3 層	梅鉢文	瓦当裏面ナデ	
瓦 85	道具瓦	-	第 1 層	右卷三巴文 巴頭のくびれ明瞭 尾は長く伸びるが隣に接しない 巴の断面は上面がやや平坦になる 珠文残 11	瓦当裏面ヘラ状工具による調整 瓦頭の中心に穿孔	鬼瓦か
瓦 86	道具瓦	E1	堀埋土			鬼板か
瓦 87	面戸瓦	F2・3	堀埋土		表面ナデ 裏面成形時の押圧をナデ消す	

表 7 木製品観察表

掲載 No	器種	器形	地区	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	備考
木 1	漆器	椀	B2・3	土坑 14	口径 12.8	器高 4.8	底径 6.3 程度	高台欠損
木 2	木製品	曲物	D2・3	土坑 63	7.0	(6.6)	0.4	
木 3	木製品	曲物	D2・3	土坑 63	(11.4)	(5.5)	0.6	
木 4	木製品	下駄	D2・3	土坑 63	(7.6)	(6.1)	4.1	
木 5	木製品	箸	D2・3	土坑 63	(15.4)	0.8	0.5	
木 6	木製品	箸	D2・3	土坑 63	25.2	0.7	0.5	
木 7	木製品	建築材	F2	堀埋土	(22.6)	(7.2)	0.9 程度	
木 8	木製品	建築材	F2	堀埋土	24.5	(6.0)	2.9	

表 8 金属製品観察表

掲載 No	器種	器形	地区	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	備考
金 1	金属製品	刀子	E2	土坑 30	(10.5)	1.7	0.7	重量 1.36g
金 2	金属製品	銭貨	D3	東壁精査	2.4	2.4	0.1	重量 3.30g 聖宋元寶

第Ⅳ章 まとめ

1 遺跡の変遷

伏見城以前

今回の調査では、調査区全体が指月城の堀であり、築城以前の遺構や旧地形は確認できなかった。遺物も堀埋土や整地層から平安時代～鎌倉時代の土器類が少数出土したのみである。伏見城以前の成果は少なかったが、堀埋土や整地土から上記の遺物が出土していることから、周辺に平安時代～鎌倉時代の集落などの存在も想定される。

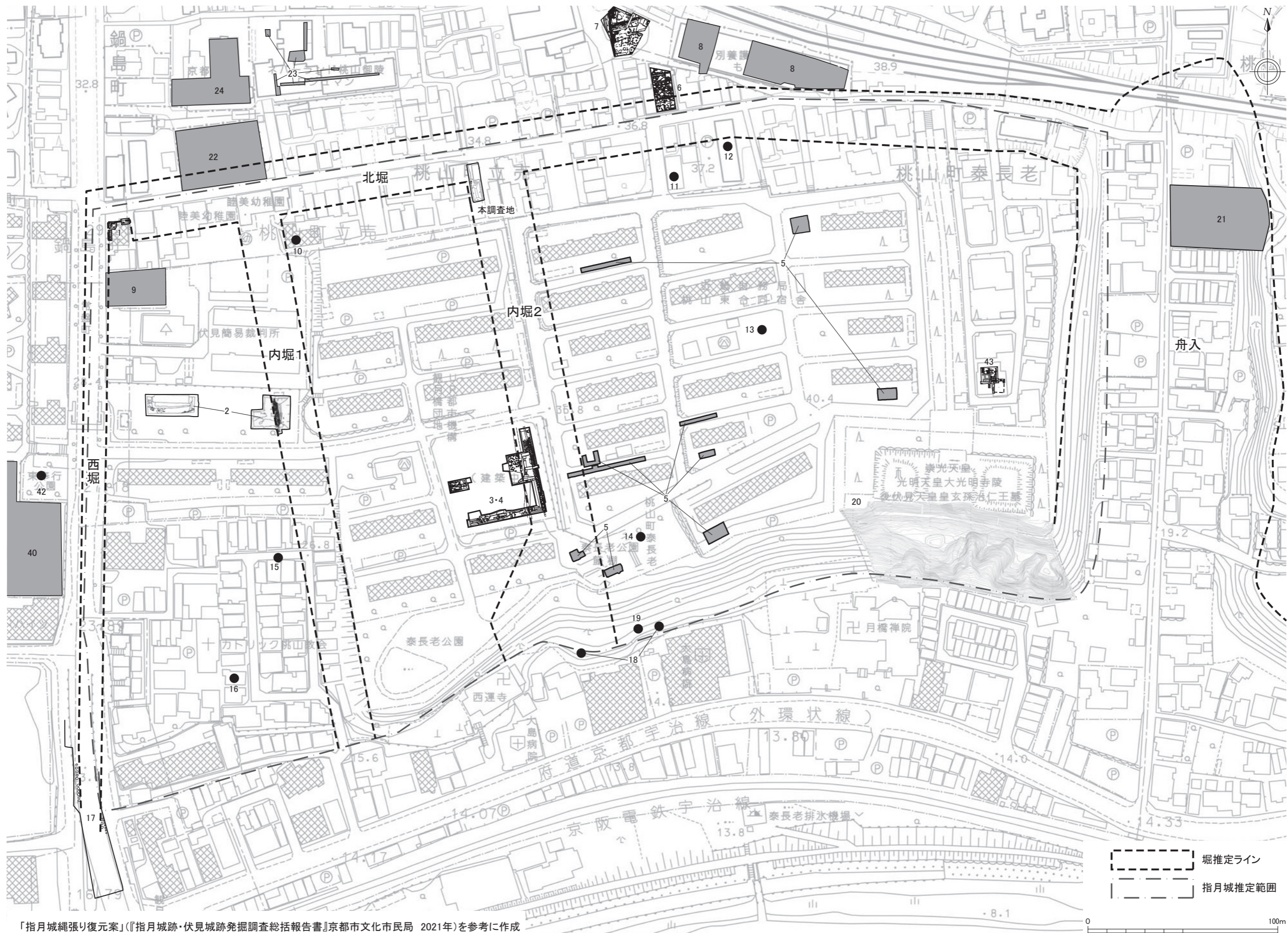
指月伏見城期（図18）

調査区南半の西壁において、南北方向の内堀西肩とみられる地山の落ち込みを確認した。また、その地山の落ち込みは調査区の中程で途切れており、北側に向けて急角度で地山が落ち込む状況が西壁断面で確認された。これは指月城北堀の南肩を検出したものと考えられ、本調査区内で北堀南肩と内堀西肩の接合部を検出したと考えられる。

内堀西肩の平面ラインは本調査区内で確認できなかったが、落ち込みの角度から調査区西端付近であると想定される。本調査地の南で平成27年に実施された調査3で南北堀の西肩が検出されており、この西肩ラインの北延長は今回検出した内堀西肩推定ラインとほぼ一致する。このことから、両調査で検出した内堀は直線的に南東－北西方向に伸び、北堀に接合していたものと想定される。

北堀とみられる堀301は、今回の調査では南肩口の位置を調査区西壁で検出したのみで、南肩ラインを平面的には検出できていない。北堀南肩が立売通と並行して西に延びると想定した場合、平成21年に実施された調査1で検出された北堀南石垣から約3m南に位置している。調査1では北・西に面を向ける石垣が検出されたことから指月城の北西角を確認したと推定されているが、北西側の調査区で検出された北堀南石垣が東隣の調査区で検出されず、堀埋土とみられる堆積層が確認されている。北堀南石垣が2つの調査区で直線的に確認できなかったことについては、石垣が抜き取られた可能性の他に、櫓の存在などにより堀幅が異なっていた可能性も想定されている⁽¹⁾。今回の調査成果と合わせても、堀の平面プランは一直線ではなく折れが存在していた可能性が高いと考えられる。また、調査6では北堀北肩とみられる落ち込みが確認されているが、この落ち込みラインを立売通と並行して西に延長すると、今回検出した南肩との幅は約27mとなる。周辺の調査成果から本調査地に位置する内堀（内堀2）の幅は30m前後と想定されており⁽²⁾、北堀も内堀2と同様の幅を持つ大規模な堀であると考えられる。

本調査地以东の北堀の状況については、調査8で堀埋土は検出されず地山が確認されていることから、北堀北肩ラインは調査6・8の間で折れが生じている可能性が考えられる⁽³⁾。一方、南肩の位置については、現在のところ既往調査で地山の落ち込みなどは確認されていない。調査6・8の南側で実施された調査11・12においては安土桃山～江戸時代の遺構面とその下位で地山と判断された面を確認したとされ、現時点では北堀南肩は今回検出した南肩位置から立売通と並行して東に延びる可能性を考える。



「指月城縄張り復元案」(『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』京都市文化市民局 2021年)を参考に作成

図18 指月城堀推定復元図 (1 : 2,000)

既往調査の成果などから指月城北堀の位置は立売通に比定されており、今回、北堀南肩とみられる地山の落ち込みを検出したことはその想定を補強するものと考えられる。また、北堀と内堀が直接接合する状況を確認できたことは、指月城の縄張りを復元する上で大きな成果といえよう。現時点では堀の平面プランは不明な点が多いが、今後の調査成果の積み重ねにより、詳細な復元がなされることが期待される。

木幡山伏見城期

第4層は指月城の堀を埋立てた直後の整地層と考えられ、第4層上面（第3面）で検出した遺構は木幡山伏見城期に属すると考えられる。第3層上面（第2面）では立売通に面する建物を構成するとみられる柱穴群を検出した。これらの遺構からは時期を判断する遺物の出土は少ないが、上位層である第2層の上面（第1面）で11A段階の土坑を検出していることから、木幡山伏見城期の遺構群と考えられる。

第3層上面で検出した建物は、全体は検出できていないが桁行6.7m以上、梁間3.4mといった小規模なもので、長屋状の建物と考えられる。天明8年（1788）作成の「伏見御城郭并屋敷取之絵図」（図5）によれば、調査地周辺は町家となっており、今回の調査成果はそれを裏付けるものと考えられる。一方、本調査地から約150m北東で実施された調査8では、立売通の北に立地する町家が、慶長10年（1605）の火災により焼失した状況が確認されたが⁽⁴⁾、今回の調査では焼土面や火災処理坑などは認められず、土坑から二次的に火を受けた遺物が少量出土したのみであった。本調査地では、慶長10年の火災による被害はあまり受けなかった可能性がある。

廃城後

第2層上面では、主に18世紀代の遺構を検出した。検出した遺構は詳細不明の土坑が大半であるが、調査区南部の東壁付近で礎石54を検出しており、調査区北半を中心に柱穴とみられるピットを複数検出した。今回の調査では建物などは復元できなかったが、伏見城廃城後も調査地周辺は引き続き町家が展開していたと考えられる。

2 出土瓦

今回の調査では多くの瓦が出土した。丸瓦・平瓦が中心であるが、軒瓦や道具瓦も多くみられる。今回検出した堀301・302は指月城の北堀・内堀と考えられ、堀埋土の直上に堆積する第4層・整地208は堀埋立て後に連続して敷設された木幡山伏見城期の整地層と考えられる。堀埋土と第4層・整地208から出土した丸瓦に残る製作技法（コビキA・B）の比率を確認したところほぼ同様の数値が得られ、このことも堀の埋立てとその直上への整地が連続して行われた根拠の一つと考える。堀の埋立てとその後の整地作業が慶長の大地震後の土地利用の変化によるものとするれば、堀埋土と第4層・整地208から出土した遺物は指月伏見城期に比定されるものと考えられる。以下に、今回の調査で出土した瓦について、主に軒瓦を中心にまとめていきたい⁽⁵⁾。

指月伏見城期の金箔瓦の比率

今回出土した軒瓦・道具瓦のうち、上述の理由から指月伏見城期と判断できる堀埋土・第4層・

表9 堀埋土、第4層、整地208出土軒瓦・道具瓦構成表

種類	文様	数量 (金箔瓦)	金箔瓦率
軒丸瓦	三巴文	17 (15)	88.2%
	周縁・珠文のみ (三巴文か)	10 (10)	100.0%
	菊文	1 (1)	100.0%
	文字	1 (0)	0.0%
菊丸瓦	重弁菊文	13 (13)	100.0%
軒平瓦	宝珠・唐草	2 (2)	100.0%
	三葉・唐草	4 (4)	100.0%
	三葉 (肉厚)・唐草	2 (2)	100.0%
	三葉 (下向き)・唐草	1 (1)	100.0%
	三葉に間弁・唐草	1 (0)	0.0%
	唐草のみ	13 (12)	92.3%
	周縁のみ	4 (4)	100%
鬼瓦・飾瓦		2 (1)	50.0%
面戸瓦		1 (0)	0.0%
鬨斗瓦		39 (0)	0.0%
計		111 (65)	58.6%

整地208出土のものを取り上げ、構成を表にまとめた(表9)。軒丸瓦・軒平瓦・菊丸瓦が中心で、道具瓦は少ない。また、軒丸瓦・軒平瓦は金箔瓦の比率が90%前後であり、菊丸瓦は出土したすべてが金箔瓦であった。本調査地の南で実施された調査3出土の軒瓦・飾瓦も高い金箔瓦率を示している⁽⁶⁾。一方、本調査では鬨斗瓦や面戸瓦などは出土数が少なく、金箔や漆が残るものは認められなかった。

下塗漆について

堀埋土から出土した金箔瓦は、水分の多いシルト質の土に含まれていたためか金箔や下塗漆の残りが良好なものが多い。下塗漆は黒漆に後補とみられる朱潤漆が上塗りされたものが75点中33点と半数近くを占める。次いで黒漆が多く、朱漆・生漆・黒漆に後補とみられる生漆が上塗りされたものが少数確認された。下塗漆が2層確認できたものは金箔が貼り直されたものと考えられ、周縁の欠け部に金箔が貼られているものもあることから、今回出土した金箔瓦には他の城郭から搬入された再利用瓦が多く含まれると考えられる。

軒丸・軒平瓦の文様と同範について

軒丸瓦の文様は、左巻き三巴文、菊文、文字であり、菊文・文字それぞれ1点以外は全て巴文であった。本調査地の南で実施された調査3の出土瓦と比較しても文様の種類は少なく、調査3で出土した無文(日輪文)や桐文などは出土していない。軒平瓦についても全て唐草文であり、中心飾りも宝珠・三葉・肉厚三葉・下向き三葉・三葉に間弁など種類は多くない。

同範については、判定が比較的容易な軒平瓦を取り上げる。中心飾りが宝珠である瓦48・49が範傷の位置などから同範とみられるが、それ以外には確認できなかった。また、瓦48・49は聚楽第跡出土軒平瓦35類と同範であることが確認された。その他、瓦55が聚楽第跡出土軒平瓦10類、

瓦63が聚楽第跡出土軒平瓦26類と同範ではないが文様構成が同じであると確認できた。瓦48・49・55は分析の結果下塗漆が2層確認されたことから金箔が貼り直されていることが確認でき、瓦48は周縁の欠け部にも金箔が貼られていることから、これらの瓦は聚楽第から搬入され金箔を貼り直した再利用瓦である可能性が高いと考えられる。指月城築城に際し、破却された聚楽第から建築材が運び込まれたとされるが、これらの金箔瓦はそのことを示す物証といえよう。

安土城系軒平瓦について

瓦50は前章で述べた通り、文様構成や製作技法に安土城系瓦の特徴がみられる。中心飾りは大半が欠損するため詳細が不明であるが、唐草が二反転半し、第三唐草の上部が窪む形状は安土城跡軒平瓦I型式⁽⁷⁾とほぼ同じであるとみられる。製作技法も瓦当面下位に4mm幅のケズリが施されること、各縁部に面取りが施されることなど非常に丁寧な調整がなされる。下塗漆は黒漆に後補とみられる朱潤漆が上塗りされ、周縁の欠け部にも金箔が貼られていることから、瓦50は他の城郭から運び込まれ、金箔を貼り直した再利用瓦と考えられる。

同時期の城郭から出土した安土城系軒平瓦として、滋賀県高島市所在の大溝城から出土した軒平瓦と比較すると⁽⁸⁾、文様構成や成形技法・調整はほぼ同じであるが、中心飾りや唐草が大溝城出土軒平瓦の方がやや大振りな個体が多いことや、本調査で出土した瓦50の胎土は暗灰色を呈するが非常に精良で混入物が少なく硬質であることなど違いもみられる。瓦50は大溝城出土瓦と類似する資料であり、金箔を貼り直していることから他城郭から搬入された再利用瓦と考えられるが、主に胎土の違いから大溝城からの搬入品ではないと考えられる。

今回の調査で出土した安土城系の瓦は瓦50の1点のみであり、搬入経路や葺かれていた建物など不明な点は多い。この1点のみを持って安土城系工人と豊臣系城郭との関りを断言することはできず、ここでは可能性を示すのみにとどめ、今後の調査成果の蓄積を待ちたい。

文字瓦について

整地208から瓦当面に文字が記された瓦76が出土した。文字の内容については前章に記載したが、1・2行目に記された「国土安穩（天）下太平」という内容から、通常の建物ではなく城内に設けられた社などに葺かれていた可能性も考えられる。3行目に記される「○正八年 山口作」については、上位は年号、下位は製作者と考えられる。年号については、8年まで続く元号を考慮すれば、天正8年（1580）・永正8年（1511）が候補となるが、天正8年の可能性が高いと考える。しかしながら、天正8年であれば、指月屋敷の建築年（文禄元年 1592）より12年も早い。これについては、①他の城郭や寺院に葺かれていた瓦が指月屋敷・指月城に搬入された再利用瓦、②年号は製作年を表すのではなく、元となった文章などを写したものの、③指月屋敷・指月城に葺かれていた瓦ではなく、他所から運ばれた整地土に混入していたもの、などが可能性として上げられる。



図19 豊国神社所蔵文字瓦（筆者撮影）

豊国神社所蔵瓦に伏見城ゆかりとされる同様の文字瓦(図19)があるが⁽⁹⁾、これとは法量、記載される年号、「国」の字(瓦76「国」、豊国神社「國」)、「山口作」の位置、文字の書体、金箔の有無などの違いがある。今回出土した瓦76は豊国神社所蔵瓦と比べ、法量が二回りほど小さく、文字もやや粗雑な印象を受ける。

不明な点は非常に多く、実際に指月城内で用いられた瓦であるとは現状では断定できない。しかしながら、指月城内で用いられていた瓦であるとすれば、先述のように通常の建物ではなく鎮守社などに葺かれていた可能性もあり、指月城の建物構成を考えるうえで重要な資料になるものと考えられる。

註

- (1) 山本雅和「伏見城跡(09F133)」『京都市遺跡詳細分布調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
- (2) 馬瀬智光・新田和央「V 総括」『指月城跡・伏見城跡 発掘調査総括報告書』京都市文化市民局 2021年
- (3) 調査6の報告では、北堀について調査8の地点では空堀となっていた可能性も指摘されている。
- (4) 桜井みどり・南 孝雄「伏見城跡」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- (5) 出土瓦について、下記の方々から多くの意見を頂戴した。記して感謝いたします。(敬称略)
山口誠司(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)、浜中邦弘(同志社大学)、森島康雄(公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)、中西祐樹(京都先端科学大学)、中井 均(滋賀県立大学)、鈴木久史(京都市文化財保護課)、鈴木久男(京都産業大学)
- (6) 小森俊寛『伏見城跡・指月城跡-平成27年度発掘調査報告書-』有限会社京都平安文化財 2021年
- (7) 『発掘調査20年の記録 安土 信長の城と城下町』滋賀県教育委員会 2009年
- (8) 大溝城出土瓦については、西 悠太郎氏(高島市教育委員会)のご配慮により実見させて頂いた。
- (9) 豊国神社所蔵文字瓦の類例として、大田南畝による江戸時代後半の随筆集『一話一言』巻20に、「牛込船河原の堀より出たる古瓦に、國土安穩 天下太平 文禄元 山口作という文字のある丸瓦を見たり」という記事が、図と共に掲載されている。

参考文献

- 馬瀬智光・熊谷舞子・新田和央・北野信彦・古川 匠『指月城跡・伏見城跡 発掘調査総括報告書』京都市文化市民局 2021年
- 『天下人の城〔改版〕』京都市文化財ブックス第31集 京都市文化市民局 2023年
- 『伏見城跡立入調査報告』大阪歴史学会 2022年
- 森島康男「それでも指月城はあった」『京都府埋蔵文化財論集』第6集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2010年
- 山本雅和「伏見・指月城の復元」『リーフレット京都』No.261 財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 2010年
- 『発掘調査20年の記録 安土 信長の城と城下町』滋賀県教育委員会 2009年
- 山口誠司「信長死後の安土城造瓦集団についての一考察」『考古学と文化史2』同志社大学考古学シリーズXIV 同志社大学 2025年

附章 指月伏見城出土金箔瓦の分析調査

龍谷大学 教授 北野信彦

1 はじめに

伏見区桃山町立売周辺は、豊臣秀吉築城による指月伏見城が所在した地区である。令和7年度の文化財サービスによる発掘調査では、指月伏見城期関連の堀跡が検出され、埋土から残存状態が良好な金箔瓦資料が合計75点出土した。いずれもその出土状況から、豊臣期指月伏見城関連の城郭建造物に使用された金箔瓦の破片であることが明確な貴重な資料群である。今回、この金箔瓦の金箔及び漆箔の漆塗料に関する分析調査を実施する機会を得たので、分析結果を報告する。

2 調査対象試料

本調査では、出土金箔瓦片資料75点を、文化財サービス主屋事務所において全体の状態観察、基本的な写真撮影、漆箔箇所拡大観察、可搬型蛍光X線分析装置およびデジタル顕微鏡を用いた塗装状態の拡大観察と材質の定性分析をまず行った。次に詳細な漆箔に関する分析調査を実施する目的で、採取可能であった1～2mm角の漆箔料剥落小片を各資料から注意深く採取し、漆箔顔料の詳細観察、金箔の金位測定分析試料とした。

3 調査方法

(1) 漆箔の拡大観察

調査対象である各金箔瓦における漆箔の表面状態は、まず(株)スカラ製のDG-3型デジタル顕微鏡を用いて50倍の倍率で拡大観察した。引き続き、採取可能であった漆箔小破片試料は、(株)ハイロックス社製のRH-2000型デジタルマイクロスコープを用いて350～1,000倍の倍率で主に漆箔の漆塗料の観察を実施し、それぞれ画像記録として保存した。

(2) 金箔および接着漆の無機元素の定性分析

調査対象試料である各漆箔の金箔および接着漆の構成無機元素の定性分析は、まず(株)リガクのNiton XL3t-700携帯型のエネルギー分散型蛍光X線分析装置を調査対象箇所に注意深く近接させて大気中で分析した。設定条件は、測定視野は直径8.0mmスポット、管球は対陰極Agターゲット、管電圧は15kV～40kVの切替操作、大気圧で分析設定時間は60秒である。

引き続き採取可能であった漆箔小破片試料の無機元素に関する詳細な定性分析は、分析用カーボンテープに固定した顔料を(株)堀場製作所MESA-500型の蛍光X線分析装置を使用して実施した。設定条件は、分析時間は600秒、試料室内は真空、X線管電圧は15kVおよび50kV、電流は240 μ Aおよび20 μ A、検出強度は200.0～250.0cpsである。

(3) 金箔の金位（金：銀配合比率）の測定

調査対象試料の金位である金：銀配合比率の測定値の算定には、まず（株）日立ハイテクノロジー製の走査型電子顕微鏡（SU3500）による剥落試料の観察を行った。設定条件は、倍率 100 倍、ワークディスタンス 10.0 mm、加速電圧 30.0V、スポット強度 50.0 である。金：銀：銅含有率の測定は、電子顕微鏡に付設している（株）堀場製作所製エネルギー分散型 X 線分析装置（EMAX-MaxN）を用い、それぞれ 1 試料につき 3 ポイントの質量測定を行った。設定条件は、加速電圧 30.0、照射時間は任意である。この分析調査は、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程大学院生大西功紗の協力を得て実施した。

4 調査結果

各種の分析調査を行なった結果、次のような基礎的データの蓄積を得た。

①本遺跡出土金箔瓦は、瓦当部に巴文を有する軒丸瓦が 16 資料、同菊文を有する軒丸瓦が 17 資料、周縁のみの軒丸瓦が 13 資料、瓦当部に唐草文などを有する軒平瓦が 22 資料、周縁のみの軒平瓦が 5 資料、その他道具瓦が 2 資料の合計 75 資料である。このうちの資料 48・49 には聚楽第出土金箔瓦と同汎の汎傷が確認された。指月伏見城自体は、当初は秀吉の御隠居所（伏見御屋敷）として文禄元年（1592）に造営されたものが、文禄 3 年（1594）に城郭として惣構堀普請とともに天守閣と矢倉が淀城から移築されたことが「駒井日記」などに記録されている。そして文禄 4 年（1595）には甥の秀次失脚に伴い破却された聚楽第から多くの建造物部材が移築搬入されて再利用されたことが知られている。この際の聚楽第からの移築建築材料の一部として、残存状態の良好な金箔瓦も含まれていたことが本試料群の存在から明確となった。そしてこれら金箔瓦は、いずれも瓦縁部や巴文・菊文・唐草文などの凸部にパッチワーク状に裁断された金箔が漆塗料で漆箔されていた。この状況は軒丸瓦の周縁部の箔足や巴文凸部などで顕著にみられた。

②各金箔瓦の金箔箇所それぞれ 3 か所ずつ可搬型蛍光 X 線分析装置を用いた非破壊分析と、採取可能であった小破片資料については据付型蛍光 X 線分析装置を用いた定性分析を行った。その結果、いずれも顕著な Au（金）を検出した。その一方で Ag（銀）や Cu（銅）はほとんど検出されなかった。

③蛍光 X 線分析装置による金箔瓦の金箔の定性分析を行った結果では、金純度が高い金箔であると想定したが、本調査では、さらに各資料から採取した金箔小破片試料を電子顕微鏡に装着した EPMA 分析装置による微量分析と金位（金：銀配合比率）平均値の測定を実施した。その結果、各金箔瓦に使用された金箔の金位は、いずれも平均値で 95～99% の金含有量であることがわかった。これは、天正大判の金位 70% を大きく超え、当時は純金と認識されていた天正分銅金（備蓄金）とほぼ同じ金位である。また聚楽第跡、本発掘調査地点とは異なる現場の指月伏見城跡、木幡山伏見城跡、京都新城跡出土の金箔瓦のそれとも同じであった。

④各金箔瓦の箔下漆箇所についても可搬型蛍光 X 線分析装置を用いた非破壊分析と、採取可能であった小破片資料については据付型蛍光 X 線分析装置を用いた定性分析を行った。分析調査の結果、

ほとんど水銀（Hg）のピークが検出されない資料群と、水銀（Hg）のピークが強く検出される資料群に大別された。このうち水銀（Hg）がほとんど検出されない資料群は41資料であり、水銀（Hg）のピークが比較的強く検出された資料群は34資料である。このことから、前者の箔下漆は黒色漆もしくは生漆、後者は朱漆もしくは朱潤（ウルミ）漆であろうと理解した。

⑤目視観察では本資料群である各金箔瓦の漆箔の残存状態はいずれも比較的良好であった。漆箔の表面状態を50倍の拡大観察した結果、いずれも瓦胎部の上にまず接着材料である漆塗料を塗布し、その上に1枚掛けで金箔が貼られている状況が確認された。これら箔下漆の色相は、黒色・鮮紅色・暗赤褐色・海老茶色・茶色などさまざまであった。また、いずれも肉持ちが良い状態の漆の塗布状態であり、乾性油は少ないものと理解した。さらに一部の資料では刷毛目痕跡や漆溜箇所には縮ムラ痕跡なども確認された。

⑥各資料の箔下漆を拡大観察した結果、A：瓦当部の直上に黒色漆を塗布して金箔を1枚押した資料は33資料、B：瓦当部の直上に生漆を塗布して金箔を1枚押した資料は3資料、C：瓦当部の直上に朱漆を塗布して金箔を1枚押した資料は1資料であった。さらにD：瓦当部の直上に黒色漆を塗布して金箔を1枚押した上に、後補と考えられる朱潤漆を塗布して金箔を押した資料が33資料、E：瓦当部の直上に黒色漆を塗布して金箔を1枚押した上に、後補と考えられる生漆貼の金箔が確認された資料は5資料が確認された。この箔下漆である朱潤漆は、朱含有量の過多によって赤味が比較的強い資料群から海老茶色系の資料群に至るまで幾つかのグループが存在していた。

⑦京都市指定文化財である「大中院文書」には、文禄3年（1594）の「ふしミ 九左衛門尉 伏見御城中瓦ニ薄出候下地ぬり手間注文」（第172文書）が1点含まれている（文献史料）。そこには、①金箔瓦の金箔貼りは瓦職人とは別の専門集団が担っていたこと、②指月伏見城内では、天守閣や主要御殿のみならず、城門や城壁も含めた多くの城郭建造物の屋根瓦に金箔瓦が葺かれていた事、③秀吉による禁裏御所の作事でも並行して金箔貼りの作業が行われていた事、などが理解される。本調査を実施した指月伏見城跡出土金箔瓦には、瓦当部直上の黒色漆を箔下漆とした金箔貼（下層金箔）と、その上に朱潤漆を箔下漆とした上層の金箔貼りの2種類の金箔貼作業の痕跡が確認された。これら2種類の漆箔の痕跡を有する金箔瓦群は、破却に伴い聚楽第から搬入されて再利用された金箔瓦であると想定される。すなわち、下層の漆箔は聚楽第時代の金箔貼り痕跡であると推察されるが、少なくとも上層の金箔貼りはこの「大中院文書」にある九左衛門尉配下の金箔押し職人集団が担った可能性が高いものとする。

文献史料

大中院は、京都所司代前田玄以の筆頭奉行人であった松井正幸が創建した建仁寺塔頭寺院である。この大中院襖絵の下張り和紙には、天正15年（1587）～文禄3年（1594）に記載された公文書群が多く含まれている。このなかの文禄3年（1594）の「ふしミ 九左衛門尉 伏見御城中瓦ニ薄出候下地ぬり手間注文」（第172文書）は、京都の箔押職人棟梁であった九左衛門尉が指月伏見

城の築城に伴い、城内建造物の屋根瓦および彫物などに箔押しする手間賃を京都所司代前田玄以の筆頭奉行人の松井正幸に提出した請求書である。

「伏見御城中瓦の薄押し物以下出し手間分

一、式斗八升 井と屋形棟瓦薄をしま、七人分

一、壺石 上台所と御たき火の間と間の御らうかの瓦薄をし手間、廿五人分

一、三斗式升 御湯わかし所の瓦薄おしてま、八人分

一、壺斗式升 御から物蔵の北のしきりの壁瓦薄をしま、三人分

一、壺石四升 山里東之二階御門瓦ニ薄おしてま、廿六人手間分

一、壺石式升 伏見御舞台御かく屋并木棟のもん薄おしてま、卅一人分

一、壺石五斗式升 同御舞台ほり物之御道具などの薄おしてま、卅八人分

一、式斗四升 禁中内侍所御台所と棟瓦薄のおしてま、八人分

合 五石七斗六升

文禄三年十二月廿九日

□花押

(後欠) 』

引用文献

- 田口 勇・尾崎保博 編 (2009) 『みちのくの金 - 幻の砂金の歴史と科学 -』、アグネ技術協会
- 中村博司 (2019) 「伏見指月城と禁中における金箔瓦の箔押し作業手間代注文について - 「大中院文書」第一七二号文書の検討 -」『辻尾榮市氏古稀記念 歴史・民族・考古学論考 (I)』、大阪・郵政考古学会
- 北野信彦 (2018) 『桃山文化期漆工の研究』、雄山閣
- 北野信彦 (2020) 「京都新城堀跡出土金箔瓦の分析調査」『平安京左京一条四坊十町跡・公家町遺跡・京都新城跡』、京都市埋蔵文化財研究所
- 北野信彦 (2021) 「附章 指月伏見城出土金箔瓦の分析調査」『指月城跡・伏見城跡発掘調査総括報告書』、京都市文化市民局
- 北野信彦・山田卓司・関 晃史 (2021) 「附章 出土資料の自然科学分析」『室町殿跡・上京遺跡 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-11』、京都市埋蔵文化財研究所
- 北野信彦 (2022) 「伏見城跡出土金箔瓦・鉄砲玉の分析調査」『伏見城跡』、京都市埋蔵文化財研究所
- 北野信彦 (2023) 『建造物塗装彩色史の研究』、雄山閣
- 北野信彦 (2024) 『天下人たちの文化戦略 - 科学の眼でみる桃山文化 -』歴史文化ライブラリー 566、吉川弘文館



写真1-1：金箔瓦：資料1



写真1-2：同 漆箔金箔箇所拡大観察



写真2-1：金箔瓦：資料2



写真2-2：同 朱潤漆箔箇所拡大観察①

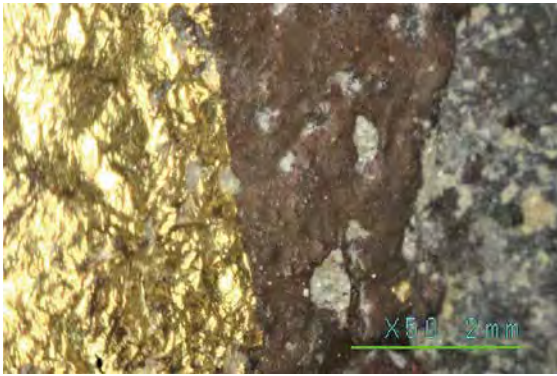


写真2-3：同 朱潤漆箔の拡大観察

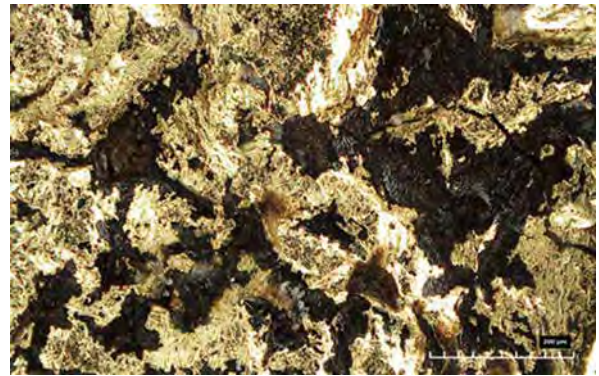


写真2-4：同 黒色漆箔の拡大観察

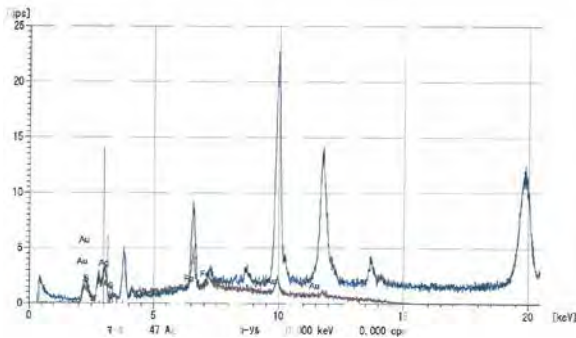


図1：資料1の蛍光X線分析結果（黒色漆箔箇所）

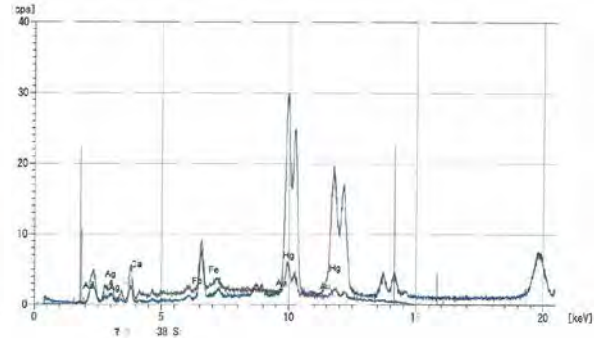


図2：資料2の蛍光X線分析結果（朱潤漆箔箇所）



写真3-1：金箔瓦：資料4

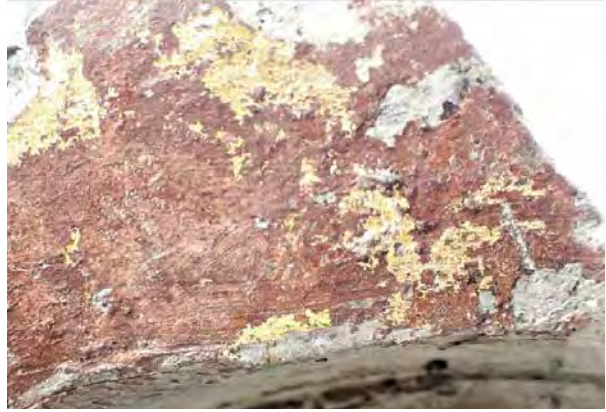


写真3-2：同 漆箔金箔の拡大観察

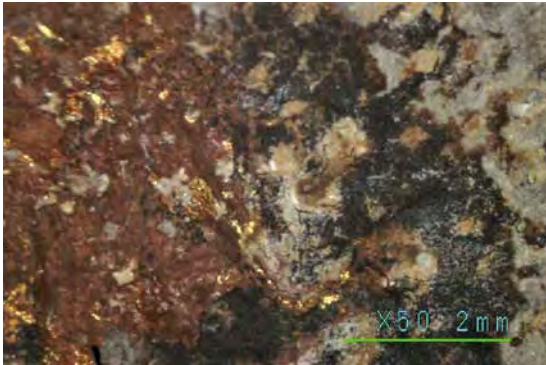


写真3-3：同 黒色漆→朱潤漆箔の拡大観察

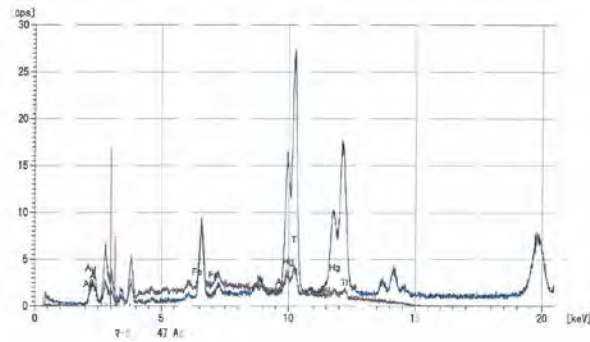


図3：同 蛍光X線分析結果（朱潤漆箔箇所）



写真4-1：金箔瓦：資料5

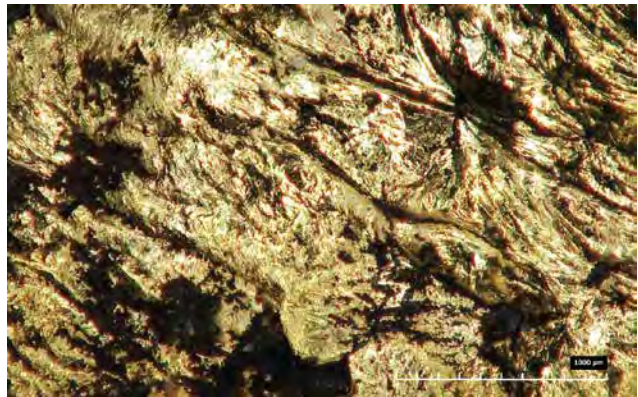


写真4-2：同 黒色漆箔の拡大観察



写真5-1：金箔瓦：資料7

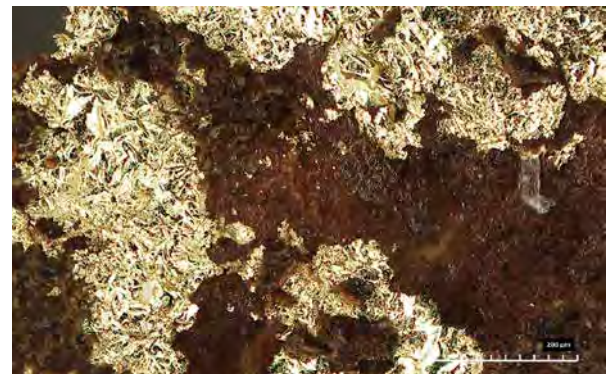


写真5-2：同 黒色漆箔→朱潤漆箔の拡大観察



写真6-1：金箔瓦：資料9

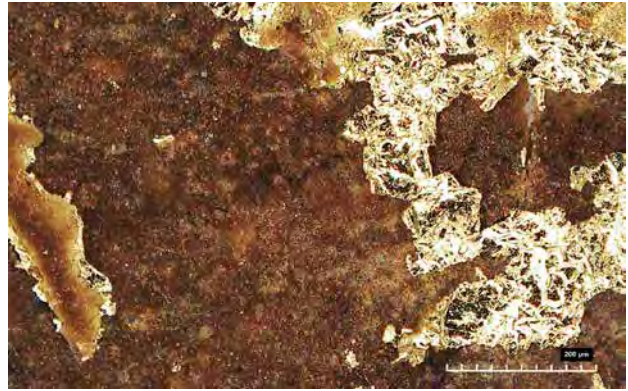


写真6-2：同 朱潤漆箔の拡大観察



写真7-1：金箔瓦：資料11

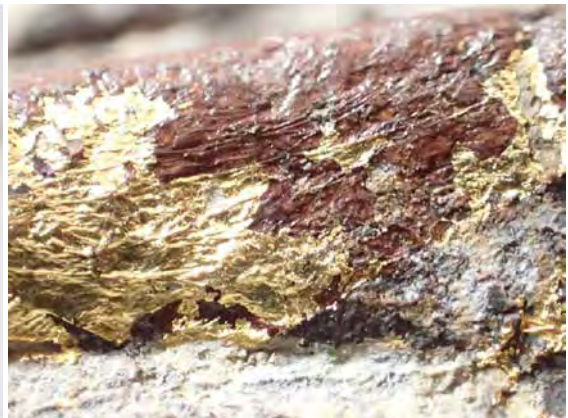


写真7-2：同 漆箔金箔箇所拡大観察



写真7-3：同 朱潤漆箔の拡大観察

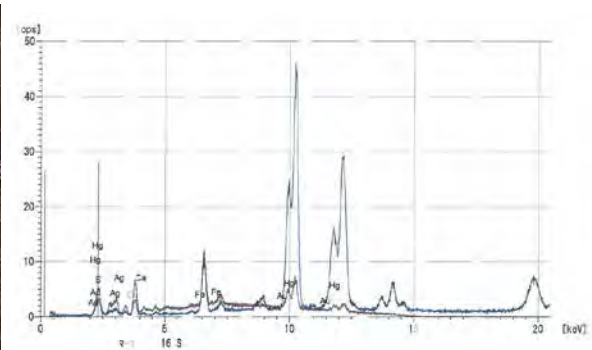


図4：同 蛍光X線分析結果（朱潤漆箔箇所）



写真8-1：金箔瓦：資料15

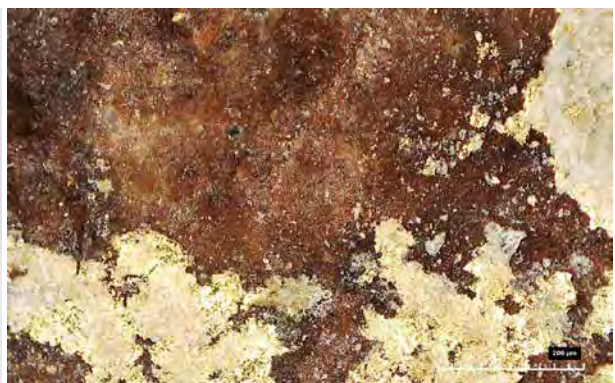


写真8-2：同 漆箔金箔の拡大観察



写真9-1：金箔瓦：資料22

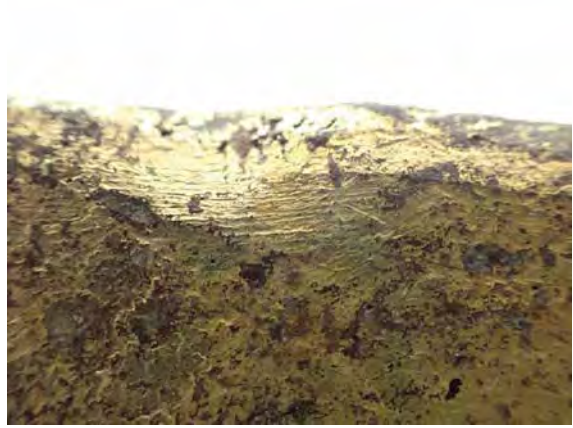


写真9-2：同 漆箔金箔箇所拡大観察



写真10-1：金箔瓦：資料23

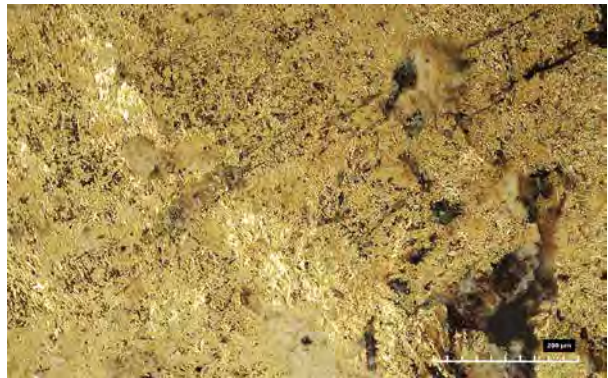


写真10-2：同 朱潤漆箔の拡大観察



写真11-1：金箔瓦：資料28

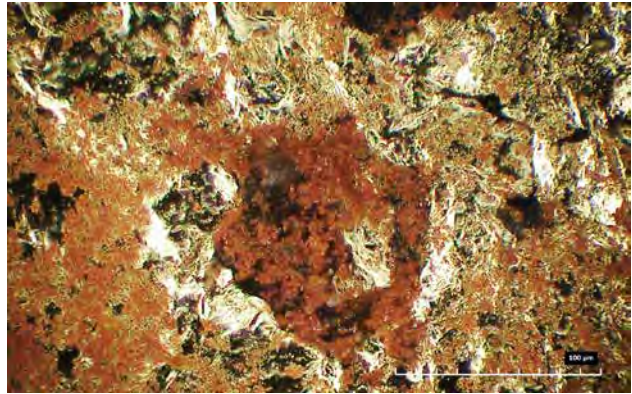


写真11-2：同 朱漆箔の拡大観察

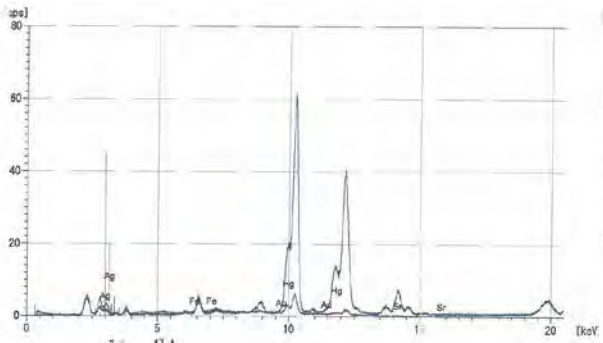


図5-1：資料28の蛍光X線分析結果①（朱漆箔箇所）

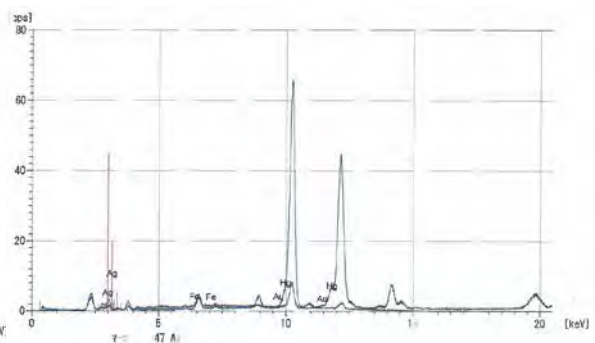


図5-2：同 蛍光X線分析結果②（箔下朱漆箇所）



写真12-1：金箔瓦：資料30

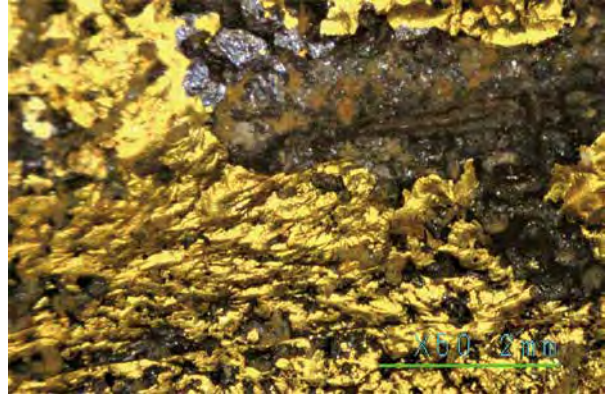


写真12-2：同 黒色漆箔の拡大観察

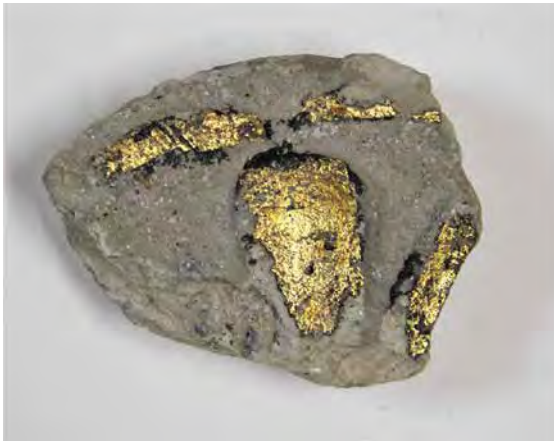


写真13-1：金箔瓦：資料34

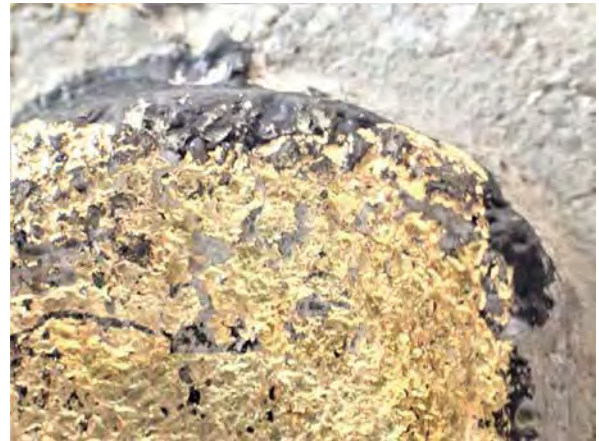


写真13-2：同 漆箔金箔の拡大観察

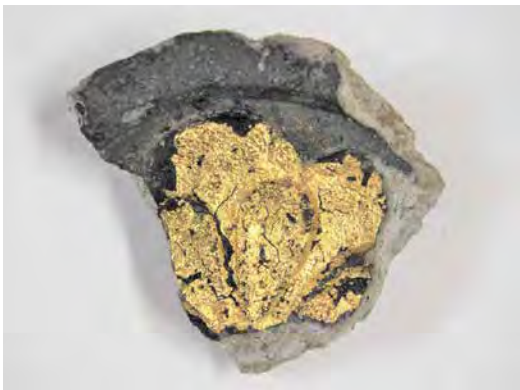


写真14-1：金箔瓦：資料38

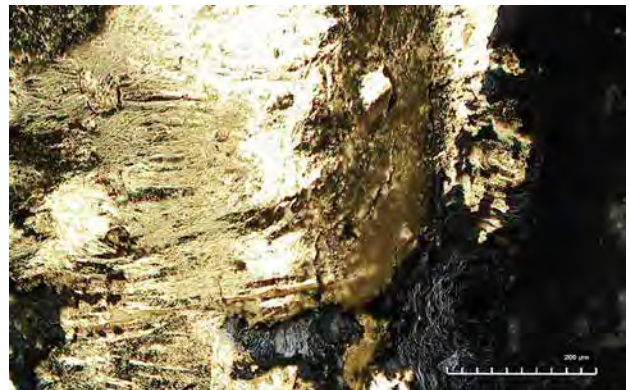


写真14-2：同 漆箔金箔の拡大観察

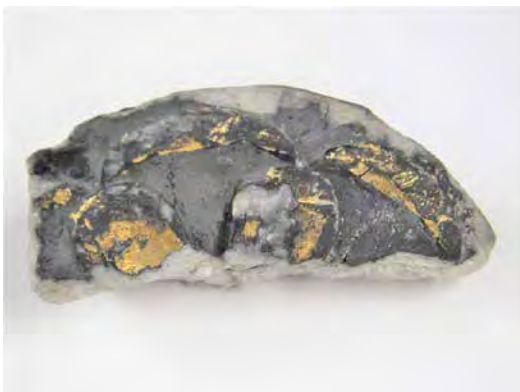


写真15-1：金箔瓦：資料41

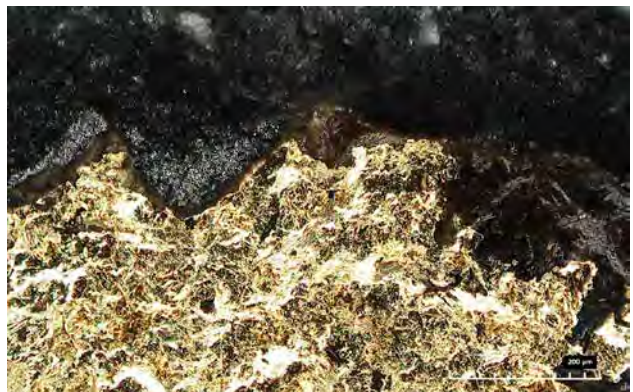


写真15-2：同 黒色漆箔の拡大観察



写真16-1：金箔瓦：資料45

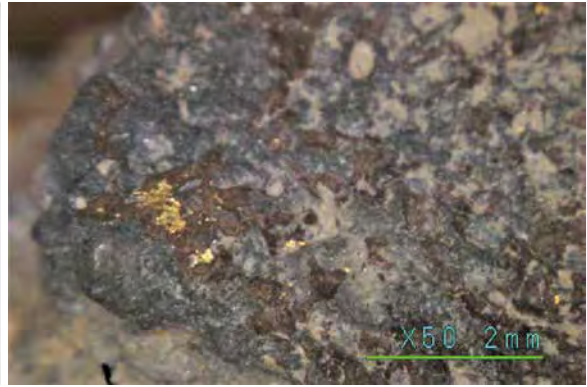


写真16-2：同 黒色漆→朱潤漆箔の拡大観察



写真17-1：金箔瓦：資料46

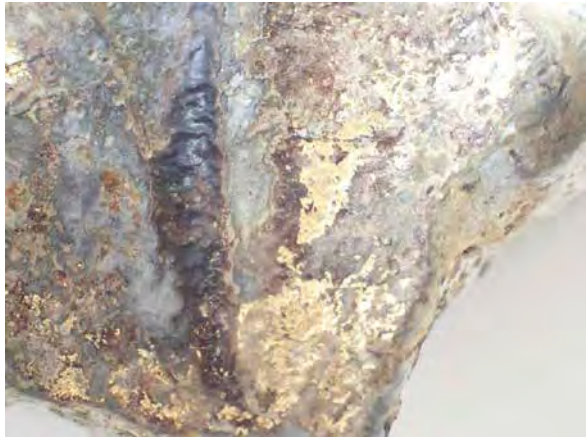


写真17-2：同 漆箔金箔の拡大観察

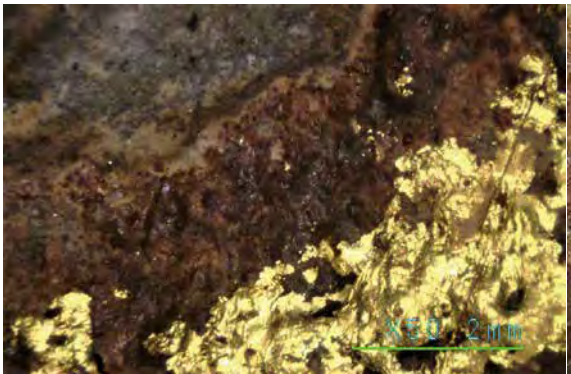


写真17-3：同 生漆漆箔の拡大観察

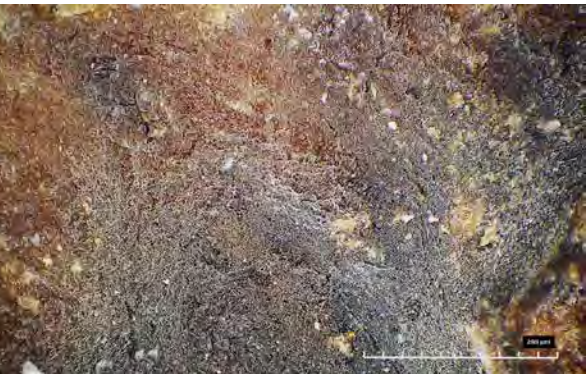


写真17-4：同 生漆箔下漆の拡大観察



写真18-1：金箔瓦：資料48



写真18-2：同 漆箔金箔の拡大観察①



写真18-3：同 漆箔金箔の拡大観察②

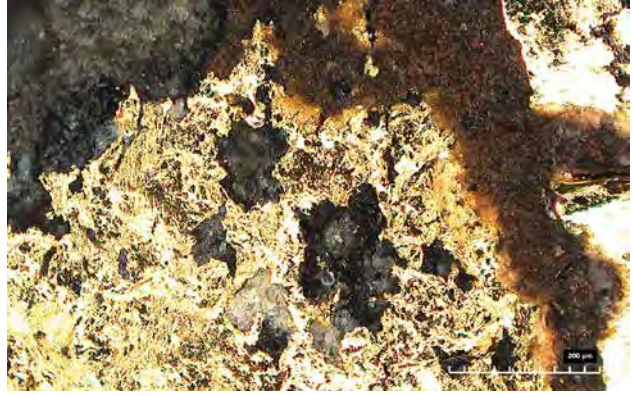


写真18-4：同 黒色漆箔→朱潤漆箔の拡大観察



写真19-1：金箔瓦：資料50

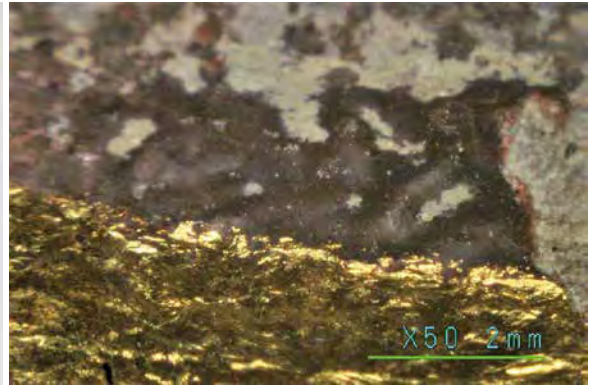


写真19-2：同 朱潤漆箔の拡大観察



写真20-1：金箔瓦：資料56

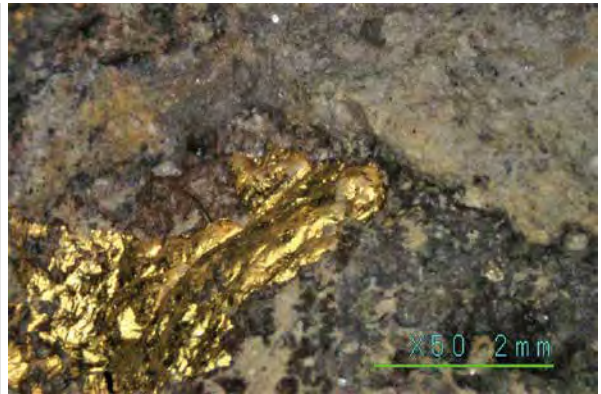


写真20-2：同 漆箔金箔箇所拡大観察

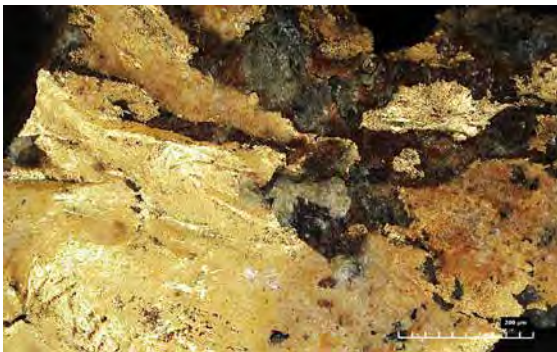


写真20-3：同 黒色漆箔→朱潤漆箔の拡大観察

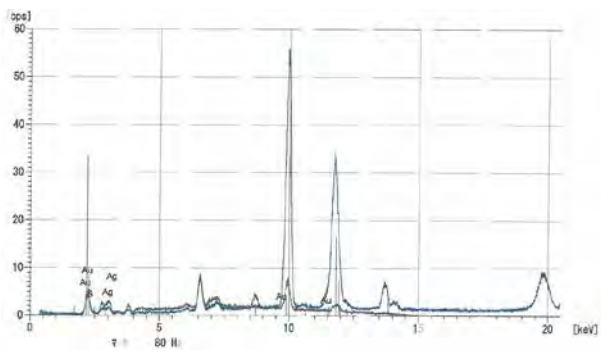


図6：同 蛍光X線分析結果（黒色漆箇所）



写真21-1：金箔瓦：資料58



写真21-2：同 朱潤漆箔箇所拡大観察



写真22-1：金箔瓦：資料66



写真22-2：資料66の漆箔貼り箇所



写真22-3：同 黒色漆箔の拡大観察①

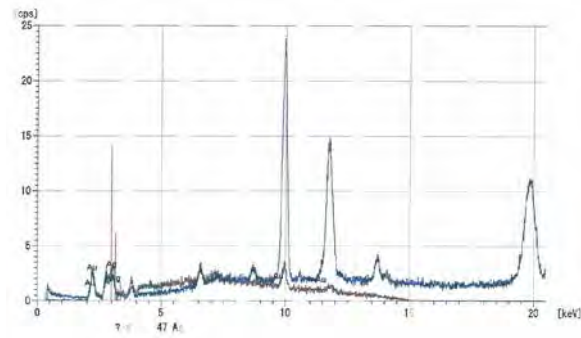


図7：同 蛍光X線分析結果（黒色漆箔所）



写真23-1：金箔瓦：資料74



写真23-2：同 生漆の漆箔箇所の拡大観察

表1 各金箔瓦資料の蛍光X線分析結果

分析番号	資料No.	形態	箔下漆	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Ag	Sn	Au	Hg	Pb		
#2717	瓦 1	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	24.8K	6151	5932	1711	54	597	24.0K			170	388		80	51	3151	2900			
#2718				45.0K	4812	9032	1608	82	444	23.0K				103	408		44	43	5178	6536		
#2719				59.7K	8271	8040	2577	112	407	23.4k	387				100	328		28	34	4228	5431	
#2720	瓦 2	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	53.9K	8899	8657	2754	80	1003	33.8K	373	75	120	449	110	43	33	4539	4814			
#2721				3187	2066	712	469	19	815	24.8K				155	274	115	49	49	2781	2996		
#2722				37.0K	7351	4258	2320	55	835	33.2K	496				96	384	84	53	37	3675	4603	
#2723	瓦 3	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	80.4K	8518	8705	2441	137	1216	27.5K	473		166	570	68	64	23	8888	6142			
#2724				71.0K	8546	6399	2450	117	1415	27.7K				145	486	76	39	22	6943	5837		
#2725				52.6K	7633	6816	2030	96	1057	28.6K	431				141	492	54	47	33	5639	8468	
#2726	瓦 4	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	44.6K	6113	9126	2585	90	521	26.3K	351		92	286		76	26	3409	5336			
#2727				59.7K	9735	8903	3824	38	779	27.2K				96	246		20		405	5084		
#2728				26.4K	6452	15.1K	2592	90	686	24.3K					121	250	21		19	1101	3258	
#2729	瓦 5	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	59.9K	7435	6150	2854	121	329	22.1K		83	75	321	29	31		4563	4914			
#2730				43.9K	6559	3348	2430	97	289	23.9K	320			47	304	33	30	33	4917	4378		
#2731				40.9K	5622	4346	2206	82	346	29.4K				60	249	30	34	40	4579	4172		
#2732	瓦 6	軒丸瓦	黒色漆	24.9K	11.0K	4684	3369	100	727	28.6K			432	188	157		16	4286	618			
#2733				24.2K	9904	6412	2529	102	525	22.1K	247			313	206	151	25	22	5904	865		
#2734				18.6K	12.4K	6848	3752	64	642	35.8K			119		380	209	160		22	1703	482	20
#2735	瓦 7	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	47.4K	11.4K	8037	2563	103	746	31.5k			73	371		52	22	4009	3251			
#2736				2283	6392	1384	2192	37	731	35.0K			111		49	221		56	683	2639		
#2737				52.2K	8976	7969	3804	108	693	31.6K					65	324		50	22	4260	4491	
#2738	瓦 8	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	49.5K	9790	5603	3485	100	898	27.9K		106		289	53	29	28	4015	3493			
#2739				43.1K	10.4K	5632	3850	141	1130	34.8K			79		60	344	55	40	22	6219	1991	
#2740				54.1K	8247	7497	1872	106	745	18.5K	456				140	397	45	87	22	7462	5178	
#2741	瓦 9	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	59.2K	9468	6574	3549	128	467	28.1K	452		109	470	26	25		4587	5239			
#2742				54.6K	11.8K	7023	4254	97	453	36.1K	391			86	346	24	20	20	2789	4492		
#2743				52.7K	8926	8074	3102	85	757	41.1K	459				123	460	36	35	41	6116	6390	
#2744	瓦 10	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	55.9K	5735	2354	1987	73	563	71.1K	696		80	464	57	52	45	6020	11.9K			
#2745				46.6K	14.4K	10.7K	4551	94	771	32.5K		90		123	299	44		36	3063	3475		
#2746				15.7K	8099	3027	2807	69	791	11.7K			103		67	218	80	32	65	2780	2814	
#2747	瓦 11	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	45.1K	7882	8484	3553	147	1469	25.6K	533		80	368		39	30	5251	3264			
#2748				47.9K	7727	8288	3370	169	725	16.0K	260			63	267		29	18	5853	2550		
#2749				26.2K	4203	9108	1694	73	821	15.1K					96	240		41	36	5922	3026	
#2750	瓦 12	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	27.5K	7580	4304	3004	105	655	36.9K			80	206	55	38	24	3326	3661			
#2751				40.4K	8693	2895	3805	127	489	28.0K				65	262	43	38		4173	2852		
#2752				26.3K	9065	2723	3524	65	487	23.0K					63	251	25	27	38	2697	3207	
#2753	瓦 13	軒丸瓦	黒色漆	10.5K	13.5K	5182	4343	67	787	28.1K		117	33	145	28			1691	113	21		
#2754				8559	12.9K	3883	3952	96	760	40.6K			86	68	142	35	32	24	2481	145	29	
#2755				5321	14.7K	4423	4646	637	637	39.9K			102	43	100	38			1050	59	21	
#2756	瓦 14	軒丸瓦	黒色漆	10.5K	7946	6946	2909	82	241	26.0K			55	105	30	33	19	3436	193			
#2757				10.6K	6888	6134	2091	78	318	21.0K				48	167		36	23	5639	304		
#2758				10.9K	8731	9661	2572	60	228	23.2K			76		52	120	22	34	21	3142	191	
#2759	瓦 15	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	33.9K	11.2K	8325	3617	104	1299	29.0K			53	328		37		3776	2831			
#2760				28.9K	12.3K	7011	3992	93	806	28.3K			107		50	297		49	26	4906	2272	
#2761				7079	12.1K	6195	2968	48	882	28.6K					88	287		39	25	2878	1118	
#2762	瓦 16	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	40.4K	6521	7657	2023	84	504	35.2K				381		49	19	6712	8380			
#2763				48.2K	8493	4921	3066	75	477	24.8K				50	250		37	17	4126	5651		
#2764				27.0K	7629	5673	2514	75	585	38.8K					71	324		47	27	5861	7291	
#2765	瓦 17	軒丸瓦	黒色漆	9249	15.0K	4585	5010	68	856	44.4K		96	74	142	49		18	1857	278			
#2766				13.3K	12.6K	3850	4367	71	1047	43.5K			90		92	144	38	18	2442	348		
#2767				12.3K	15.3K	5323	4770	91	980	42.3K			95		71	130	46	21		1962	289	
#2769	瓦 18	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	47.8K	7749	6107	2532	87	313	17.8K		70	39	239		17	26	2492	2968			
#2770				43.0K	5864	4578	1990	67	402	18.5K					230		43	35	2741	4310		
#2773				40.4K	6842	3927	1925	76	317	17.1K						271		39	2821	4008		
#2774	瓦 19	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	40.3K	10.4K	4100	2107	78	336	27.1K			71	252	31	34		3218	5993			
#2775				40.1K	13.5K	6935	3948	58	448	30.6K			71		68	235	55	17		1873	2687	
#2776				27.3K	7087	3443	2186	69	421	27.4K						248	49	35		3278	3413	
#2778	瓦 20	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	30.7K	9288	4208	3298	56	832	30.5K		94	99	257	36	31	38	2967	2607			
#2779				71.2K	10.5K	3816	3702	86	697	31.5k	407				138	440		25		4356	7134	
#2780				18.6K	5008	1431	1718	47	927	30.6K					123	313	38	44	43	5019	3487	
#2781	瓦 21	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	50.8K	13.7K	9020	3573	110	1242	33.5K		85	203	516	108	37	24	4357	4287			
#2782				68.8K	9730	4316	2416	175	1204	27.7K	447		82		108	495	58	107	27	13.9K	4116	
#2783				60.5K	11.0K	10.7K	2975	95	1532	30.3K			89		100	498	51	51	41	3369	6600	
#2784	瓦 22	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	68.0K	8728	7952	2012	104	381	16.7K			63	376		46	32	3766	5187			
#2785				43.6K	7218	3334	2301	103	594	22.7K				61	253	23	52	17	5208	3946		
#2786				60.1K	9233	9846	1980	80	449	18.9K			77			289		46		3196	5162	
#2787	瓦 23	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	20.4K	8451	4437	2407	106	1233	68.7K		90	179	384	138							

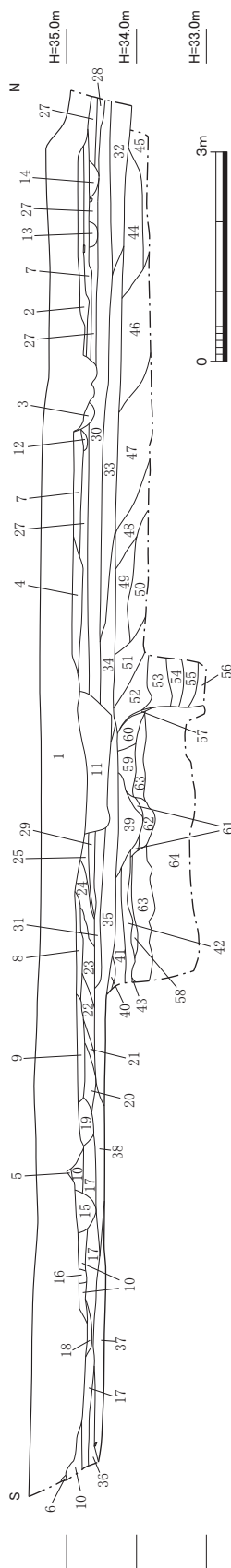
分析番号	資料 No.	形態	箔下漆	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Ag	Sn	Au	Hg	Pb
#2796	瓦 26	軒丸瓦	黒色漆	3832	19.3K	5319	4802	47	287	12.7K		71	47	61			15	807	36	27
#2797				537	9489	1751	2980	27	288	13.8K		73	36	62				333	19	26
#2798				2313	14.6K	4311	4297		285	17.9K				101				597	32	38
#2799	瓦 27	軒丸瓦	黒色漆	3424	16.2K	4013	7330	82	915	31.9K		87	59	194			23	820	103	26
#2800				794	15.3K	3065	6692	62	812	35.6K			69	161				57		38
#2801				4507	15.0K	4065	6847	65	837	31.7K			38	184				856	104	28
#2802	瓦 28	軒丸瓦	朱漆	37K.6	11.1K	4435	4452	125	591	32.3K		82	91	295				1437	5100	
#2803				34.5K	13.1K	4509	4555	65	518	35.5K		85	108	305	26	19	21	1682	4815	
#2804				10.2K	9042	4492	3065	76	502	21.7K			58	628		40	30	2760	14.7K	
#2805	瓦 29	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	28.8K	10.2K	7674	3460	70	401	24.1K				227		22	27	1939	3831	
#2806				26.5K	11.4K	6785	3694	67	655	26.4K				211		34	23	2760	3673	
#2807				35.9K	8684	7710	3005	92	324	21.3K				267		27	30	2754	4821	
#2808	瓦 30	軒丸瓦	黒色漆	7966	10.6K	4344	3056	63	278	20.3K			50	70	17			1229	70	
#2809				7672	10.1K	3680	2122	55	172	13.1K			40	69	25			1222	69	15
#2810				11.7K	11.5K	5708	3553	92	230	17.9K			45	71	31			15	1321	82
#2811	瓦 31	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	20.9K	14.5K	5593	4284	51	295	17.2K		76	64	153		20	22	2190	1958	
#2812				19.5K	9748	3372	3042	74	307	16.9K		93	41	148	31	40	23	3940	2370	
#2813				35.7K	6410	4655	2226	107	256	15.8K				258		25	19	3091	4260	
#2814	瓦 32	軒丸瓦	黒色漆	21.4K	9036	3993	2189	93	422	16.0K		72		163		19		3293	223	24
#2815				24.1K	11.9K	4980	3527	94	1023	21.3K		68	51	195		28		3947	257	27
#2816				18.4K	8519	5292	2300	64	523	16.4K				112	18	22		2028	133	
#2817	瓦 33	軒丸瓦	黒色漆	14.4K	13.7K	10.5K	3186	69	559	13.2K			56	186				1606	91	20
#2818				17.5K	11.6K	8366	2366	90	647	14.7K		72		220			22	3144	188	
#2819				20.4K	16.7K	13.9K	4058	81	652	14.8K		59	32	154				1874	123	29
#2820	瓦 34	軒丸瓦	黒色漆	19.6K	8446	3433	2005	68	248	11.1K				147	30	35	22	3228	262	
#2821				19.5K	7062	2348	2174	80	304	12.3K			41	143	20	42	27	4013	306	
#2822				14.1K	8229	3760	2739	87	309	16.1K		59	41	134	39			1826	168	
#2824	瓦 35	軒丸瓦	黒色漆	24.9K	8485	2637	2820	115	250	15.6K			36	181	35	33	24	3780	252	23
#2825				21.6K	8340	3198	2865	111	275	18.3K			47	162	42	17		3288	179	
#2826				11.4K	7190	2230	2130	71	278	15.2K			38	158	30		21	2532	161	20
#2827	瓦 36	軒丸瓦	黒色漆	3177	12.5K	2467	3603	34	745	33.7K		66	49	109	16			559	37	17
#2828				3915	8337	1833	2311	37	298	18.6K				116		19	24	680	59	
#2829				5477	15.5K	2780	4508	56	381	15.1K		78	44	135				360	43	29
#2831	瓦 37	軒丸瓦	黒色漆	26.7K	10.3K	4733	4164	110	957	13.8K			35	108		26	25	2750	200	27
#2832				18.7K	13.0K	4391	4479	63	484	14.1K		61		93				1711	163	30
#2833				15.2K	9876	4068	3524	99	971	12.7K			35	125			19	2724	192	
#2834	瓦 38	軒丸瓦	黒色漆	16.4K	4607	2389	1298	80	333	11.2K				109	22	25	21	4201	242	
#2835				24.1K	7047	5447	2111	90	366	11.2K		76	55	114	17	16		2570	198	25
#2836				18.7K	5722	3256	1748	82	451	12.0K			76	124		27		3349	237	
#2837	瓦 39	軒丸瓦	黒色漆	4996	17.0K	7847	4879	56	290	16.4K			46	119				865	55	29
#2838				2780	8254	5569	2349	32	199	13.8K			42	73		21	35	341	33	19
#2839				6849	17.9K	10.1K	5075	65	469	17.7K			52	110			19	1239	77	47
#2840	瓦 40	軒丸瓦	黒色漆	5872	9234	8735	2776	84	813	15.0K			38	130			23	1191	80	19
#2841				4383	16.3K	8612	4800	76	3811	32.9K		91		113		15		1125	69	18
#2842				8296	12.0K	8010	3613	92	1051	22.1k		57	52	147		25		1853	124	18
#2843	瓦 41	軒丸瓦	黒色漆→生漆	21.6K	9101	4079	3386	97	301	14.2K	220	71		198		19		3763	327	32
#2844				8544	10.4K	3742	3530	61	383	13.5K			50	101			27	1033	103	31
#2845				9060	11.4K	4582	3691	58	288	15.6K				126				670	93	25
#2846				15.0K	6952	2909	2501	76	262	12.1K		57	47	145			27	2983	221	18
#2847	瓦 42	軒丸瓦	黒色漆	34.6K	10.9K	2689	1875	140	138	11.0K			35	170		31		4503	567	20
#2848				10.7K	5921	2045	1237	54	119	9924			41	144			31	2318	538	18
#2849				36.6K	9857	2544	2006	167	170	11.1K			47	182		32	15	5166	610	
#2850	瓦 43	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	12.2K	8687	11.2K	2806	66	1174	23.5K			93	163				1845	1453	
#2851				6473	10.5K	7036	3125	63	519	26.4K			56	123				967	486	
#2852				12.5K	12.0K	13.2K	3651	73	1270	25.7K		87	120	136				1908	1422	
#2853	瓦 44	軒丸瓦	黒色漆→生漆	1437	18.0K	7123	4908	70	308	17.7K			35	149				84		31
#2854				3226	9631	7449	2991	29	172	15.2K				98				346	40	25
#2855				1764	13.1K	6494	3922	47	228	16.8K	55	57	34	109	7	6	5	229	12	27
#2857	瓦 45	軒丸瓦	黒色漆→朱調漆	8050	7224	3965	2033	28	365	9852	105	56	76	159	6	11	25	2892	2072	25
#2858				5329	4911	2618	1397	15	288	9844	125	18	76	169	3	42	36	2101	1909	19
#2859				20.0K	10.4K	8121	3413	61	593	15.5K	60	35	102	184	22	17	13	1913	3060	7
#2860	瓦 46	軒丸瓦	生漆	6821	11.2K	9933	3601	80	563	24.5K	67	36	49	114	2	10	23	1031	69	37
#2861				2446	13.5K	5214	3739	49	552	21.3K		63	39	122	10	12	15	583	38	30
#2862				22.2K	12.1K	16.3K	3827	107	815	20.6K	129	53	36	196	6	14	10	3911	233	29
#2863	瓦 47	軒平瓦	黒色漆	25.0K	8426	3466	2788	105	413	16.3K		34	45	200	14	40	25	4450	284	32
#2864				20.9K	7253	5139	1968	80	273	16.0K	212	5	26	213	7	32	25	3916	214	37
#2865				28.6K	14.8K	12.4K	4306	66	384	16.1K	83	55	50	167	20	13	23	1717	114	31
#2866	瓦 48	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	61.3K	9943	8760	3156	104	1139	37.1K	137	98	94	385	24	39	17	5511	3423	14
#2867				55.1K	12.5K	8965	3499	114	993	34.1K	204	66	138	359	4	58	26	6471	3451	6
#2869				23.2K	7033	4560	2161	55	1038	31.4K	252	33	97	332	42	40	36	2819	3243	12
#2870	瓦 49	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	35.8K	9328	8854	3239	121	1003	48.6K		110	60	295	16	41	40	5015	3524	5
#2871				480	6300	874	2216	30	1463	54.1K	83	33	87	222	26	27	41	2155	2906	5
#2872				36.2K	9679	7426	3209	81	820	38.7K		80	76	261	52	52	38	4054	3184	
#2873	瓦 50	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	17.4K	3733	1704	1321	70	701	25.0K	132	126	86	344	5	50	20	6482	3321	
#2874				33.9K	6645	4298	1799	58	951	28.8K	107	59	151	476	22	34	30	4356	7998	
#2875				84.5K	6173	3104	2557	100	880	28.7K	186	65	101	482	13	58	20	7406	7919	

分析番号	資料 No.	形態	箔下漆	S	K	Ca	Ti	Cr	Mn	Fe	Co	Ni	Cu	Zn	As	Ag	Sn	Au	Hg	Pb
#2876	瓦 51	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	31.3K	102K	100K	1942	70	1415	33.7K	205	59	152	708	18	68	25	4002	2126	
#2877				22.8K	13.6K	12.8K	2714	54	140	29.6K		92	90	478	22	73	28	3564	201	10
#2878				20.6K	15.4K	6991	2794	54	1083	28.9K	58		91	628	12	42	22	2695	978	14
#2879	瓦 52	軒平瓦	黒色漆	3281	20.2K	9771	4738		1060	85.6K		64	47	129	45				7	28
#2880				3726	18.9K	9885	5273		1025	85.6K		134	40	115	35	3	19	11		36
#2881				3526	14.8K	5945	4620	69	1156	34.1K		42	60	158	8	18	18	636	26	25
#2882				9495	13.4K	11.5K	4154	57	1332	35.3K		37	39	152	15	12	21	616	28	27
#2883				2306	16.0K	7806	4919	57	931	31.3K	150	31	58	152	7	14	15	282	24	31
#2884	瓦 53	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	48.5K	8973	6538	3284	73	374	21.2K	158	67	50	218	7	10	19	2154	3638	
#2885				19.6K	6694	8029	2245	83	358	18.1K	47	40	65	204		25	9	4786	2138	1
#2886				12.4K	6724	3325	2368	20	432	25.9K	50	65	27	194		4	29	665	4204	9
#2887	瓦 54	軒平瓦	黒色漆	4202	6244	3752	1560	40	2082	24.3K		26	17	96	23			1655	147	13
#2888				5738	10.3K	6343	2978	77	1651	41.9K		67	30	115	21	23	31	2481	186	25
#2889				13.3K	11.4K	8226	2776	85	375	27.2K	37	57	54	154	49	13	22	2061	159	22
#2890				8033	13.5K	8719	3123	58	409	21.0K	105	21	40	126	59	14	25	954	79	28
#2891	瓦 55	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	55.1K	9514	3734	3452	95	320	19.2K	141	45	65	264	17	25	16	4252	3023	14
#2892				58.4K	11.1K	7976	3256	105	338	20.8K	216	27	34	293	47	36	31	3943	3832	1
#2893				23.3K	12.7K	3381	3072	41	273	17.5K		38	12	256	8	19	18	2120	3543	
#2894	瓦 56	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	12.7K	6916	4459	2067	65	263	62.2K		91	26	154	41	39	30	2446	1327	26
#2896				10.1K	17.8K	3435	4630	37	187	12.5K	139	59	31	139	8	6	22	1309	1484	19
#2897	瓦 57	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	57.5K	7981	10.2K	2552	86	572	24.1K	177	42	35	339	2	48	29	4420	4455	
#2898				7474	13.4K	7310	4263	48	404	23.5K	134	39	56	422	4	14	2762	8091		
#2899				40.8K	7193	8066	2296	69	464	25.0K	137	20	28	426		28	37	3737	5037	2
#2900	瓦 58	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	24.1K	5212	3672	2027	71	462	22.3K	282	215	38	215	13	55	46	4521	2955	1
#2901				5259	5039	3163	1373	32	392	29.7K	48	67	30	297	17	18	38	2089	5883	
#2902				9009	3284	2746	1034	34	451	20.1K	220	16	71	162	7	48	48	1432	2145	16
#2903	瓦 59	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	29.7K	11.7K	6969	4330	65	493	26.6K	176	57	59	182	1	3	23	346	2124	20
#2904				7031	10.6K	9471	3540	72	539	22.7K	108	90	87	121		18	15	1154	791	19
#2905				12.9K	14.0K	5975	4666	62	400	26.5K	57	33	43	159	11	11	18	317	1509	20
#2906	瓦 60	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	19.8K	10.3K	6794	2317	42	442	23.1K		52	45	197	14	33	21	1908	1498	27
#2907				71.3K	9118	14.0K	2399	71	683	24.0K	184	48	46	371	35	64	19	3577	5185	
#2908				44.9K	9127	7755	2247	83	415	22.3K	179		35	317	23	71	28	4865	2998	1
#2909	瓦 61	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	26.3K	11.4K	4697	4216	70	664	47.2K		151	69	244	91	44	48	4401	2218	4
#2910				12.3K	7262	3244	2502	52	774	39.4K	267	49	112	195	16	48	30	1680	1778	21
#2911				24.0K	10.3K	5565	3830	85	614	52.9K	243	102	107	286	84	35	23	5659	2526	15
#2912	瓦 62	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	79.1K	9723	14.8K	2680	67	602	23.2K	39	33	109	355		25	22	4523	3517	2
#2914				56.7K	9611	17.4K	2119	75	727	21.3K	102	26	111	331	4	34	23	4839	3623	
#2915				30.3K	15.1K	19.7K	3450	61	712	23.7K		80	71	170	17	16	11	2220	121	8
#2916	瓦 63	軒平瓦	黒色漆	4181	12.3K	6402	5173	70	1197	21.0K	135	81	81	184	23	15	15	1077	74	26
#2917				1340	11.5K	3220	4852	59	897	18.5K	74	53	75	137	21	12	22	264	27	28
#2918				2028	10.1K	3676	4357	55	934	18.8K	151	57	46	136	26	14	16	518	35	22
#2919	瓦 64	軒平瓦	黒色漆	15.8K	8993	1934	2733	86	347	13.7K	54	46	15	139		12	21	2690	190	22
#2920				12.2K	7746	2744	2304	73	250	11.9K		21	40	146	8	40	24	2728	158	13
#2921				19.7K	13.4K	2818	4733	76	380	18.2K	49	49	22	145	22	20	16	2366	166	23
#2922	瓦 65	軒平瓦	黒色漆	13.0K	11.6K	2869	3409	91	328	13.2K	9	60	47	140	19	18	17	1727	121	18
#2923				18.8K	8009	3438	2230	84	362	12.8K	130	45	50	213	29	32	24	3714	222	21
#2924				9443	14.7K	2929	4188	55	292	19.0K		39	69	176	31	3	2	1636	86	24
#2925	瓦 66	軒平瓦	黒色漆	22.2K	10.6K	4068	3699	89	288	12.9K	99	75	46	171	50	37	30	2442	162	24
#2926				22.0K	7167	6173	1904	103	543	11.6K	47	30	50	200	35	48	21	5047	295	35
#2927				17.6K	11.5K	5497	3508	91	454	10.8K	68	36	32	146	26	17	16	1872	130	25
#2928	瓦 67	軒平瓦	黒色漆	17.3K	14.6K	8113	4191	95	1385	14.5K	7	90	33	134	8	19	16	1357	106	22
#2929				15.1K	11.3K	7260	3254	77	773	14.3K	127	44	33	160	17	17	24	2079	143	25
#2930				20.0K	12.0K	6801	3837	83	487	16.2K		39	33	213	8	19	17	390	140	29
#2931	瓦 68	軒平瓦	生漆	2599	11.2K	6379	3875	43	382	28.7K		64	30	88	2	15	25	354	81	21
#2932				1204	3373	1432	873	20	254	17.0K	157	104	20	52	6	19	57	218	50	14
#2933				2669	7832	4215	2631	37	367	28.6K	9	73	61	95	7	8	14	455	78	31
#2934	瓦 69	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	1240	5253	1573	1469	36	434	13.7K	97	108	74	152	3	15	43	2100	1054	24
#2936				716	7930	2377	2363	16	328	13.5K	39	72	17	55	1	9	20	160	142	16
#2937				56.9K	8794	4108	3045	125	340	16.0K	188	67	51	314	9	47	13	4546	2708	13
#2939				54.3K	8740	3987	2798	122	352	16.8K		72	58	303	15	44	19	4723	2814	
#2940	瓦 70	軒平瓦	黒色漆→朱調漆	64.0K	7895	2640	2335	120	385	23.5K	102	62	73	470	6	41	17	5587	9242	
#2941				62.0K	7987	2654	2552	107	298	23.0K	185	27	15	413	22	25	28	6945	5556	
#2942				57.7K	7008	2524	2352	108	354	22.0K	83	57	33	440	4	27	23	5399	6803	
#2944	瓦 71	軒平瓦	黒色漆→生漆	3290	4664	4034	1439	19	818	32.6K	65	168	68	110	54	16	58	538	41	24
#2945				12.8K	12.6K	11.1K	4539	93	944	50.1K		100	65	186	56					

表2 指月伏見城跡出土金箔瓦の金位（金：銀配合比率％）

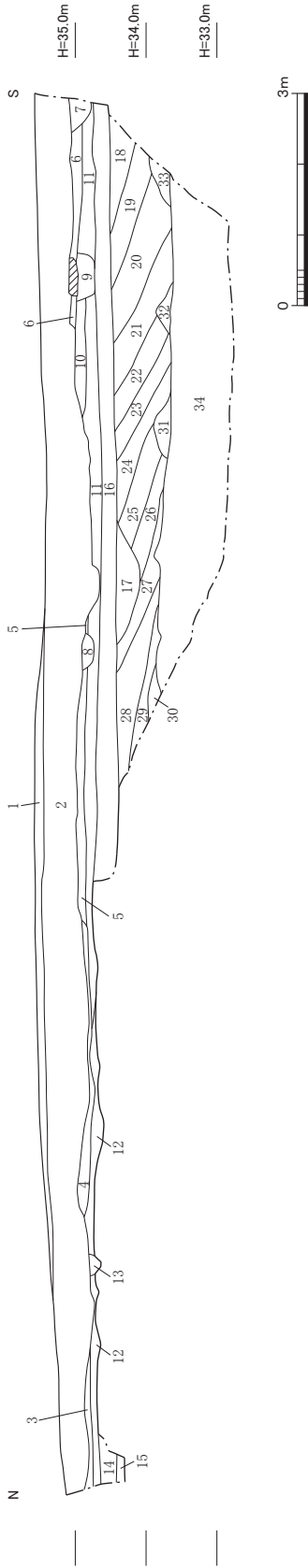
資料 No.	形態	箔下漆	Au (%)	Ag (%)
瓦 1-1	軒丸瓦	黒色漆	95.17	3.16
瓦 1-2			96.84	5178
瓦 1-3			95.34	4.55
瓦 1-4			93.76	6.24
瓦 1-5			95.84	4.16
瓦 2-1	軒丸瓦	朱潤漆	92.9	7.1
瓦 2-2			93.95	6.15
瓦 2-3			95.29	4.61
瓦 2-4			93.06	6.94
瓦 2-5			93.85	6.25
瓦 28-1	軒丸瓦	朱漆	96.65	3.35
瓦 28-2			96.22	3.78
瓦 28-3			96.68	3.32
瓦 38-1	軒丸瓦	黒色漆	97.74	2.26
瓦 38-2			97.83	2.17
瓦 38-3			97.55	2.25
瓦 46-1	軒丸瓦	生漆	97.32	2.68
瓦 46-2			96.53	3.47
瓦 46-3			96.49	3.51
瓦 47	軒平瓦		40	4450
瓦 61-1	軒平瓦	朱潤漆（上層）	95.28	4.72
瓦 61-2			95.43	4.53
瓦 61-3			94.96	5.04
瓦 61-4		黒色漆（下層）	99.9	0.01
瓦 61-5			99.8	0.02
瓦 61-6			100	0
瓦 65-1	軒平瓦	黒色漆	95.09	4.91
瓦 65-2			95.68	4.32
瓦 65-3			95.59	4.41

圖 版



- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 5~15cm の礫・レンガ片・瓦片など含む 現代盛土
- 2 10YR4/6 褐色細砂 + 10YR3/3 暗褐色細砂 φ 1cm 前後の小礫含む 近現代整地土
- 3 10YR4/6 褐色細砂 φ 3cm 前後の小礫含む
- 4 10YR4/6 褐色砂礫 10YR3/2 黒褐色泥砂含む
- 5 10YR4/4 褐色砂礫 10YR3/3 暗褐色泥砂含む
- 6 10YR4/3 1 黄褐色泥砂 φ 2cm 前後の小礫含む
- 7 10YR4/4 褐色泥砂 10YR4/4 褐色粗砂含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫含む
- 9 10YR4/3 1 黄褐色泥砂 φ 3cm 前後の小礫含む
- 10 10YR4/4 褐色泥砂 10YR4/4 褐色粗砂 φ 2~5cm の小礫・瓦片含む
- 11 2.5Y3/1 黒褐色泥砂 灰・φ 2~8cm の小礫・10YR4/6 褐色泥砂・瓦片含む [土坑28]
- 12 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2cm の小礫・10YR4/4 褐色シルト粒含む [柱穴132]
- 13 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫・10YR4/4 褐色泥砂含む [柱穴102]
- 14 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫・10YR4/4 褐色シルト粒含む [柱穴101]
- 15 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫含む [土坑46]
- 16 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 10YR4/4 褐色シルト粒含む [掘乱]
- 17 10YR4/4 褐色細砂 + 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫・瓦片含む
- 18 10YR4/4 褐色細砂 + 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 1cm 前後の小礫含む
- 19 10YR3/4 褐色細砂 泥 φ 2cm 前後の小礫含む
- 20 10YR4/4 褐色砂礫 10YR3/2 黒褐色泥砂・φ 2cm 前後の小礫含む
- 21 10YR3/2 黒褐色泥砂 10YR4/4 褐色砂粒・灰少量含む
- 22 10YR4/4 褐色泥砂 10YR4/2 灰黄褐色泥砂・φ 1cm 前後の小礫含む
- 23 10YR3/2 黒褐色泥砂 10YR4/4 褐色シルト粒・φ 1cm 前後の小礫含む
- 24 10YR4/3 1 黄褐色泥砂 10YR4/4 褐色砂礫・φ 2~5cm の小礫含む
- 25 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2cm 前後の小礫含む
- 26 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 10YR5/6 黄褐色シルト粒・φ 1cm 前後の小礫・瓦片含む 結まりあり
- 27 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 10YR5/6 黄褐色シルト粒・φ 3cm 前後の小礫含む 結まりあり
- 28 2.5Y4/2 暗灰黄色泥砂 10YR5/6 黄褐色シルト粒・φ 1cm 前後の小礫含む
- 29 10YR4/4 褐色粗砂 10YR3/2 黒褐色泥砂含む
- 30 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 3~8cm の小礫・瓦片多く含む
- 31 10YR4/3 1 黄褐色泥砂 10YR4/4 褐色細砂・φ 2cm 前後の小礫含む
- 32 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 3~8cm の小礫・瓦片・2.5Y4/2 暗灰黄色シルトブロック多く含む
- 33 10YR3/3 暗褐色泥砂 φ 2~5cm の小礫・10YR4/4 褐色シルト粒含む 10YR2/1 黒色砂泥礫状に含む
- 34 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂・φ 1cm 前後の小礫多く含む
- 35 10YR3/2 黒褐色泥砂 10YR4/6 褐色シルトブロック・φ 2cm 前後の小礫含む
- 36 10YR2/1 黒色砂泥 φ 1cm 前後の小礫・瓦片含む
- 37 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2cm 前後の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色泥砂含む
- 38 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 10YR4/4 褐色シルトブロック・φ 3cm 前後の小礫含む
- 39 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫多く含む
- 40 10YR2/1 黒色砂泥 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 41 10YR2/1 黒色砂泥 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/1 褐色シルト多く含む
- 42 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2~10cm の小礫・瓦片・10YR4/1 褐色シルト多く含む
- 43 10YR3/1 黒褐色泥砂
- 44 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 45 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 46 10YR3/2 灰黄褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 47 10YR3/1 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 48 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 2~10cm の小礫・瓦片含む
- 49 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 5~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 50 10YR3/1 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/1 褐色シルト多く含む
- 51 10YR3/2 黒褐色泥砂 + 10YR4/4 褐色砂礫 φ 5~10cm の小礫多く含む
- 52 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/4 褐色シルト多く含む
- 53 10YR2/1 黒褐色泥砂 φ 2~8cm の小礫・瓦片含む
- 54 10YR2/1 黒褐色泥砂 φ 2~8cm の小礫・瓦片含む
- 55 10YR3/2 黒褐色泥砂 φ 3~10cm の小礫・瓦片・10YR4/1 褐色シルト含む
- 56 10YR2/1 黒褐色泥砂 φ 2~10cm の小礫・瓦片・10YR4/1 褐色シルト含む
- 57 10YR3/1 黒褐色泥砂
- 58 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂 同色粗砂含む
- 59 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 60 2.5GY5/1 オリーブ灰色シルト + 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 61 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 62 10YR5/1 褐色粗砂
- 63 7.5YR4/6 褐色粗砂
- 64 2.5GY5/1 オリーブ灰色シルト 上位に10YR4/4 褐色シルトが筋状に堆積

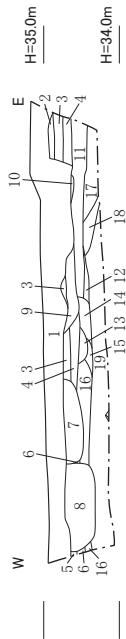
調査区西隣断面図 (1 : 100)



- 1 10YR8/2灰白色砂礫
- 2 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ5~15cmの小礫・レンガ片・瓦片など含む
- 3 10YR5/6黄褐色泥砂 φ1cm前後の小礫・10YR5/6黄褐色細砂・10YR4/4褐色シルト粒多く含む 硬く締まる
- 4 10YR4/4褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む 硬く締まる
- 5 10YR4/3こぶい黄褐色泥砂 φ2~5cmの小礫含む 硬く締まる
- 6 10YR4/4褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む
- 7 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ2cm前後の小礫含む 炭少量含む [ピット52]
- 8 10YR4/3こぶい黄褐色泥砂 [掃丸]
- 9 10YR3/2黒褐色泥砂 φ3~5cmの小礫含む [礎石54地業]
- 10 10YR3/4暗褐色泥砂 φ3~8cmの小礫含む
- 11 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む 硬く締まる
- 12 10YR3/4暗褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・φ1cm未満の小礫多く含む 硬く締まる
- 13 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ3cm前後の小礫含む [柱穴116]
- 14 10YR4/3こぶい黄褐色粗砂 φ1cm前後の小礫・10YR4/4褐色泥砂含む
- 15 10YR4/6褐色泥砂 φ3cm前後の小礫・10YR4/2灰黄褐色細砂含む
- 16 7.5YR4/6褐色砂泥 φ3~10cmの小礫含む
- 17 7.5YR4/4褐色砂泥 φ2~8cmの小礫含む
- 18 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂含む
- 19 10YR4/3こぶい黄褐色砂泥 φ2~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
- 20 10YR3/2黒褐色砂泥 φ3~8cmの小礫・瓦片含む
- 21 10YR3/2黒褐色砂泥 φ3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
- 22 10YR3/2黒褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂含む
- 23 10YR3/2黒褐色泥砂 φ3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
- 24 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルトブロック含む
- 25 10YR3/2黒褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂含む
- 26 10YR3/1黒褐色泥砂 φ3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂多く含む
- 27 10YR3/1黒褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂含む
- 28 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ3~8cmの小礫・瓦片含む
- 29 2.5Y/3黄褐色泥砂
- 30 10YR3/2黒褐色砂泥 φ3~8cmの小礫・瓦片含む
- 31 10YR3/1黒褐色シルト 10YR4/1褐灰色細砂含む
- 32 10YR3/2黒褐色シルト
- 33 10YR3/2黒褐色砂泥
- 34 10YR2/1黒色泥砂 φ3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルトブロック含む

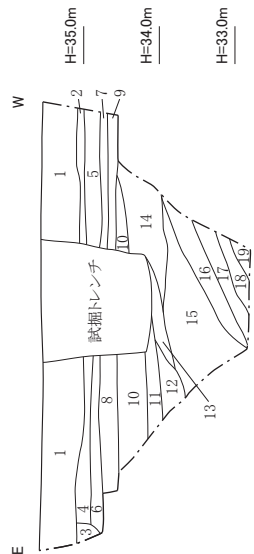
調査区東壁断面図 (1 : 100)

北壁



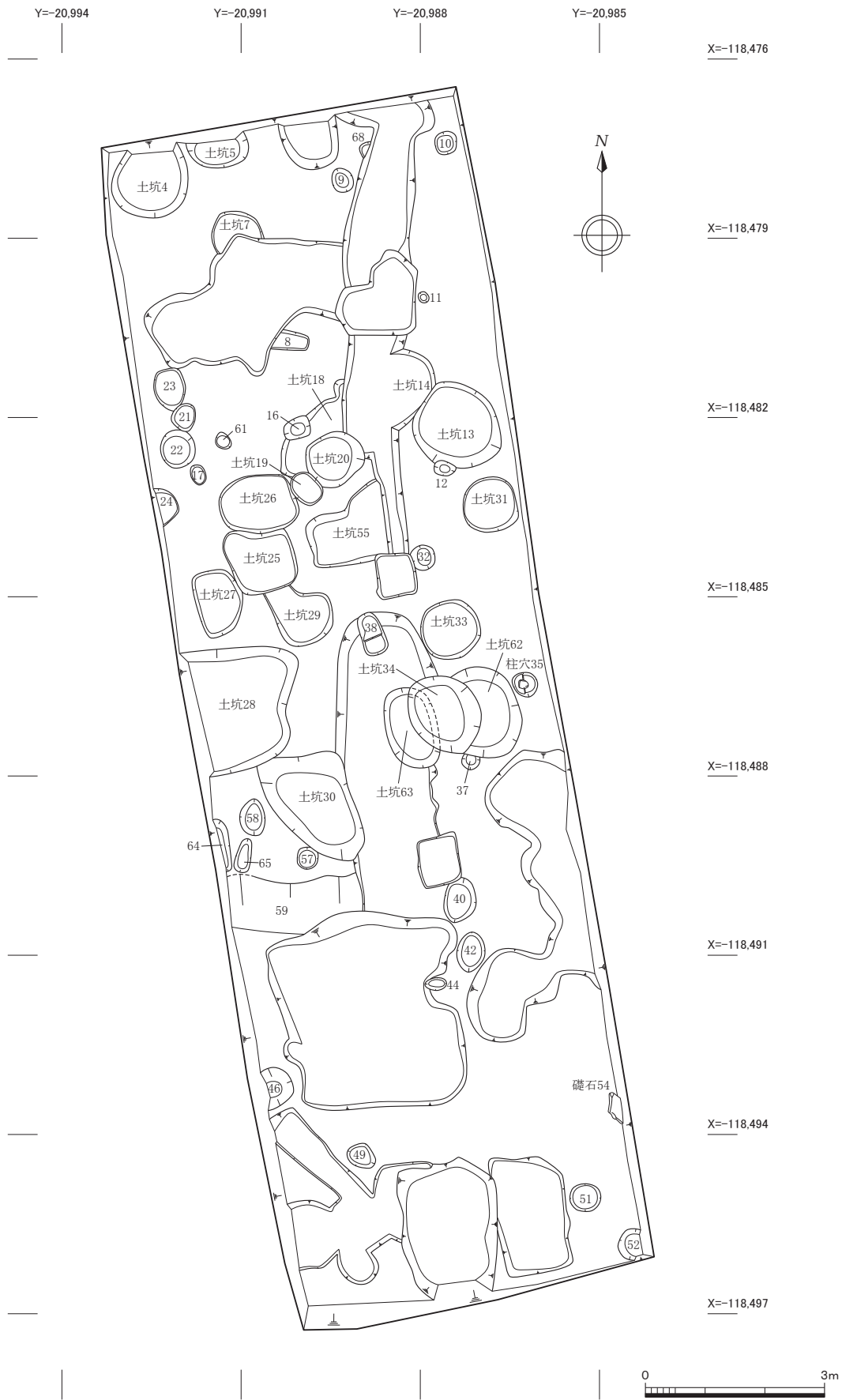
- 1 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ 5~15cmの礫・レンガ片・瓦片など含む 現代盛土
- 2 10YR4/4褐色泥砂 φ 1cm未満の小礫・10YR4/4褐色細砂多量含む 硬く締まる 近現代整地土
- 3 10YR5/6黄褐色泥砂 φ 1cm前後の小礫・10YR5/6黄褐色細砂・10YR4/4褐色シルト粒多量含む 硬く締まる [第1層]
- 4 10YR3/4暗褐色泥砂 φ 3cm前後の小礫 φ 1cm未満の小礫多量含む 硬く締まる [第2層]
- 5 10YR4/2暗黄褐色泥砂 10YR5/6黄褐色シルト粒・φ 3cm前後の小礫含む
- 6 2.5Y4/2暗黄褐色泥砂 10YR5/6黄褐色シルト粒・φ 1cm前後の小礫含む [第3層]
- 7 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 5cm前後の小礫・瓦片多量含む
- 8 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫・2.5Y4/2暗黄褐色シルトブロック含む [礫乱]
- 9 10YR4/4褐色粗砂 φ 2~5cmの小礫・10YR3/4暗褐色砂泥含む
- 10 10YR3/4暗褐色砂泥
- 11 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂 10YR4/4褐色泥砂・φ 1cm前後の小礫含む [第4層]
- 12 10YR4/4褐色泥砂
- 13 10YR4/1褐灰色砂泥 φ 2cm前後の小礫含む
- 14 10YR3/3暗褐色泥砂 φ 2~5cmの小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む
- 15 10YR5/2暗黄褐色砂泥 φ 3cm前後の小礫少量含む [整地208]
- 16 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 3~8cmの小礫・瓦片多量含む
- 17 10YR4/6褐色泥砂 φ 3cm前後の小礫・10YR4/2暗黄褐色細砂含む
- 18 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 3cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む
- 19 10YR3/2黒褐色砂泥 φ 3~8cmの小礫・瓦片・2.5Y4/2暗黄褐色シルトブロック多量含む [第4層]

南壁

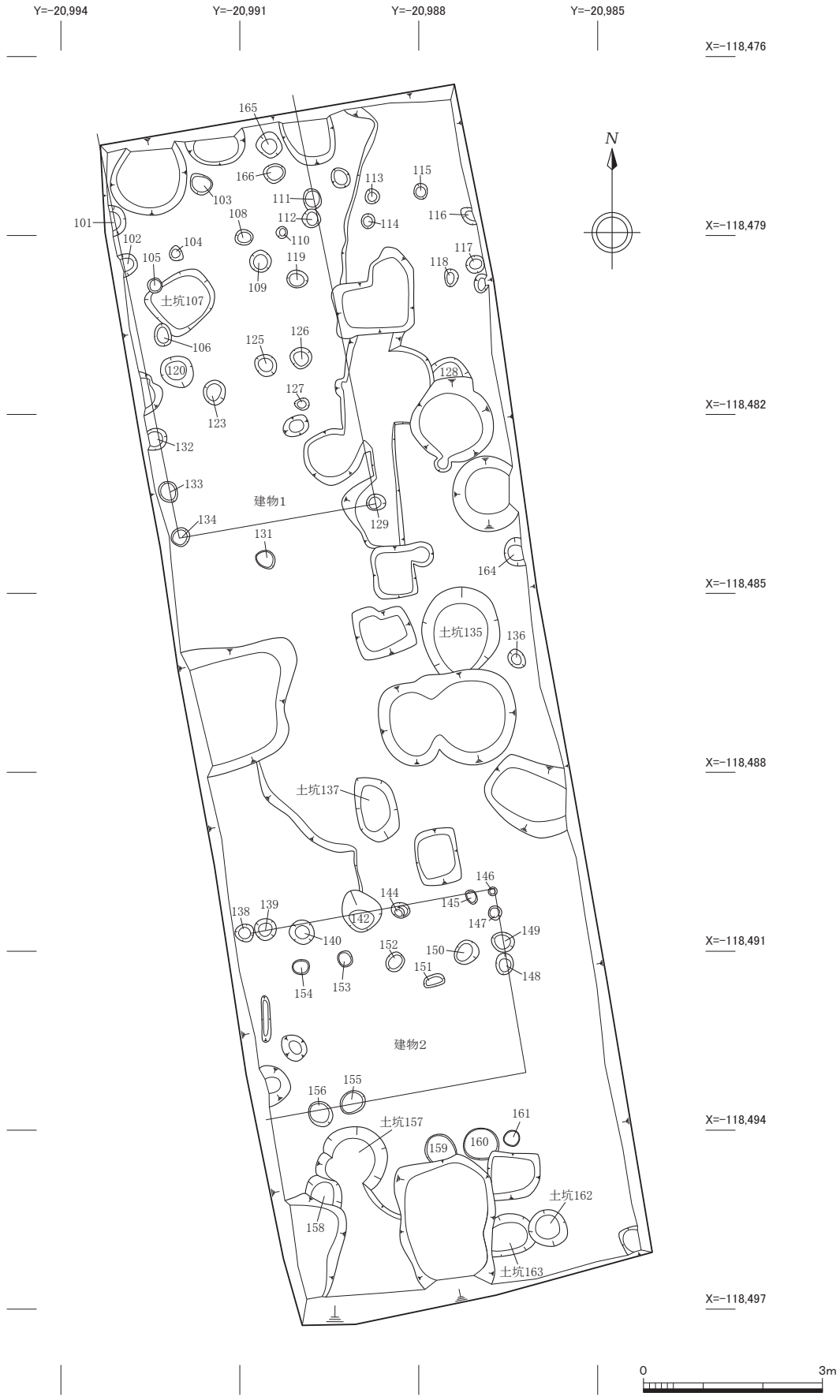


- 1 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 5~15cmの礫・レンガ片・瓦片など含む [第1層]
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ 2cm前後の小礫含む
- 3 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 2cm前後の小礫含む 灰少量含む [ヒート52]
- 4 10YR4/4褐色泥砂 φ 2cm前後の小礫含む [第2層]
- 5 10YR4/4褐色泥砂 10YR4/4褐色粗砂・φ 2~5cmの小礫・瓦片含む
- 6 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 3cm前後の小礫・10YR4/4褐色シルト粒含む 硬く締まる [第3層]
- 7 10YR4/4褐色粗砂+10YR3/2黒褐色泥砂 φ 2~5cmの小礫・瓦片含む
- 8 7.5YR4/6褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫含む [第4層]
- 9 10YR2/1黒色砂泥 φ 1cm前後の小礫・瓦片含む
- 10 10YR4/2暗黄褐色泥砂 φ 3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色細砂含む
- 11 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 φ 2~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
- 12 10YR3/2黒褐色砂泥 φ 3~8cmの小礫・瓦片含む
- 13 10YR3/1黒褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
- 14 10YR2/1黒色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルトブロック含む
- 15 10YR2/1黒色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルト多く含む
- 16 10YR2/1黒色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルト多く含む
- 17 10YR2/2黒褐色泥砂 φ 5cm前後の小礫・瓦片・10YR4/2暗黄褐色細砂含む
- 18 10YR3/4暗褐色砂泥 φ 3cm前後の小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト含む
- 19 10YR2/1黒色砂泥 φ 2~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐灰色シルト多く含む

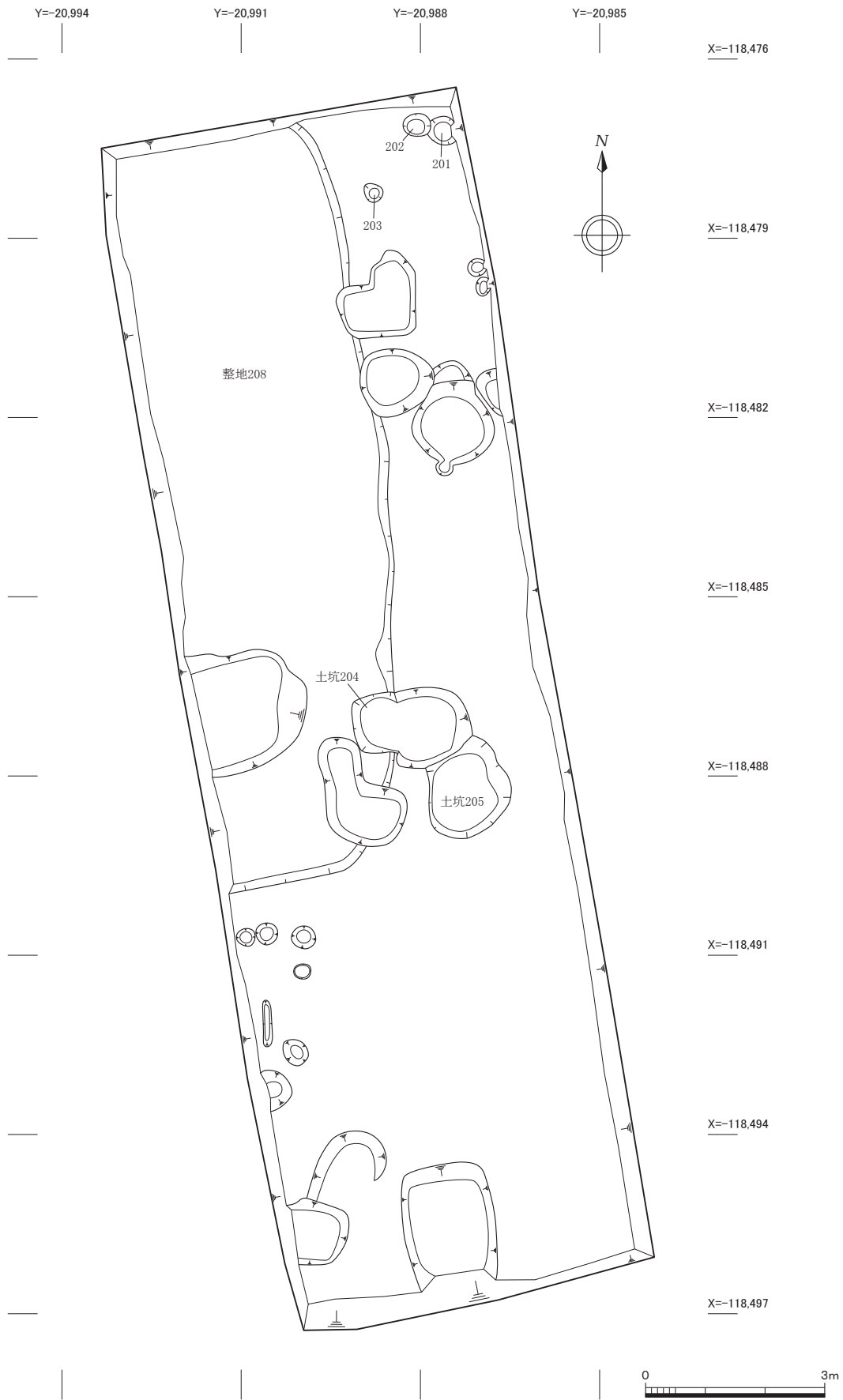
調査区北・南壁断面図 (1 : 100)



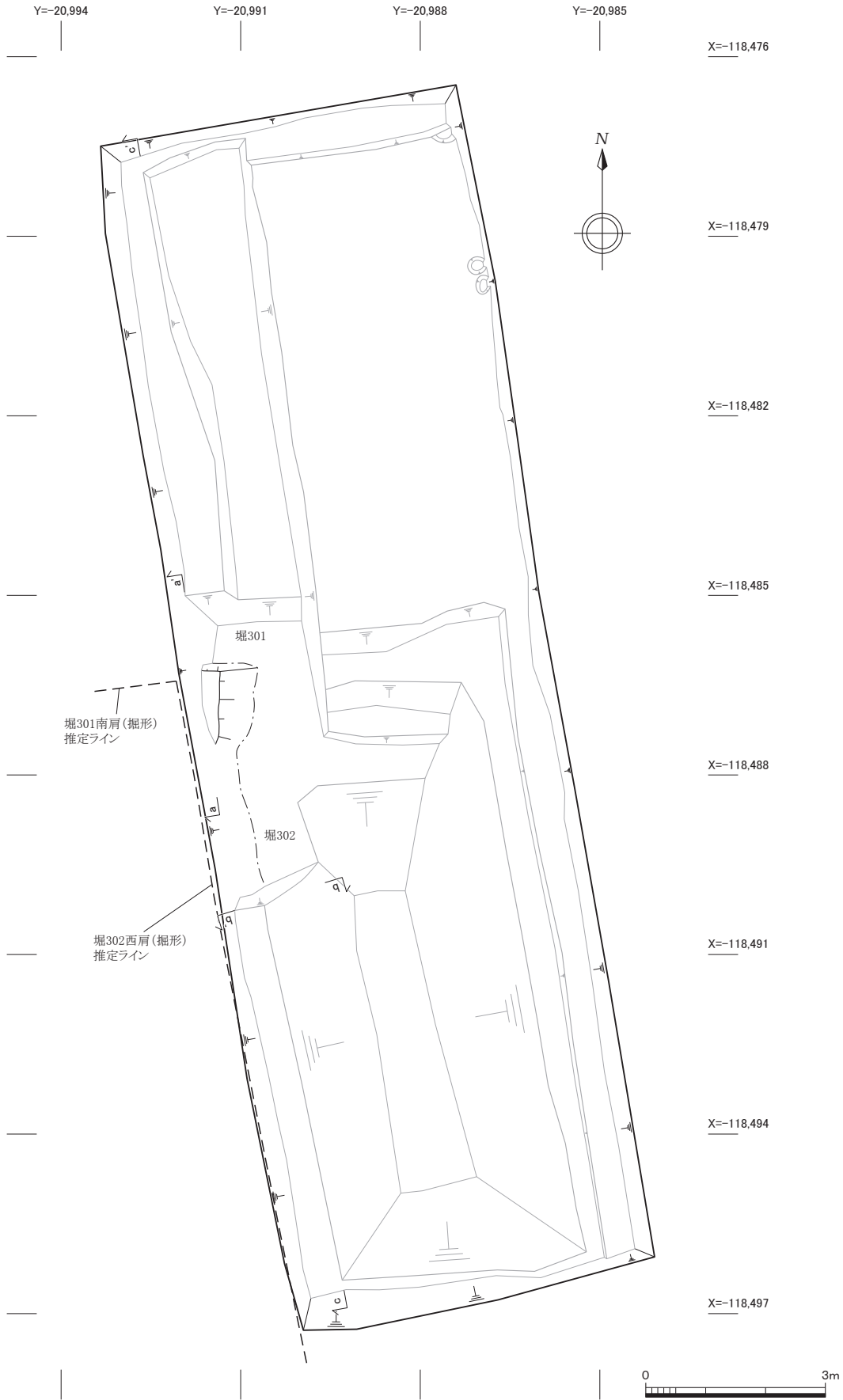
第1面平面图 (1 : 100)



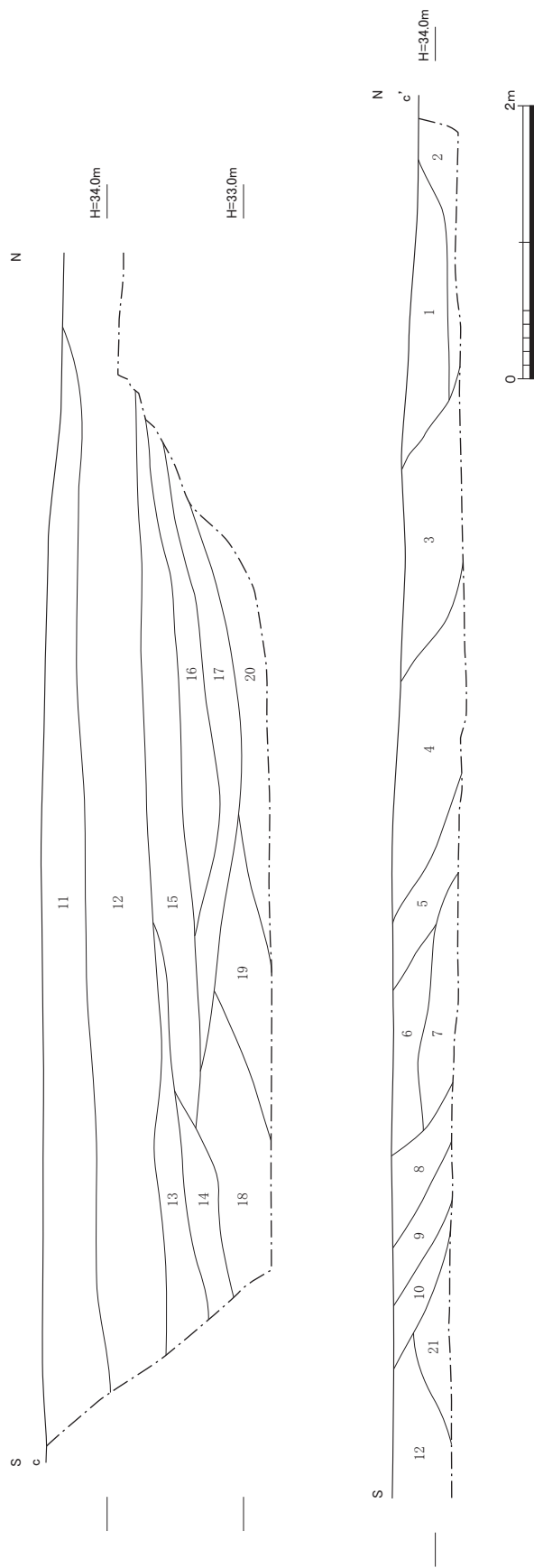
第2面平面图 (1 : 100)



第3面平面图 (1 : 100)



堀301・302平面図 (1 : 100)



- [掘301]
- 1 10YR3/2黒褐色泥砂 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 2 10YR3/2黒褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 3 10YR4/2灰黄褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 4 10YR3/1黒褐色泥砂 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 5 10YR3/2黒褐色泥砂 φ 2~10cmの小礫・瓦片 含む
 - 6 10YR4/2灰黄褐色泥砂 φ 5~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 7 10YR3/1黒褐色泥砂 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト多く含む
 - 8 10YR3/2黒褐色泥砂+10YR4/4褐色砂礫 φ 5~10cmの小礫多く含む
 - 9 10YR4/2灰黄褐色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト多く含む
 - 10 10YR4/3にぶい黄褐色泥砂 φ 3~10cmの小礫・瓦片 多く含む
 - 11 10YR2/1黒色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/4褐色シルト含む
 - 12 10YR2/1黒色砂泥 φ 3~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト多く含む
 - 13 10YR2/2黒褐色泥砂 φ 5cm前後の小礫・瓦片・10YR4/2灰黄褐色細砂含む
 - 14 10YR3/4暗褐色砂泥 φ 3cm前後の小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト含む
 - 15 10YR3/2黒褐色泥砂 φ 2~10cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト含む
 - 16 10YR3/2黒褐色泥砂
 - 17 10YR3/2黒褐色砂泥 φ 3~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト多く含む
 - 18 10YR2/1黒色砂泥 φ 2~8cmの小礫・瓦片・10YR4/1褐色シルト多く含む
 - 19 10YR3/2黒褐色砂泥 φ 5cm前後の小礫・10YR4/1褐色シルト含む
 - 20 10YR1.7/1黒色泥砂 φ 2~5cmの小礫・瓦片 多く含む
 - 21 10YR3/1黒褐色砂泥 φ 3~8cmの小礫・瓦片 多く含む
- [掘302]

掘301・302断面図2 (1:50)



1. 第1面全景（南から）



2. 第1面俯瞰（上が西）



1. 調査区北部第1面柱穴群完掘状況（南西から）



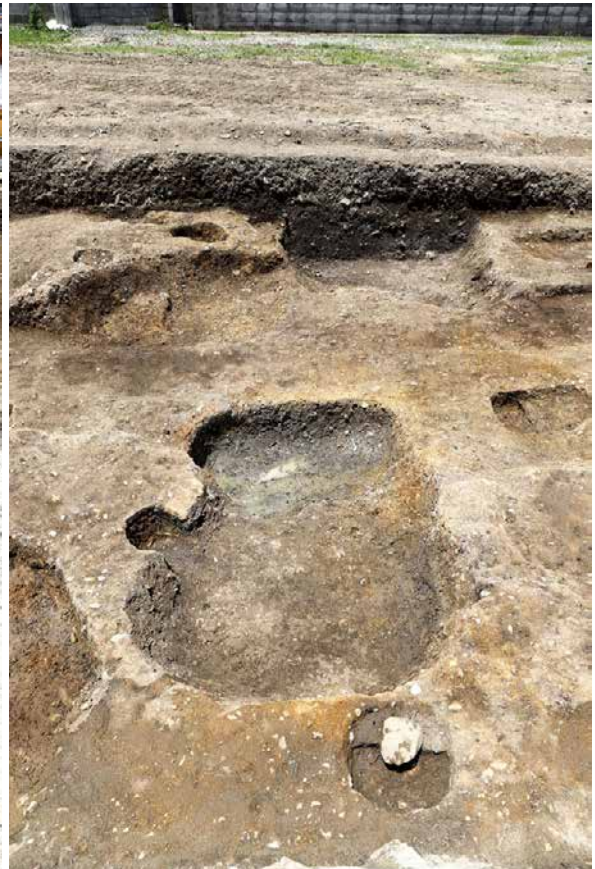
2. 柱穴35（東から）



3. 礎石54（南西から）



4. 土坑13・31（南東から）



5. 土坑28・30・34・62・63（東から）



1. 第2面全景（南から）



2. 第2面俯瞰（上が西）



1. 調査区北部第2面柱穴群完掘状況（東から）



2. 調査区中央第2面柱穴群完掘状況（東から）



3. 土坑107（南西から）



1. 第3面全景（南から）



2. 第3面俯瞰（上が西）



1. ピット201・202・203（東から）



2. 土坑204・205（東から）



1. 掘埋土断割り後全景1 (南から)



2. 掘埋土断割り後全景2 (南東から)



1. 調査区南壁断面（北から）



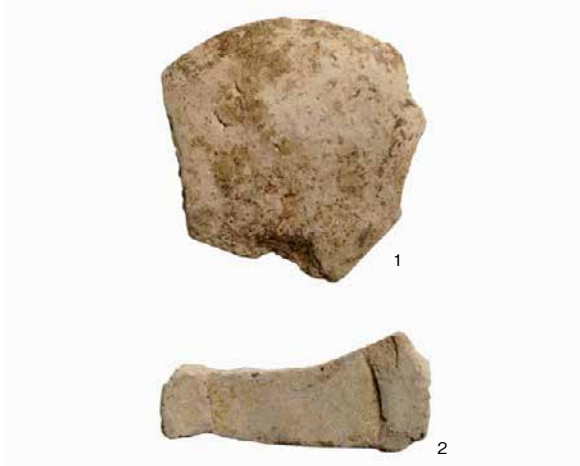
2. 調査区南半東壁断面（西から）



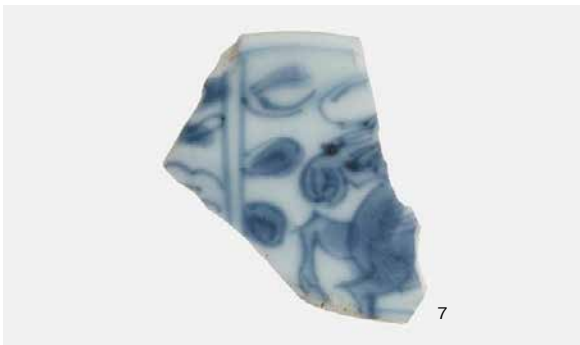
1. 調査区南半西壁断面（東から）



2. 調査区西壁断面（堀301・302接合地点 東から）



1. 出土遺物 1 (土師器、緑釉陶器)



2. 出土遺物 2 (染付)



3. 出土遺物 3 (土師器)



4. 出土遺物 4 (唐津、志野)



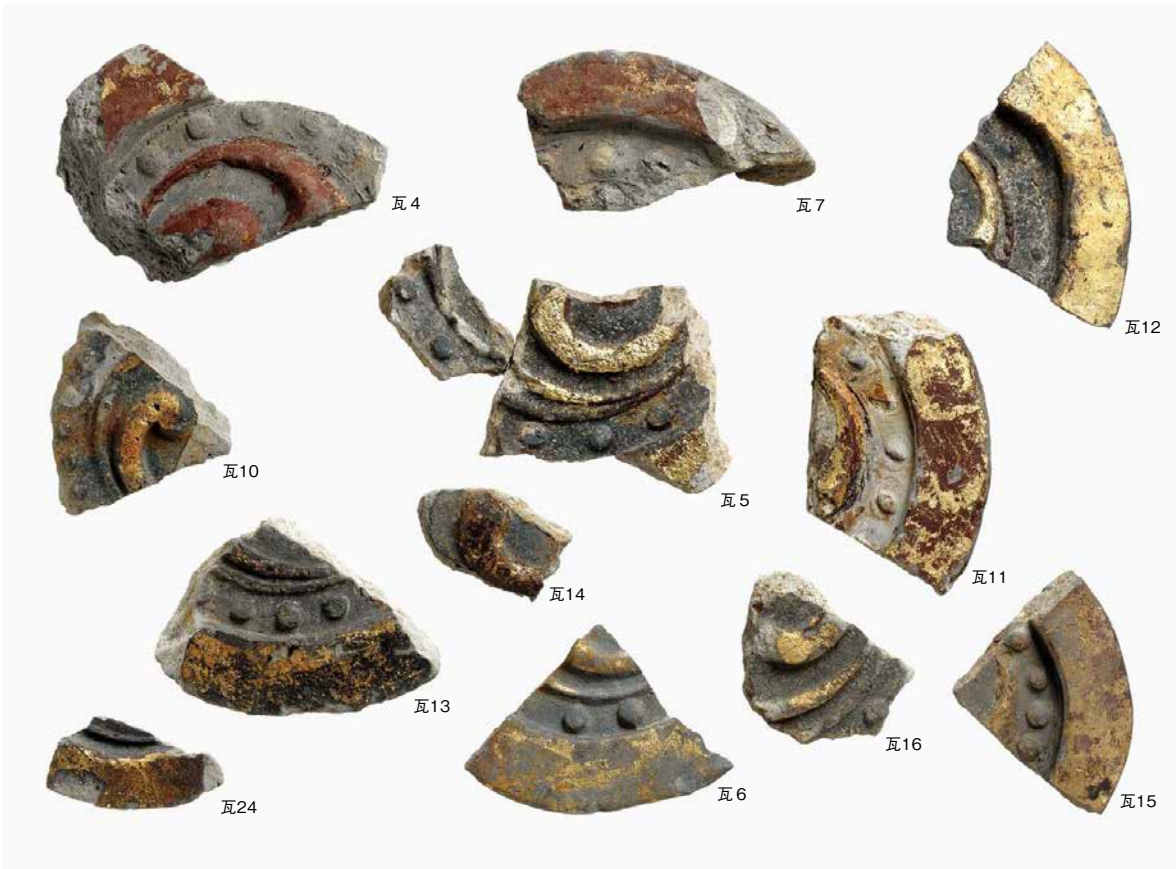
1. 出土遺物 5 (瓦質土器)



2. 出土遺物 6 (焼締陶器)



3. 出土遺物 7 (土師器、施釉陶器、焼締陶器、土製品)



1. 出土遺物 8 (金箔瓦 1)



1. 出土遺物9 (金箔瓦2)



1. 出土遺物10 (金箔瓦3)





瓦77



瓦84



瓦78



瓦85

1. 出土遺物12 (軒丸瓦、道具瓦)



瓦76



瓦81



瓦80

2. 出土遺物13 (軒丸瓦)



瓦87



瓦79

3. 出土遺物14 (面戸瓦)

4. 出土遺物15 (軒平瓦)



1. 出土遺物16 (軒棧瓦、軒平瓦)



2. 出土遺物17 (金属製品)



3. 出土遺物18 (漆器)



4. 出土遺物19 (木製品)

報告書抄録

ふりがな	ふしみじょうあと・しげつじょうあとはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	伏見城跡・指月城跡発掘調査報告書							
シリーズ名	文化財サービス発掘調査報告書							
シリーズ番号	第37集							
編著者名	大西晃靖 興梠千春							
編集機関	株式会社 文化財サービス							
所在地	〒601-8127 京都市南区上烏羽北花名町8番地							
発行所	株式会社 文化財サービス							
発行年月日	2026年5月29日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしみじょうあと 伏見城跡 しげつじょうあと 指月城跡	きょうととしふしみく 京都市伏見区 ももやまちょうたうちうり 桃山町立売 28ばん 29ばん 28番、29番	26100	1180 1172	34度 55分 54秒	135度 46分 13秒	2025年 6月5日 ～ 2025年 7月28日	118.8㎡	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡 指月城跡	城館 城館	平安時代 ～ 鎌倉時代 安土桃山時代 ～ 江戸時代初頭	堀・掘立柱建物・ 柱穴・土坑	土師器・緑釉陶器・ 瓦器・銭貨 土師器・施釉陶器・ 焼締陶器・染付・ 瓦質土器・金箔瓦・ 軒平瓦・軒丸瓦・ 軒棧瓦・鬼瓦・丸瓦・ 平瓦・道具瓦・埴・ 木製品・金属製品		<p>・指月城北堀及び内堀とみられる地山の落込みを確認。調査区中央付近の調査区西壁で、北堀南肩と内堀西肩が接合することを確認。</p> <p>堀埋土及びその上位に堆積する整地土から多量の金箔瓦が出土。金箔の残りが良好なものが多い。金箔瓦は聚楽第跡出土瓦と同範のものもあり、金箔が貼り直された痕跡がみられるものが半数近く存在する。整地土からは瓦当面に「国土安穩 ○下太平 ○正八年山口作」と記された文字瓦も出土した。</p> <p>・堀埋土の上位に敷設された整地土上面の遺構群は、木幡山伏見城期に属すると考えられる。掘立柱建物や小規模な土坑などを検出し、調査地周辺は町家として利用されたと考えられる。</p> <p>・表土直下で検出した遺構群は、17世紀後半～18世紀に属するものが中心である。検出した遺構は柱穴群や小規模な土坑で、江戸時代以降も町家として土地利用がなされたと考えられる。</p>		
		江戸時代	柱穴・土坑	土師器・施釉陶器・ 焼締陶器・染付・ 軒丸瓦・軒平瓦・ 軒棧瓦・丸瓦・平瓦・ 棧瓦・金属製品				

文化財サービス発掘調査報告書 第37集

伏見城跡・指月城跡 発掘調査報告書

発行日 2026年5月29日

株式会社 文化財サービス

編集 〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町8番地

TEL 075-672-6800

三星商事印刷株式会社

印刷 〒602-8358 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273

TEL 075-467-5151